九州の風景街道



	人口	面積
福岡県	510万人	4986㎢
佐賀県	83万人	2441㎢
長崎県	138万人	4132㎢
熊本県	179万人	7409㎢
大分県	117万人	6341㎢
宮崎県	110万人	7735㎢
鹿児島県	165万人	9188㎢

2015/10/1 国調速報

千年の門をくぐり　万年億年続く九州を巡る

日本風景街道 九州 Q-SHU Scenic Byway

日本風景街道 ながさきサンセットロード

日本風景街道 Q-2日豊海岸 Scenic Byway

日本風景街道 Q-11 みどりの里 Scenic Byway

日本風景街道 Q-7玄界灘 Scenic Byway

日本風景街道 Q-14 薩摩 Scenic Byway

日本風景街道 Q-13あまくさ Scenic Byway

目次

一　魅惑の九州風景街道へようこそ　・・・・・・1
　1　九州における風景街道とは―その基本は何か
　2　協議会と道守・道の駅が連携する九州の風景街道
　3　七県7色に輝く多彩な九州の風景街道を行く

二　九州の地域資源の特色を探る　・・・・・・7
　それぞれの風景街道めぐりに向けて
　1　九州の地質は古生層、火山噴出、付加体の3つだ
　2　連なる山々、少ない平地、多島海の九州
　3　3タイプの気候の中　温帯、亜熱帯に跨る九州
　4　国立・国定公園の指定とジオパーク、ラムサール
　5　九州に多い「棚田百選」

三　神話時代からの長い歴史を刻む九州の風景街道地域　16
　1　九国二島の古代から江戸期を経て七県体制へ
　2　わが国の歴史を物語る九州の風景街道

四　九州を周回する十四の風景街道とは　・・・・・28
　「人のくに　美のくに」九州の14ルートを巡ろう
　1　日出ずる温暖の太平洋沿岸を行く東九州
　2　邪馬台国への道、玄海灘沿岸を進む九州北部
　3　サンセットの半島・離島をドライブする西九州
　4　山々を越え、ツーリズムを楽しむ九州横断
　5　風景街道をつなぎ長期回遊のプランを組立てる

厳しくもさまざまな大自然を舞台に



①　荒ぶる東シナ海に浮かぶ甑大明神と甑大明神橋（薩摩川内市上甑島）

歴史の足跡を残しつつ暮らす九州



②　勝海舟、坂本龍馬も駆け抜けた参勤交代の道・肥後（豊後）街道の境の松坂（産山村）と今市宿(大分市)

その上に構築された
九州の風景街道を訪ね行く



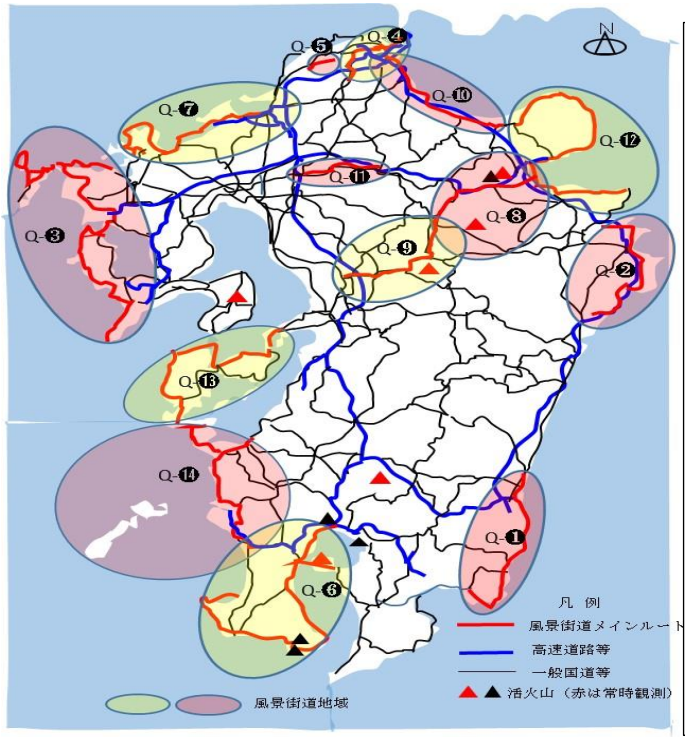
稲作の伝来、遣唐使、元寇、参勤交代と見続けてきた
歴史の証人・玄界灘と生の松原（福岡市西区）



原爆、壊滅的な戦災、アジアの
荒波をやっとに乗り越え復活

③　原爆犠牲者の冥福を祈る平和祈念像（長崎市松山町、平和公園）

九州を巡る風景街道の 14 ルート（2015）



東九州(太平洋沿岸)　・・・・・　30
Q-❶　日南海岸きらめきライン
Q-❷　日豊海岸シーニック・バイウェイ
Q-⓬　別府湾岸・国東半島海辺の道
Q-⓾　豊の国歴史ロマン街道
九州北部(玄界灘沿岸)　・・・・・　35
Q-❹　北九州おもてなし“ゆっくりがいどう”
Q-❺　ちょっとよりみち唐津街道むなかた
Q-❼　玄海灘風景街道
西九州(東シナ海沿岸)　・・・・・　39
Q-❸　ながさきサンセットロード
Q-⓭　あまくさ風景街道
Q-⓮　薩摩よりみち風景街
Q-❻　かごしま風景街道
九州中央横断　・・・・・44
Q-❽　九州横断の道やまなみハイウェイ

	連絡先	☎	🖂
Q-❶	（一財）みやざき公園協会内	0985-25-7410	
Q-❷	（一社）佐伯市観光協会	0972-23-1101	sata@bloom.ocn.ne.jp
Q-❸	長崎県土木部道路維持課	095-894-3143	
Q-❹	長崎街道を愛する会	090-5028-8784	tomoaki_inoueo1@city.kitakyushu.lg.jp
Q-❺	宗像市都市建設部都市計画課	0940-36-1484	toshikei@city.munakata.fukuoka.jp
Q-❻	ＮＰＯ法人かごしま探検の会	099-227-5343	info@tankenokai.com
Q-❼	唐津市企画経営部企画政策課	0955-72-9115	kikaku@city.karatsu.lg.jp
Q-❽	大分河川国道事務所調査第二課	097-544-4167	oita@qsr.mlit.go.jp
Q-❾	九州横断の道阿蘇くまもと路事務局	096-387-6671	hotol213@bronze.ocn.ne.jp
Q-❿	ＮＰＯ法人足立山麓文化村	093-921-3165	npo_bunkamura@yahoo.co.jp
Q-⓫	久留米市農政部みどりの里づくり推進	0942-30-9165	midori@city.kurume.fukuoka.jp
Q-⓬	ＮＰＯ法人ウォーターフロント研究会	097-538-9666	toshimitsu@planning-oita.jp
Q-⓭	熊本県天草広域本部総務振興課	096-22-4214	
Q-⓮	阿久根商工会議所	0996-72-1185	

九州風景街道推進協議会事務局（九州地方整備局道路計画第二課内）
092-476-3513　fukeikaido@qsr.mlit.go.jp

魅惑の九州風景街道へようこそ

古事記に、よく知られた国生みの神話がある。伊邪那岐（イザナギ）・伊邪那美（イザナミ）の二神が、わが国の島々を創成した話だ。矛で混沌をかき混ぜて淤能碁呂（オノゴロ）島をつくり、そこで大八島国が生まれた。その四つ目が筑紫島（つくしのしま）で九州本島である。これに伊伎島（いきのしま。壱岐島）、津島（つしま。対馬）が続く。その後、6島が加わった。うち、女島（ひめじま。大分県国東半島の姫島）、知訶島（ちかのしま。五島列島）、両児島（ふたごのしま。長崎県五島市の男女群島）がまた九州の島々である。

国生みにおける14の島のうち、実に4割の6つまでが九州である。大陸から分離したと思える前段の3島。その後も、後から後から噴火や地殻変動が続いて生まれた島々。その数が全国の相当を占めることからすると、国生み神話までが、島々からなる九州の地理的特徴を物語っている。

九州の島々をまとめて単に「九州」と呼ぶ。しかし、それがいつ頃からか、どの範囲かは定かでない。古代の五畿七道に従えば九州は「西海道」であり、九つの国(州)に分けられ（三章1節）、これに壱岐、対馬を加えて「九国二島」といわれた。

あるいは、鎌倉時代には鎮西探題が置かれたことから「鎮西（西方を鎮めるの意味）」とも称した。そして明治の廃藩置県・府県合併の後、九国二島は7県に整理され、これに沖縄県を含めて、広く「**九州**」と称するようになった。

とはいえ沖縄は、島津が支配する以前は九州とは別の「琉球王国」であった。また、第二次太平洋戦争後しばらくはアメリカ合衆国の統治下にあった。そして現在、国の出先機関に関し沖縄開発庁が置かれ、九州地方整備局などとは別扱いである。これらから、沖縄を除いて九州、あるいは九州・沖縄地方と、沖縄を別にすることが多い。本文も九州本土の7県の総称に九州を用いる。

さて、高天原から見渡せば、九州は、日本の中で最も西に位置する。多くの火山を抱え、地形・地質は大変変化に富む。亜熱帯、温帯に跨る気候や植生をなすことから、自然環境は複雑である。アジア大陸に近い地理条件から、旧石器時代の数万年以上も前から人々が住みつき、歴史を刻んできた。これらから、九州の地に様々な文明・文化が発達。それらは九州人にとって誇りであるとともに、国内外の皆さんに是非見て戴きたいとの思いがある。

つまり、九州巡りは、多様な地形・地質、自然および九州人の手で刻んだ歴史の軌跡を訪ねることである。発達した九州固有の文明を垣間見ることだ。同時に、場所ごとに様変わりする九州の姿を満喫し、暮らしや風習に触れ、楽しみ、体験することでもある。

九州風景街道は、このことを十分に配慮し構築されている。観光巡りだけでない。人の営みを含め、ありのままの九州を堪能し、交流を深め、九州文化を深く理解することを企図している。

しかし、その効果を発揮させるためには、七県七色ともいわれる多彩な九州の何をどのように巡ればよいかを明らかにしなければならない。それらにどんな意味や面白さ、物語があるか。どんな演出やもてなしが期待できるか。事前に知ることが望ましい。

そこで、九州に設定された多くの風景街道について、その全体像を紹介し、その上でルートごとのガイドブックを別途作成しお届けする。九州を巡る前に、「読んでみんしゃい」だ。その上で、「来てみんしゃい、見てみんしゃい、楽しんでみんしゃい、人のくに、美のくに九州を」が、本シリーズ作成の狙いである。





図1　九州と古事記神話の国産みのイメージ図

1　九州における風景街道とは-その基本は何か

(1)　休暇街道とシーニック・バイウェイ

国内外を問わない交流社会の拡大と経済発展から、日頃は多忙な仕事、目まぐるしい生活の中にある。その一方で、時に体を休める旅、普段接することのできない人々との触れ合い、個人の趣味を生かす旅が望まれる。人生の糧となる体験にも目を向ける。そして、その一形態が各地を寄り道する旅であり、これに先鞭をつけたのがドイツの**休暇街道**である。あるいは、車社会の中で大自然を回遊しつつ展開を図ったのがアメリカの**シーニック・バイウェイ（SB）**である。

前者は観光街道とも呼ばれるが、単に限られた観光地を巡るものでない。本来は優れた景色や自然に触れ、史跡、歴史、教会、工芸品、由緒あるまちなどを訪ね、各人が思い思いの休暇を楽しみ、心身をリフレッシュするものである。したがって、回遊や寄り道の基本はドライブだが、それ以外にもバスや鉄道、サイクリング、ウォーキングなど人それぞれのスタイルや組み合わせが可能である。だからこそ、世界から多くの人々が歳に関係なく引き寄せられ、また、そのリピーターが多い。

休暇街道で最も古いものはアルペン街道。いまから約90年前の設定である。以来、通商路や軍用路などの歴史街道を主にして整備が図られた。特に、第2次大戦後の設定が多く、いまや国内だけでも150のコースを数え、隣国へと国境を越えるものもある。

一方、米国のSBは、1989年制定のシーニック・バイウェイ法にもとづく。大自然の中で風光明媚な寄り道、脇道を巡る回廊の整備と活用を内容としている。

１９８０年代、アメリカでは国内旅行が活発化し、幹線道路を単に突っ走るだけが旅でないとした。つまり、景観、歴史、自然、文化、レクレーションおよび考古学に優れた地域を指定し、寄り道を整備し、地域振興を図ることを目的にする新たな旅が提案された。それをルートの内容と重要さに応じ、国全体で2段階に指定し、加えて州、自治体の指定がある。全部で４タイプのＳＢが構築されている。

バージニア州からノースカロライナ州に至るブルーリッジパークウェイ(延長７５５㎞)が最初の指定で、最上級のオールアメリカンロードである。広大な自然公園の中で、地域資源や町々を巡るが、年間２００万人を超える来訪者があるとのことだ。

休暇街道とＳＢは、結果的に類する意味の旅である。しかし、強いていえば、そもそもの地域がもつ資源と導入の背景が異なる。前者は自然以外の地域資源あふれる中で自然資源も並ぶ。一方、ＳＢは自然資源あふれる中で、それ以外の地域資源をも掘り起こしつつ、目を向けさせるものだ。この微妙な違いが旅の性格や地域資源相互の関係、地域への影響を異にしている。

ところで、足元を見ればわが国もまけていない。江戸時代から、伊勢参り、熊野詣、四国八十八か所巡りなどがある。これらは、町々に寄り道しての「やじさんきたさん」の寺社詣である。したがって、どちらかといえば休暇街道に近い。

これに対し、最近、アメリカのＳＢに類したものが自然の豊かさを背景に北海道で導入された。これを機に、わが国も全国でＳＢの設定を目指し、そうした街道づくりが広まっている。それが**日本風景街道**である。

九州も、この動きの中で、２００７年から２０１５年までに１４の風景街道が指定された(本章3節および四章)。それらをみると、ＳＢ型の先進事例北海道とは明らかに異なる。結果的に暮らしやまちの歴史、遺跡、文化等に重点を置くものが多数である。これから、九州では休暇街道型が主といってよい。そこで、以下はそうした観点から九州の風景街道とは何か。その基本は何かを述べよう。

寄り道　ロマンチック街道

休暇街道の中で日本人がよく訪れるのは「ロマンチック街道」。正式には「ローマへの巡礼の道」である。ロマンチックは情緒の意味ではない。

ドイツ南部のヴェルツブルクからアルプス越えのフュッセンまで、全長３６６㎞。１９５０年の指定だが、中世都市、美しい城、宗教建築、ワイン産地への寄り道がちりばめられている。

北から南へ向かえば、ヴュルツブルクの司教館・レジデンツがある。バロック風様式で世界遺産だ。また、中世の町並みがそのまま遺るローテンブルク・オプ・デア・タウバーは「ロマンチック街道の宝石」といわれている。

ロマンチック街道の中心的都市アウクスブルクはドイツでも古いまちである。紀元１５年にローマ人の手で建設された。そして、最も多くの観光客を集めているのがシュヴァンガウのホーヘンシュヴァンガウ城、ノイシュヴァンシュタイン城という2つである。


ノイシュヴァンシュタイン城

(2)　九州の風景街道とは、それを構成する3つの要素の意味は

先ずは、九州の風景街道は何かを理解するヒントに次の二つの旅のことをあげる。

一つは、高速道路を身近に利用し観光地巡りする時代とはいえ、時に一般道や街の道をのんびりとドライブする旅が好きな人もいることだ。ビッグな観光地を、高速道路をメインルートにして駆け足で走るだけが旅でない。むしろ高速道路はサブの役割である。それによるアクセスで、暮らしの中の安らぎを求めるまち歩き、有名でなくても地域に関心を抱きゆっくり巡る心の旅がある。癒しの旅、体験の旅、学習の旅なども。

今一つは、外国人の入込観光で、一時期、クルーズ船による観光客の爆買いが話題となったが、最近、その質に変化がみられることである。観光で爆買いとはさすがに異常。それにしても観光事業というとき、魅惑の観光資源、土産物あさり、効率的回遊、宿泊、観光産業の振興などの話題が多い。その一方で、必ずしもビッグでないが、多彩な地域資源に興味を抱き、それを目的に寄り道する人々がいる。この傾向はリピーターほど強く、今後の外国人観光の重要なスタイルになるだろう。

高速道路メインの旅や通常の外国人観光が主流とはいえ、明らかにそれと性質が異なる旅があり、前述の２つそれぞれに述べた後者の旅こそが九州の風景街道のねらいである。これを突き詰めると、後述の「地域資源」、「来訪者」、「地域のもてなし」の３者に沿う旅の仕組みが考えられ、ゆとりや体験などを楽しむローカルな旅が浮かび上がる（図2）。むろん、この考えは休暇街道もＳＢも同じで、単にＳＢの訳にわが国で風景街道を用いたに過ぎない。しかし、それを用いるとしても、九州では「風景」や「街道」の意味を幅広くとらえる必要がある。

古代、東海道、西海道などと称し、「道」は道の意味にも地方の意味にも用いた。九州にあって「街道」とはまさにそれである。道、路に加え、地域、地方の意味を持つ。一方、「風景」は景色や景観に限らない。むしろ地域の多彩な資源内容を包括する。

この拡大解釈の風景街道において、**「地域資源」**は問われれば、地域の中で魅力ある風景を提供するにふさわしい事柄で、これを**風景ポイント（スポット）**と呼ぶ。それを整理すれば次の諸項目となる。

1　ありのままの自然と環境（海、山野、河川・湖沼、生物と自然現象、風景）
2　人が手を加えた自然（草原、棚田、温泉、植栽、庭園など）
3　古代遺跡・遺構
4　歴史遺産、歴史街道
5　歴史的な町並みおよびまち、集落
6　信仰、神社仏閣(教会を含む)
7　文化、伝統芸能、祭り、風習
8　食文化、地場産品、伝統工芸

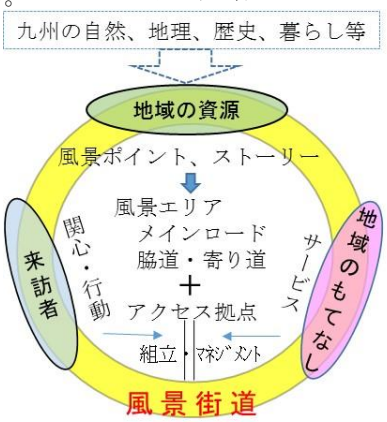


図2　九州風景街道の構成

９　景観的、伝統的、郷土的に価値ある建造物　１０　その他（イベント、テーマパークなど）

九州固有の自然や地形・地質に限らない。長い間、九州の大地に刻み込んできた遺跡と歴史、その物語や文化、イベントなどのソフト、地域資源相互の繋がりがある。旅の質の向上はこれらソフトを伴う諸内容が重要で、その何を風景ポイントするかはルートごとに問われ、特色をなす。

一方、広域化、国際化する大交流時代にあって、来訪者も地域内、近隣、遠方、国外と様々だ。特に、国外からの来訪は一昔前に比較にならないほど増え、九州では中国、韓国、台湾、ベトナムなどのアジア諸地域、諸国からが多い。

こうしたことから「**来訪者の関心と行動**」は個々人で異なる。同時に、来訪の目的は時代とともに変り、個性化している。同じまちや村でも、最初の訪問と2度目では興味の対象が異なる。これらの意味で、来訪者のニーズを常に把握し、風景ポイントの内容や旅のインセンティブを明らかにすることが大切で、通常の商品と同じく風景ポイントについて常にマーケッティングすることが望まれる。

３つ目の「**地域のもてなし**」は、来訪者が期待し満足する心からのサービスである。風景ポイントの整備と維持を図り、風景街道に関する情報発信やガイド、資料の提供がある。体験する、学習するなどの手伝いやお膳立てがあり、地場産品の商品化、地域コミュニティビジネスの創出などがある。

３つの諸内容は観光事業にない性質を含むが、決して特別でない。地域のお年寄りが、主婦や若者が、客を迎えるために日頃何気なく行っている。地域のなんでもない風景が、それを語ることで新鮮に映る。地域の暮らしや祭りがその意味を理解し、参加することで終生忘れられない体験となる。心のこもったB級、C級の郷土料理や家庭の味が超A級のグルメとなり、花植えや清掃が旅人の心を癒す。

九州の風景街道は、以上の諸内容を地域ごとに取り出し、システム化するものである。どんなに立派な風景ポイントも、来訪者の狙いと異なれば感動はない。何の説明もなく脈絡なしにたどれば、旅の面白さは半減し、記憶からうすれ易い。地域の人々とのふれあい、語らいやもてなしがなければ旅の意義は十分にえられない。だからこその風景街道の取り組みである。

（3）　風景街道の範囲とメインルートについて

現実の活動として風景街道の範囲は限定されるが、その一つの観点は来訪者の立場である。関心を持って連続的に巡る風景ポイントがつながる範囲があり、限られた期間で回遊できる空間だ。しかし、人によりその思いは異なる。

いま一つは、地域のもてなしからの視点だ。地域の人たちが、誇りと連帯感を持って風景を整備し、回遊ネットワークの組み立てる範囲である。

これら2つから風景街道の範囲が定まる。しかし、両者が一致するとは限らない。そうした中で現実に設定されるものは後者が主である。これは風景街道推進の主体が地域であることによる。その上で、来訪者に「寄ってみんしゃい、見てみんしゃい」と呼びかけている。つまり、**風景街道地域**は、住民意識のもとで地域資源をまとめ活動する範囲である。

範囲を定めても価値観の異なる多くの来訪者がいる。そのビッグデータを集めれば、風景街道地域の中で回遊の骨格となるルートが浮かび上がる。これが風景街道の中心となる道路で、旅の**メインルート**である。また、同じ地域とはいえ、大半の風景ポイントは、メインルートだけで回遊できない。諸施設回遊のための補完や末端の寄り道、脇道が必要だ。合わせて風景街道地域に域外からアクセスする交通手段や道路がなければならない。

要するに、風景街道地域内に車以外の交通手段のつながりをも考慮した道路交通ネットワークが定まる。風景街道地域に風景ポイントが分布し、地域へのアクセス交通と地域内の骨格、末端による循環交通網が重なる全体システムが風景街道ともいえる。

表１　協議会のマネジメント内容

1　風景街道の構築と整備	
	風景街道地域の組み立て
	風景ポイントの整備と保全
	風景ルート、回遊路の整備（解説板、道案内等を含む）
2　運　営	
	風景街道組織の運営
	イベントの企画・実施
	地域の人々のつながり強化
	ガイドの育成と運営
3　情報発信	
	情報の収集と発信
	PR活動
4　地域との連携活動	
	地域間交流、地域福祉の支援
	地域の修景・美化活動
	地域安全の確保、環境保全
	地場産品の開発、利活用

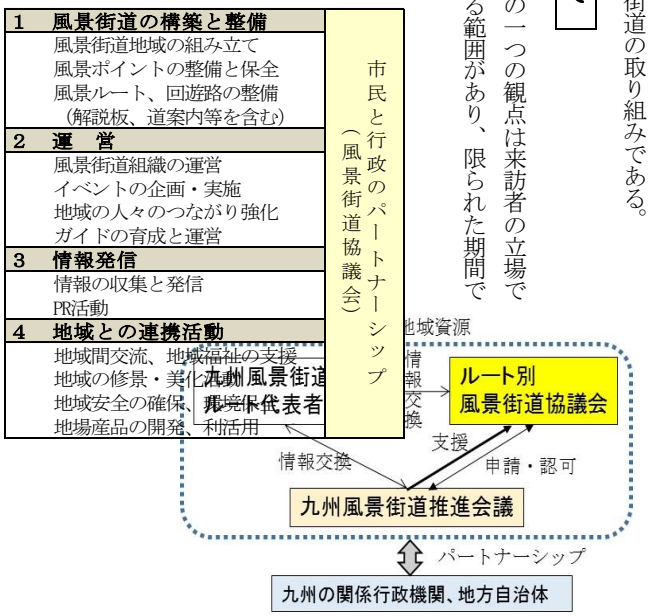


図３　風景街道の推進体制



2　協議会と道守・道の駅が連携する九州の風景街道

（1）　風景街道推進のための協議会の設立

地域の資源は地域のもの。地域のことは地域の人がよく知る。これらから、風景街道の活動は、地域の人々が地域の発展を願い、地域の資源に着目し、地域のために一緒になって努力することである。その活動は、住民自身の誇りと交流人口の増加による地域創成につながるが、市民、企業、関係団体、行政といった地域の関係者が力を合わせることが地域の風景街道推進主体であり、**風景街道協議会**はそのルート別の組織である（表2）。

ところで、風景街道の推進で何をしなければならないかを考えるとこれが実に多い（表1）。風景街道の構築と整備、美化活動、情報発信、来訪者と地域の人々とのつながりの推進など。むろんこれらは協議会構成の諸団体が各々で分担している。このため、そうした人々やグループの集まりと地道な努力こそが協議会の活動である。逆にいえば、その構成でルートの風景街道の活動が異なる。後述するように、「薩摩よりみち」では花植えなどの沿道修景活動が活発である。やまなみハイウェイでは野焼きと景観展望所の整備、蒲江・北浦では海業をテーマにした体験学習を特色にしている。

活動内容や対象となる地域資源は、民間が自主的に管理するもの、行政管理のものがある。場合によっては市民自身の個人財産も。こうしたことから、協議会は民間と行政のパ

ートナーシップによることが大切で、協力し合う必然がある。その上で協議会の役割はと問われれば、パートナーシップを組む風景街道のマネジメントである。風景街道を総合的に束ね、その申請・認可の母体となり、共に行動する個人や地域団体の相談にのることである（図3）。

円滑な風景街道の推進と質の向上のため、多彩な情報が望まれ、その一手段に九州では**風景街道ルート代表者会議**がある。「人のふりを見て我がふりを直せ」。各地で実施されている活動は風景街道の貴重な実践だが、良いも悪いも、見たい、知りたいの情報交換で、無駄を省き、前進となる。

風景街道は、域内外、国内外から集まる多くの来訪者と地域の人々による交流社会の形成や、地域の活性化を目指している。したがって、その内容に一定の質と信頼性、安全性が求められる。そこで、わが国をいくつかのブロックに分け、官民による風景街道推進会議を設立し、その指導の下で申請受付、認可・登録というシステムがとられている（図3）。**九州風景街道推進会議**はその一つで、九州地方が担当である。

九州の登録規模や内容は全国の１３７ルートに比べ決して劣らない。とはいえ、ルート協議会、代表者会議、そして風景街道推進会議のもとで互いが常に切磋琢磨し、役割分担し、ルートの特徴を生かすことが大切なことはいうまでもない。

（2）道と関わる3団体（道守、道の駅、風景街道）の連携活動

九州の風景街道にもう一言がある。それは、個々の風景ポイントを訪ねるとなれば、道、路が必ずや介在し、これに関わる活動の在り方が重要なことである。車、バス、ウォーキング、サイクリング、街歩きなどの基盤は道路。それを支える上で九州では3つの活動組織がある。「道守」、「道の駅」、そして「風景街道」と（図4）。

道、路は、地域の重要な社会基盤で、暮しと地域活動の根幹を成す。時にみかけるが、このことを認識して「**道守**」と呼ぶ人々が、熱さ寒さをいとわず沿道で清掃活動を行い、花壇づくりをしている。回遊路の整備、道のイベントの開催、危険箇所のモニタリングなども。これらは、地域への貢献と同時に、風景街道に寄与するおもてなしのボランティア活動に通じる。**道守九州会議**の設立趣意書によれば、「道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらには住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに―。それが「道守九州会議」の呼びかけとなった」とある。

つまり、九州各県の道守会議のもと、今では九州7県で５万7千人に及ぶ人達が思い思いにグループを作り、道守活動を行っている。その内容は風景街道と重なり、道守活動は風景街道推進の協働体である。

次に「**道の駅**」。駅といえば鉄道駅が直ぐに思いつくが、もとは古代の道を舞台にした駅伝制度が原形

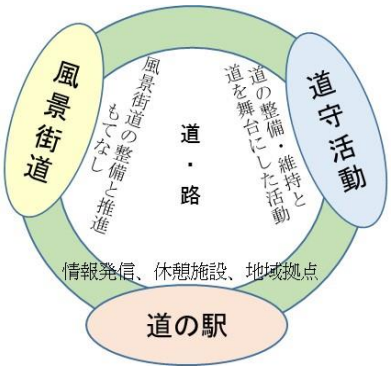


図４　九州で道とかかわる主要３団

である。道に沿い適当な間隔で人や馬を常備した駅を置き、使者などが馬で駆け抜けリレーする交通制度があった。その現代版が車交通時代の「道の駅」である。

道の駅は、大都市以外の諸地域に設けられ風景街道区域内に多く存在し、九州全体では１２１か所（２０１５年現在）を数える。単純に九州の国道の総延長を割れば６３㎞に一か所で、国県道全体では２００㎞に一か所となる。風景街道をドライブするに際し、地域の情報を取集し、地域巡りの拠点として道の駅が利用できる。旅の途次での休憩や土産の入手ができ、地域の食文化が堪能できる。

このように九州では、道を舞台にする「道守」活動と、地域活動の拠点である「道の駅」がある。その上で、それらを繋ぎ、もてなしに寄与する新たなものが前述の「風景街道協議会」である。

3　七県7色に輝く多彩な九州の風景街道を行く

九州の風景街道は２００７年の発足時で9ルートが登録された。その後、理解が進むにつれ追加があり、２０１５年現在では１４ルートに達する。Q❶～⓮がそれらだが、いまや関係市町村の数は６０を数え、九州全体の4分の1を占める。なお簡単のため、以下では各風景街道について表中に示す黒丸の番号と略称を用い、「Q」は九州の略号である。

個々のルートの内容を四章に紹介するが、まずは各ルートの設置場所を明らかにすれば図5および表2のとおりである。図を確認しつつ県別にみれば、福岡３（❹、❺、⓫）、福岡・佐賀（❼）、長崎（❸）、福岡・大分（⓾）、大分２（❽、⓬）、熊本２（❾、⓭）、大分・宮崎❷、宮崎（❶）、鹿児島２（❻、⓮）となる。一部空白もあるが、概ね九州全域に及ぶことが分かる。

九州横断の２つと福岡県内の３つは内陸型である。これら以外の９ルートは沿岸域を周回し九州７県を巡る。海に囲まれ、離島・半島が多い九州の地形と、沿岸部を主にする都市展開の実態からすると当然だろう。

風景街道の規模は、風景ポイントの数や活動範囲、移動距離などさまざまに評価できるが、一つの目安に風景街道のメインルートの延長を求め表2に併記した。１００㎞未満を小規模とすれば、６ルートが該当。その中で最も小さいのは「むなかた」の５㎞で、まち歩きの規模だ。

１００～２００㎞を中規模とみなせば、やはり６ルートが該当。うち離島・甑島を抱える「薩摩」は、海路を含むことで特色がある。

２００㎞以上は九州にあって大規模である。「日南海岸」の２００㎞、「ながさき」の２８０㎞の２ルートが該当する。しかし、これらも、３００㎞、４００㎞に及ぶアメリカのＳＢに比較すると小規模である。先に紹介したロマンチック街道に比べても小さい。とはいえ、それがまた九州の風景街道の特徴で、弾力的な回遊システムの構築、小回りが利くこと、活動しやすい風景街道の推進や手入れがしやすいなどの利点がある。

結局、九州の風景街道のメインルートは、５～２８０㎞の延長をもち、平均すると１２９㎞である。約半分は1日、2日の小旅行ですむ。「薩摩」や「ながさき」を除けば、残りもせいぜい2、3日のドライブである。週末や連休時に、あるいは、アフターコンベンションなどで、折を見て寄り道するに適した風景街道であり、手軽に巡ることができる。

小回りは決してマイナスでない。区間ごとにしっかり磨きをかけることができ都合がよい。郷土愛を掻き立て、自慢の風景街道を提供する上で望ましく、各ルートで風景街道の整備に励んでいる。その上で、四章5節に述べるように、それらをつないでロマンチック街道やブルーリッジパークウェイに劣らない風景街道の組み立てができ、熟知したもてなしがリレーできる。各地区で手入れが行き届いた九州の風景街道を、好みに応じて堪能し満足いただけると確信している。

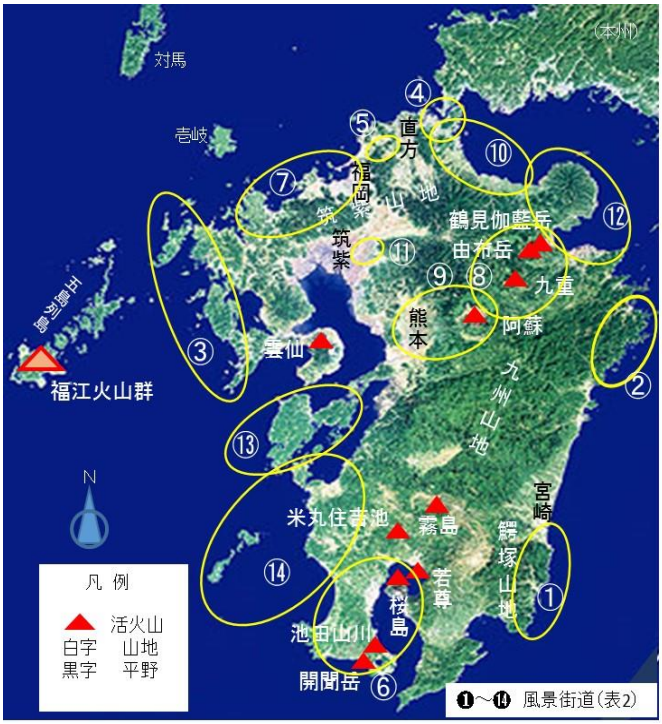


図5　九州で登録された風景街道14ルート（2015年現在）

表2　九州の風景街道一覧（名称、設立母体など）

Q	名　　称	(略称)	関係市町村	メインルート	延長 km	設立母体	関係団体数	設立年
❶	日南海岸きらめきライン	日南海岸	宮崎、日南、串間市	国道220, 222, 448, 県道28	200	日南海岸地域シーニック・バイウェイ推進協議会	51	2007
❷	日豊海岸シーニックバイウェイ	日豊海岸	佐伯、延岡市	国道388, 県道, 市道	94	日豊海岸シーニック・バイウェイ研究会	32	2007
❸	ながさきサンセットロード	ながさき	松浦、平戸、佐世保、西海、長崎市、佐々町	国道204, 383, 497.　国道35, 202, 499.　県道	280	ながさきサンセットロード推進協議会	61	2007
❹	北九州おもてなしのゆっくりがいどう	北九おもてなし	北九州市	門司往還, 長崎街道(大里~木屋瀬)（国3, 198, 199, 200, 211)	40	北九州風景街道（長崎街道）推進協議会	28	2007
❺	ちょっとよりみち唐津街道むなかた	むなかた	宗像市	唐津街道（赤間～原町）	5	唐津街道むなかた推進協議会	5	2007
❻	かごしま風景街道	かごしま	鹿児島, 指宿, 南さつま, 枕崎市, 知覧, 川辺町	国道224, 225, 226	192	かごしま風景街道推進協議会	43	2007
❼	玄界灘風景街道	玄界灘	福岡、糸島、唐津市、玄海町	国道202（唐津街道）, 204	157	玄界灘風景街道パートナーシップ推進会	26	2007
❽	九州横断の道やまなみハイウェイ	やまなみ	別府、由布、竹田市、九重町	国道500, 442, 210, 県道11	163	九州横断の道やまなみハイウェイ協議会	51	2007
❾	九州横断の道阿蘇くまもと路	阿蘇くまもと路	熊本, 阿蘇市, 菊陽, 大津, 南小国, 小国, 高森町, 産山, 南阿蘇, 西原村	国道57(豊後街道)	76	九州横断の道阿蘇くまもと路推進協議会	25	2007
❿	豊の国歴史ロマン街道	豊の国	北九州, 行橋, 豊前, 中津, 宇佐市, 苅田, みやこ, 築上, 吉富, 上毛町	国道10、県道(小倉～宇佐)	77	豊の国風景街道推進協議会	31	2010
⓫	みどりの里・耳納風景街道	みどりの里	久留米、うきは市	県道151, 市道（山苞の道）	72	みどりの里・耳納風景街道推進協議会	10	2012
⓬	別府湾岸・国東半島海べの道	別府湾岸	中津、国東、杵築、別府、大分市、日出町	国道10, 197, 217	150	別府湾岸・国東半島海べの道推進協議会	49	2013
⓭	あまくさ風景街道	あまくさ	上天草、天草市、苓北町	国道266, 324, 389, 県道, 市道	142	あまくさ風景街道協議会	24	2014
⓮	薩摩よりみち風景街道	薩摩	出水、阿久根、薩摩川内、いちき串木野、日置市、長島町	国道3（薩摩街道）, 389、県道	152	薩摩よりみち風景街道推進協議会	43	2015

草色：内陸型、青色：沿岸型　　上記の他に自治体として県が参加　　平均129km　　平均34団体

二　九州の地域資源の特色を探る
それぞれの風景街道めぐりに向けて

1　九州の地質は古生層、火山噴出、付加体の3つだ

風景の基本は大地の姿だが、その形成要因は大地の性質、地質にある。そこで冒頭の神話はさておいて、まずは常識の範囲で地球の活動にもとづいた九州の国土形成と地質概略を紹介しよう。

日本列島は、もともとユーラシア大陸の東端にあり、繋がっていた。それが、2、3千万年前、大陸からいくつかのかけら状に引き裂かれ日本海ができた。その証に九州でも熊本県の御船町や天草の御所浦島、甑島などの地層から8千万年前、1億年前の恐竜の化石が発見されている。また、新潟から静岡へと横断し、関東方面に幅を持つ大きな中央地溝帯が存在し、これを境に地質が異なるが、九州は西南日本の地質であり、同じものが大陸の側でも確認されている。

他方、太平洋側では、ユーラシアプレートの下にフィリピン海プレートが潜り込み、プレート上の堆積物が削られ(これを付加体という)、プッシュされるように動いている。まるでベルトコンベアーにのる堆積物の動きである。これにともない、九州では、宮崎や鹿児島へと付加体が押し寄せ、大陸と異なる地質がある。

また、図6のように、九州には実に多くの火山が存在する。現在の活火山だけでも、北から別府・由布院、鶴見、九重、阿蘇、さらに霧島⑥、桜島⑨、開聞岳、薩摩硫黄島と九州を縦断して並ぶ。2015年に大噴火を起こした口永良部島も同じ線上にあり、これらを結ぶラインを火山フロントと呼び、火山配列の海側の限界をなす。加えて、雲仙、福江(五島)と横にも展開している。まさに九州は有史以前からの火山活動が続くホットな島である。

要するに九州の地質は、日本海側では大陸から受け継いだ古い岩盤が、太平洋側では海洋から押し寄せた新しい岩盤の形成があり、それに多くの火山活動や隆起沈降があって複雑な構造をなす。人でいえば時に傷つき、ニキビなす若者状態であり、その地質概要が図6である。北部と中部とは松山・伊万里構造線と呼ぶ断層が、中部と南部とは臼杵・八代構造線(中央構造線)が境をなし、北部、中部および南部の3ブロックに分れ、性質が異なる。

A　北部ブロックの地質

北部は、大分、福岡、佐賀、長崎県に及ぶ。比較的なだらかな山地と平野で、花崗岩類や変成岩類⑤などが分布している。また、数千万年前の炭層を挟む地層が各地に存在し、筑豊では1975年頃まで石炭の採掘が盛んに行われていた。炭鉱主が銅御殿を成す勢いだったが、「寄り道」に紹介した伊藤伝右衛門もその一人である。

一方、佐賀県北西部から長崎県北部では、頁岩類や凝灰質岩が粘土化し、地すべり地帯をなす。豪雨や長雨にはそのすべりに巻き込まれ犠牲になる人もいて、注意が必要である。

B　中部ブロックの地質

中部ブロックは、大分から福岡、佐賀の南部、熊本の北部を通り、長崎県に及ぶ三角地域である。阿蘇、九重、雲仙の各火山が含まれる。このため、古生層、中生層および高温低圧型の変成岩類が領家帯や肥後帯などと呼ぶ基盤をなし、その上を広い範囲で阿蘇火山などの噴出物が覆っている。

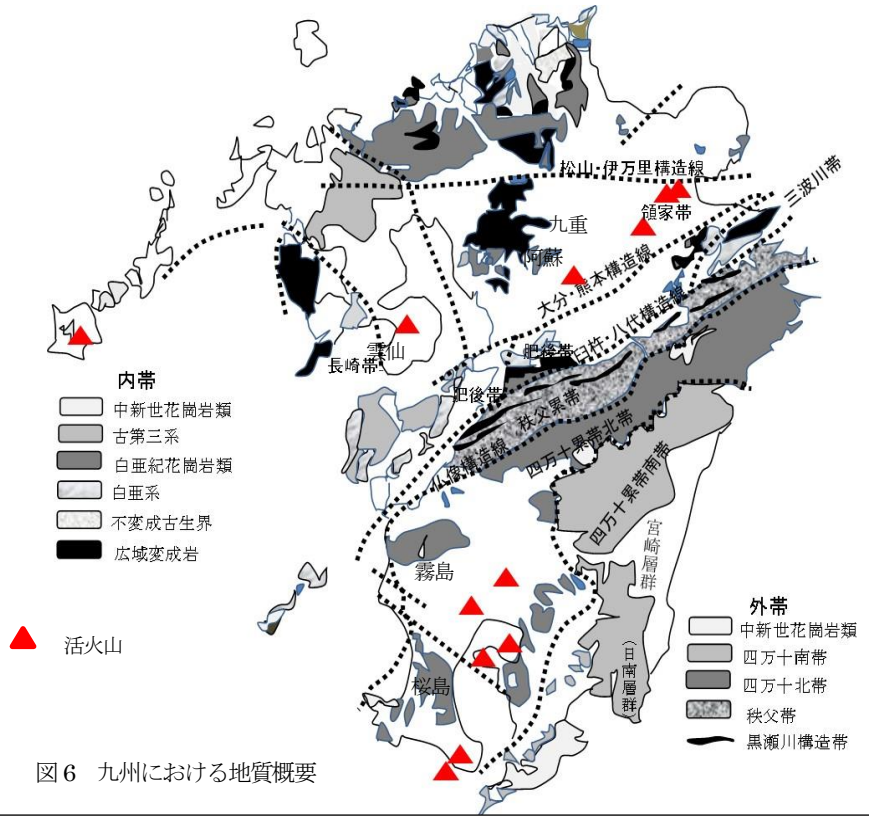


図6　九州における地質概要

寄り道　旧伊藤伝右衛門邸

麻生、貝島、安川が筑豊御三家と呼ばれる炭鉱王であるが、これに続いたのが伊藤伝右衛門。魚の行商や船頭から身を起こし、筑豊の炭坑王までになったが、彼を有名にしたのは、大正天皇の従妹で歌人の柳原白蓮と再婚したことである。

一種の政略結婚だが、伝右衛門は白蓮のために、2300坪の屋敷に宮大工の技を尽くした部屋数25の豪邸を建てた。しかし、白蓮は若い新聞記者宮崎龍介と恋に落ち、新聞紙上で絶縁状を突き付け破局した。

これに対し、伝右衛門は一言も弁明せず、財界に重きをなし、生涯を終えた。邸宅は残り、飯塚市に譲渡され、現在公開されている。



有明海沿岸地域は、長い、長い年月を経て河川から土砂が流れ出て、沖積平野が形成されてきた。阿蘇から離れた西端の長崎帯では、高圧で変質した変成岩類があり、道路脇の海中から、古い岩石⑤が、まるでモンスターのように顔を出す。波しぶきの中でこれが４億年以上も前の岩だといわれてもにわかには信じ難い。

C　南部ブロックの地質

臼杵・八代構造線から南側が南部ブロック。図６にみる大分県南や熊本県南より南の地域である。領家帯や肥後帯と呼ぶ地層に接する形で付加体（秩父帯）があり、その南に仏像構造線がある。領家(静岡)や仏像(四国)、秩父（埼玉）とは九州にない地名だが、いずれもいち早く発見された場所に由来する。この帯状の地質は、東北東から西南西方向へ斜めに横断し、北部、中部とは明らかに性質が異なり、名前からしてよそものが乱入した感がある。

南に下ると、前述のように、太平洋側からは四万十層群が押し寄せ、北帯と南帯に分けられる。ともに海洋プレートの付加体だが、北帯が下で南帯が上に重なる。両者の境界は低角度の逆断層をなし、２つの厚板をずらして重ねたようなものである。上部の縁端で境をなす断層は、延岡から市房山を通り、さらに人吉から南下、大隅半島の高隅山（たかくまさん）の東を通る。

四万十層群の下は、千枚岩、砂岩、粘板岩が互に層をなし、これらは、８、９千万年前（白亜紀）に形成されたものである。

一方、宮崎平野および日南海岸地域に、四万十層群の上部と、これを被う宮崎層群が分布し、積層をなしている(図６)。そうした中で、宮崎層群の走向が、高鍋付近から、北東、南北、南東などとうねり、日南層群に至る。まるで吹き出物の跡のかさぶたがいくつか重なる状態だ。こうした状況や地質は道路の整備や維持の上では厄介である。しかし、風景街道の観点からみれば、奇岩等の景勝をなし、大変興味深い。

鹿児島地域および宮崎南部は、四万十層群に加え、火成岩類や同時期の堆積層が分布。その上を１０、２０万年前の火砕流堆積物が広く被っている。この堆積物の正体は、皆さん知っての「シラス」⑧である。水に弱く、斜面では雨裂が発生し壊れやすい。

要するに北部は、古い岩盤とその風化帯、中部は火山の基盤とその上の噴出物が積み重なる。南部の宮崎よりは上部四万十層が被さり、鹿児島よりは下部四万十層にカルデラ噴火の堆積物が被う。

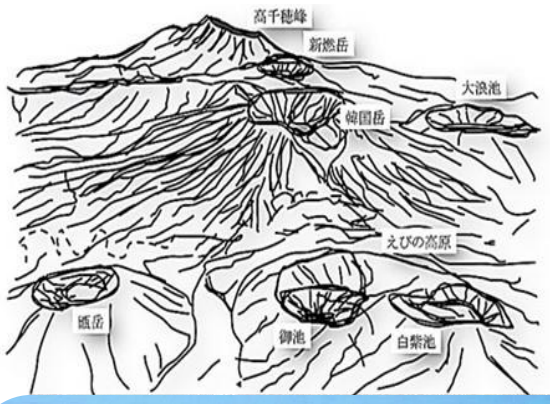
以上は地表近くのことだが、九州は多彩な地層をなし、その掌の上で長い歴史と暮らしを育み、ヤマトに先駆けて、隼人の時代から、熊襲の時代から、さまざまな文明や文化を刻んできた。いまや隼人、熊襲、ヤマトが融合する九州人にとり、噴煙上げる火山があるとも、押し寄せるプレート付加体があるとも、九州の島々は母なる大地である。



④　6、８角形の玄武岩柱状節理(糸島市芥屋) Q-❼



⑤　長崎市野母崎の変はんれい岩（４億８千年前）Q-❸





⑥　霧島の火山群(上)と日南海岸の鬼の洗濯岩（波状岩）（日南市）(下)Q-❶

2　連なる山々、少ない平地、多島海の九州

(1)　比較的低い山々が連なる九州

九州は、太平洋と東シナ海に挟まれ、玄界灘、周防灘、日向灘、天草灘、五島灘に取り囲まれる島々で、その主体が九州本島であることは既に述べた。この本島の山々をみると、九州中央部で北東から南西方向に伸びるいくつかの連なりがあり、これを**九州(中央)山地**と呼ぶ。図５と図６を重ねれば、先の臼杵・八代構造線を北限に、宮崎平野北部の断層から小林盆地北、川内川流域北部を繋ぐ線を南限とする範囲の山地が読み取れる。そしてこれに隣接し、**九重連山**、**阿蘇山**、**霧島連山**があるが、これらは、いずれも山々を連ねての呼称である。

周知のように、「くじゅう」は、久住と九重の２通りの漢字があてられる。ともに同じ読みだが、九重の名を持つ山はない。九重は玖珠・竹田の火山群の総称に用いられ、久住は山の名に用いられている。

九重連山の最高峰は中岳（１７９１ｍ）。これに久住山（１７８７ｍ）が続く。国立公園名は「阿蘇くじゅう国立公園」と平仮名だ。かつて、久住町と九重（ここのえ）町が存在したことから、両者への配慮と推察される。

横道にそれるが、広島高等師範学校山岳部の歌をベースにした「坊がつる賛歌」（作詞：神尾明正／松本征夫、作曲：竹山仙史、唄：芹 洋子）がある。九重の山々を舞台に歌ったもので、一世を風靡した。その第２節は、

「四面山なる　坊がつる　夏はキャンプの　火を囲み
　夜空を仰ぐ　山男　無我を悟るは　この時ぞ」

九重の山々に登るとき、キャンプの傍ら歌った思い出がある読者もいるだろう。

同様に、霧島もそれを冠する山はない。霧の中に、島のように山々が浮かぶとの意味であろう。最高峰の韓国（からくに）岳（１７００ｍ）、天孫降臨伝説の高千穂峰（１５７４ｍ）、時々噴煙を上げる新燃（しんもえ）岳など。多くの山々が連なり、これを霧島連山、霧島山地と呼ぶ。

阿蘇山も同じだ。中央の火口丘群と火口原（カルデラの底部の平坦地のこと）、それらを囲む外輪山一帯が阿蘇山である。むろんカルデラ中央の阿蘇五岳は山々をなし、高岳（１５９２ｍ）、根子岳（１４３３）、中岳（１５０６）、烏帽子岳（１３３７）、杵島岳（１３２６）と、背伸びするように千メートルをこえる高さを競っている。桜島⑨も同様だが、阿蘇のようなカルデラはない。

九州北部に目を転ずると、福岡、佐賀、長崎県にまたがる**筑紫山地**がある。しかし、これは一つながりでない。筑豊盆地、福岡平野、筑紫平野などで分断される。東から西へ、企救（きく）、貫（ぬき）、福知、三郡、耳納（みのう）、脊振、肥前の各山地となり、それらの集りが筑紫山地である。中生層、古生層の地質で、花崗岩類が広く分布し、肥前山地には玄武岩の台地が展開している。

要するに、九州の主な山地は九州山地と３つの連山および山地が連なる筑紫山系からなり、火山を除けば地肌むき出しの山はほとんどない。「分け入っても　分け入っても　青い山」（山頭火）である。

九州の山の最高峰、それは鹿児島県屋久島の宮之浦岳で、標高１９３６ｍ。実は、この宮之浦岳をはじめ、何と上位８位まで全てが屋久島にそびえる。九州では大隅諸島の一つ屋久島に高い山々が集まり、洋上のアルプスをなす。

他方、九州本土の最高峰は九重連山の中岳だが、標高１７９１ｍ、９番目に過ぎない。全国の山と比較すると、宮之浦岳は２４８番目、中岳は３０８番目。九州には２千ｍを超え、登山に際し高山病が問題になる山はないということだ。代わりに有毒ガスの噴出が心配される火山が多く、注意が必要である。

ところで改めて山の定義を問われると難しい。周囲より高く盛り上がる自然地形を山とする概念はあるが、水平に対しどの程度以上の高さを山とするかは判然としない。地図では仙台市の日和山（標高３ｍ）だなどと全国一の低い山が競われている。そうした中で、九州で最も低い山は八代市の標高１９ｍの白島（しろしま）が通説である。八代港に面し、元は島であった。それが埋め立てられて陸続きになり、島がそのまま山になったもので、そこから切出された大理石が八代城の石垣とのことである。

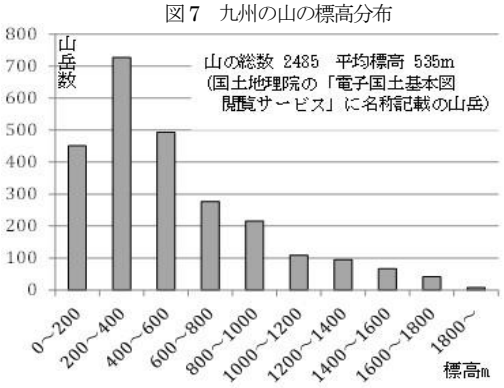
この白島以上の高さを山とみなせば九州全体で２４８５（国土地理院）ある。図７はその標高ランク別の分布である。４００ｍ以下の山岳が約半分を占め、６００ｍ以下は２／３に達する。

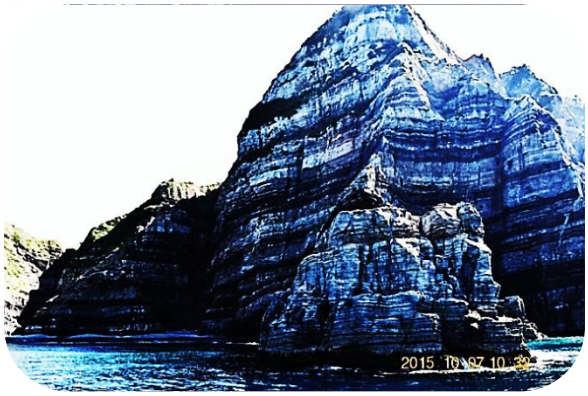
確かに九州は山が多い。しかし、大半が中程度以下の高さに過ぎず、日帰り登山が楽しめる緑深い山が多く、森林セラピー、トレッキングにこと欠かない。また、一般道に加え、ドライブが楽しめる大規模林道、広域農道も多く、これらを含めると九州の山々は縦横にドライブしやすい道路網をなす。

（２）　比較的規模が小さい九州の沖積平野

山で迷えば、必ずといえるほど人が住む平野を目指して下るが、その平野の状況は図５のとおりである。各河川流域の沖積平野として白

図７　九州の山の標高分布





⑦千万年前からの地層が重なる鹿島断崖(薩摩川内市下甑島)Q-⓮



⑧海岸線にまで押し寄せたシラス台地（日置市江の口、国道270号沿い）



⑨　県都でいまなお噴火がみられる活火山・桜島（鹿児島市）　Q-❻

く映るところだが、大規模なものはない（表3）。筑後平野以外はそれぞれの県内にとどまる。これは山の尾根が県境であること、各々の平野が小規模なことによる。そうした中で、九州にあって主要なものといえば、次の筑紫、熊本および宮崎の3平野がある。

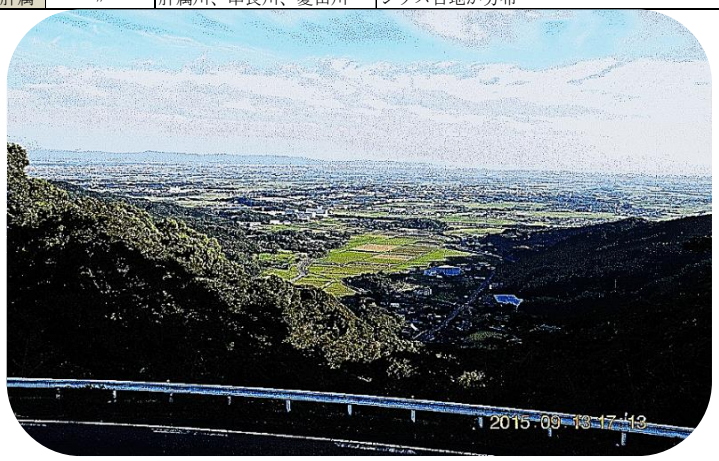
1　筑紫（ちくし、つくし）平野⑩は、筑後川や矢部川、嘉瀬川などが有明海にそそぎ込むところにできた平野である。九州にあってただ一つ県境をまたぐ。福岡県側は北野、筑後平野、佐賀県側は佐賀、白石平野と広がる。面積は合わせて約１２００㎢。佐賀県全面積の１／２に達する。むろん九州最大だが、それでも関東平野に比べれば僅か１４分の１に過ぎない

筑紫平野は、河岸段丘、平野、干拓、そして干潟の４者構成である。前面の有明海の干満差が大きいことから、特に干潟が発達し、その規模はわが国最大である。干拓は平安末期より始まり、江戸時代へと引き継がれた。明治から戦後に至る米の増産策で、昭和４０年代の初めには佐賀段階として反当り収穫量日本一を誇り、戦後の飢えをしのぐ原動力であった。

2　熊本平野は、阿蘇外輪山に続く肥後台地から有明海に広がる。４度にわたる阿蘇の大火砕流が積もり、また、白川、緑川の流れで現在の地形が形成された。面積は約７５５㎢。台地は、標高にして約１００m、３０～４０m、１０mと段をなし、その先端に水前寺や江津湖、八景水谷（はけのみや）などの湧水がある。

表3　主な平野とその中の河川など

平野名	地域（県）	主要河川	備　考
直方	福岡県	遠賀川	谷底平野が樹枝状に広がる。
福岡	〃	那珂川	福岡平野、糸島平野、宗像平野など。
筑紫	福岡県, 佐賀県	筑後川、矢部川	約1200㎢、九州最大。
京都	福岡県	今川	豊前平野ともいう。
唐津	佐賀県	松浦川、玉島川	2つの川の間に砂丘が発達している。
諫早	長崎県	本明川、境川、東大川	大部分が干拓地
菊池	熊本県	菊池川	約50㎢。玉名平野ともいう。
熊本	〃	白川、緑川	約775㎢．阿蘇火山灰の堆積物。
八代	〃	球磨川	約２／３が干拓地
中津	大分県	山国川	中津平野と行橋平野に分かれる。
宇佐	〃	駅館川、寄藻川	大分県下最大の穀倉地帯
大分	〃	大分川、大野川	下流の沖積平野と、その周辺の丘陵からなる。
延岡	宮崎県	五ヶ瀬川、祝子川、北川	谷底平野と河口近くの三角洲状沖積平野。
宮崎	〃	大淀川、一ツ瀬川、小丸川	起伏に富む地形。
出水	鹿児島県	米ノ津川, 野田川, 高尾野川	約35㎢で、中央部に洪積台地が広がる。
川内	〃	川内川	シラス台地や丘陵に囲まれ細長い形状の平野。
姶良	〃	思川、別府川、網掛川	北薩火山群に囲まれた狭い平野である。
国分	〃	天降川、検校川	約15㎢
肝属	〃	肝属川、串良川、菱田川	シラス台地が分布



⑩ 筑紫平野（正面は耳納連山。国道385号の道の駅「吉野ヶ里」より）Q-⓫

熊本平野に隣接し、球磨川下流に展開するのが**八代平野**。八代では、江戸時代から盛んに干拓が行われてきた。いまでは平野面積の２／３を干拓地が占め、稲作は当然として、日本一の規模を誇るイグサの栽培や園芸農業が盛んである。

3　宮崎平野は宮崎県の中央で、日向灘に面し、南北約６０㎞にわたり広がる。南は鰐塚山地が接し、西は九州山地が境をなし、北に行くほど狭い（図5）。太平洋側から押し寄せた四万十層群、宮崎層群が被さってできた平野で、約２／３が標高２００ないし３００mの洪積台地である。新田原（にゅうたばる）、唐瀬原（からせばる）、西都原（さいとばる）、茶臼原（ちゃうすばる）などと呼ばれる。

これらに大淀川や一ツ瀬川、小丸（おまる）川、耳川、五ヶ瀬川の河口部の沖積平野が加わる。また、一ツ瀬川から大淀川にかけて、一直線に海岸砂丘が発達し（日向灘海岸）、延々と続くさまは見事という他はない。国道１０号や海沿いの県道を走ると平らな直線区間が多く、わが国最初のリニア鉄道宮崎実験線が敷設され、無人だが１９７９年に５１７㎞／hのリニアが走り抜けた。

平野の形成には、河川から流出する土砂の堆積の他に、海流や風で運ばれて堆積するもの、侵食や隆起でできるものがある。しかし、九州は河川による沖積平野が主である。内陸部に山や火山があり、それらを源流に水系が発達して土砂が流れ出し、沿岸域に平野ができた。このため多くの都市が海に面し発達している。県庁所在都市はむろんのこと、県内第二の都市もほとんどが沿岸域である。なお、佐賀市は一見すると内陸のまちだが、それは干拓の進展による。

内陸にもいくらかの盆地や台地があり、そこに町の発達をみることができる。拾い出せば、筑豊(福岡県)、山内(長崎県)、由布院、日田、安心院（あじむ）、田染（たしぶ）、竹田、三重(大分県)、阿蘇、人吉(熊本県)、加久藤、小林、都城(宮崎県)、高千穂、大口(鹿児島県)などだ。これらの多くは、静かでのどかな山々に守られた農村やまちの風景をなす。湯煙を上げ、山の幸、高原野菜に恵まれている。しかし、これら中山間地では高齢化や少子化、人口減に苦しんでいる。折角の地域資源を生かし、大々的な交流社会を構築することが望ましく、だからこそ風景街道を推進するものである。

（3）全国の3分の1が集まる九州の島々

い日本全体が島だ。その中で、面積の上で上位4島を本島とよび、それ以外を単に島という。しかし、山と同様に島の定義も定かでない。岩礁か島かで国際紛争もあるが、国土地理院は航空写真に写る陸地を島とみなし、海上保安庁の調査では外周１００m（直径３２mの円に相当）以上としている。

本書は後者に従う。このとき、日本全体の島の数は６８５２。うち九州は２１６０と約3分の1を占める。まさに多島をなすが、これを県別に整理したものが表４である。

島の数が最も多いのは長崎県である。五島列島や壱岐・対馬を含めて９７１を数え、全国一である。第二位も九州で鹿児島県の６０５である。南薩諸島や奄美群島などからなり、北の長島（八代海）から南の与論島まで６００㎞の海域に及び、長く列をなしている。かわいいアヒルの子の隊列状態とも見てとれる。福岡６２、佐賀５５。これらは長崎、鹿児島の１０分の１以下で、両グループの中間に宮崎、

熊本、大分の各県がある。

九州の東側は、リアス海岸を含む臼杵～日向や宮崎南部の日南海岸に多くの島があるが、他はさほどでない。これに対し、西側は長崎県から鹿児島県の南にかけておびただしい島がある。最北の対馬から最南の与論島まで距離は１０００㎞を超え、東京～福岡間に匹敵する。神話になぞらえれば、混沌から引きあげられた筑紫島のカオスが、まるで東風にのって西に裾を引きしたたり落ちたようでもある。

なお、面積で各県上位の有人島を書き出せば同表に付記のとおりである。鹿児島、長崎、熊本県以外は、最大でも１０㎢に満たない。

九州で最も大きい島はみんなも知る**奄美大島**である。奄美群島の中核をなし、奄美群島国定公園の一角をなす。亜熱帯地域で、特別天然記念物にウサギの一種アマミノクロウサギが指定されている。奄美市と大島郡に属する４つの町村があり、約７万人が暮らすが、鹿児島というよりも琉球文化圏に属している。台風がよく通過するも、青く澄みきった海でのサーフィンに大変人気がある。趣味が嵩じて移り住んだ人もいて、そうした人たちにとって奄美はパラダイスである。

奄美と反対の北の**対馬**も面積はほぼ同じである。対馬海峡に面する国境の島で、朝鮮半島までわずか約７０㎞。大陸との交流の中継基地の役を果たしてきたが、現在も、韓国との交流が活発である。島の人口は２０１４年時点で約３万２千人と奄美大島の半分である。

３番目は**天草下島**。面積は５７４㎢、最高標高は５３８ｍで、天草市と天草郡苓北町の２自治体からなる。天草瀬戸大橋で天草上島と結ばれ、天草五橋で「もやい船」のように宇土半島と繋がる。いまや離島でなく、半島の先端とみなしてよい。

４番目は世界自然遺産の**屋久島**である。前述のように、２千ｍ近い山々が連なる。２０１５年には同じ町内である隣接の口永良部島で火山の爆発があり全島民が避難した。

いま一つ、５番目の**種子島**もユニークだ。最高の標高は２８２ｍに過ぎず、ほぼ平坦で、隣の洋上のアルプス屋久島とは好対照である。鉄砲伝来の島だが、現在は種子島宇宙センターがあり、わが国の宇宙開発の最前線をなす。旧石器時代から人が住み、西之表市と熊毛郡の２町からなり、島民の総数は約３万３千人と対馬に類する。

これらの他で特異な島を上げれば、竹島など３つの有人島と２つの無人島からなる鹿児島郡三島村（みしまむら、人口４００人）があり、七つの有人島と五つの無人島からなる同郡十島村（としまむら、人口７００人）がある。三島村は薩摩半島の南端と屋久島の間に位置し、十島村は東シナ海で屋久島から奄美大島にかけて展開するトカラ列島の島々である。戦前は両村合わせて大島郡十島村（じっとうそん）であった。しかし、戦後の米軍占領策のもとで引き裂かれ、返還後現在の２村となった。火山を抱く中で豊かな自然があり、ダイバーや観光客がよく訪れる島々である。

２村は、島民の交通の便を考え、村内でなく九州本土の鹿児島港に隣接して役場が置かれる変わり種

表４　県別にみた島の状況

県	島嶼数	有人、面積上位5島とその面積 km^2				
福岡	62	大島　7	志賀島　6	能古島　4	地島　2	相島　1
佐賀	55	馬渡島　4	加唐島　3	加部島　3	神集島　1	小川島　0.9
長崎	971	対馬 696	福江島 326	中通島 168	平戸島 164	壱岐島 134
熊本	178	天草下島 574	天草上島 225	大矢野島　30	御所浦島　12	戸馳島　7
大分	109	姫島　7	大入島　6	大島　2	屋形島　1	深島　1
宮崎	179	島浦島　3	大島　2	築島　0.2		
鹿児島	605	奄美大島 712	屋久島 505	種子島 445	徳之島 248	沖永良部島　94
九州	2159	奄美大島 712	対馬 696	天草下島 574	屋久島 505	種子島 445

注）　島嶼数は海岸線の長さが0.1km以上のもの（海上保安庁水路部調査による）
有人・無人の判断と島の面積は各県のホームページによる。

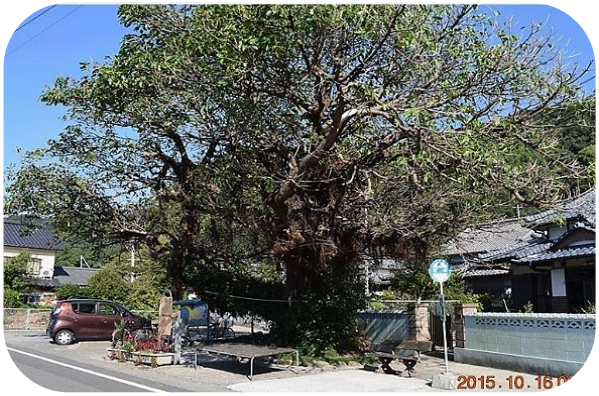


⑪　守るのか、押し寄せるのか。多島海なす九州の島々（佐世保市九十九島）　Q-❸





⑫　青島(宮崎市)の亜熱帯林(上)と都井岬(串間市)の自生ソテツ（国指定特別天然記念物）（下）　Q-❶



⑬牧島（天草市御所浦町）のアコウの木　Q-⓭

である。３００㎞に及ぶ海域に細長く島々が展開する中で、2村合わせてわずか千人の村民が１００人、２００人とまばらに島に住む事情によるが、計算上は手に余る広々とした海原を各人が持つこととなる。これを厳しいとみるか、うらやましいかは人それぞれだが、生涯に一度は三島村、十島村を訪ね、日本の秘境１００選の島をみることも一見であろう。

3　3タイプの気候の中、温帯、亜熱帯に跨る植物

九州は、巨大な竜巻もなければ、豪雪もない。代わりに梅雨があり、台風銀座だ。その中で、九州の気候はと問われれば、全体が暖かいところと思われがちだが、実際は次の3タイプに分かれる。

1つは、**「太平洋側気候」**だ。これはさらに九州山地の北と南に分かれる。北は大陸からの季節風の影響を受け、冬は曇りの日が多い。南は太平洋側からの季節風の影響を受け、夏の降雨量が多く、冬は暖かい。

2つ目は福岡県や大分県の東部の気候で、瀬戸内海に面する地域の**「瀬戸内海型気候」**である。気温は太平洋側地域とさして変わりないが、降水量が比較的少ない特色を持つ。

そして3つ目は、夏暑く、冬暖かく、一転して降水量が年間を通して多い**「南日本の気候」**である。鹿児島南の奄美群島などが該当し、奄美大島の年間日照時間は我が国で最も短い。多量の降雨が世界遺産の屋久杉を育むゆえんである。

九州のこうした気候分布は、当然とはいえ植生などに大きな影響を与え、結果的に亜熱帯型と温帯型に分かれる。亜熱帯型は、気温が高いという点で熱帯に次ぐ気候であり、漠然とだが北緯２０～３０度付近の地域にみられる。

他方、温帯型は温暖な気候地域の植生で、わが国の大部分が当てはまる。そして、その間にまたがるのが九州であり、両者入り乱れ多彩な植生に恵まれている。

つまり、**亜熱帯植物**の地域はどの範囲か。それを明らかにする意味から、亜熱帯植物が自生するところを拾い出せば、青島⑫（宮崎市。ビロウなどの亜熱帯植物の群落の最北）、都井岬⑫（串間市。ビロウ、ソテツの自生北限）、佐多岬（南佐多町。ハマユウ、ビロウ、ソテツの自生）、大隅半島南部（ソテツ、ビロウの自生）があげられる。

加えて一筋縄でないのが、温暖な黒潮が鹿児島の南で分岐し、日本海に流れ込む対馬海流の存在である。この影響から、九州の西側の島や半島にあっては北部九州に近い緯度にもかかわらず亜熱帯性植物が見られる。つまり、長崎県の男女群島や五島列島の南部にも亜熱帯植物が見られ、対馬暖流に乗り、あるいは、台風などで運ばれて種子が漂着したと考えられる。また特異だが、世界遺産候補の福岡県の沖ノ島はビロウの北限といわれている。

甑島（鹿児島県薩摩川内市）の植物は南方系と北方系が入り混じるが、その中で、あるいは、天草、島原半島、長崎半島でアコウの木⑬（クワ科の亜熱帯植物）がよく見受けられる。沢山のひげ（気根）がのび、何とも異様だ。このことから、樹木の下に入れば薄暗く、まるで妖怪漫画に描かれる樹木のお化けであり、一目でアコウと分かる。

逆に、**温帯植物**の南限を探せば、ノハナショウブ（アヤメ属の多年草）やエドヒガンザクラの自生の限界が鹿児島県姶良郡湧水町である。前者は町の花、後者は町の木に指定されている。また、野生ワサビやヤマハンノキ（山榛の木）は宮崎県日南の鰐塚山地が

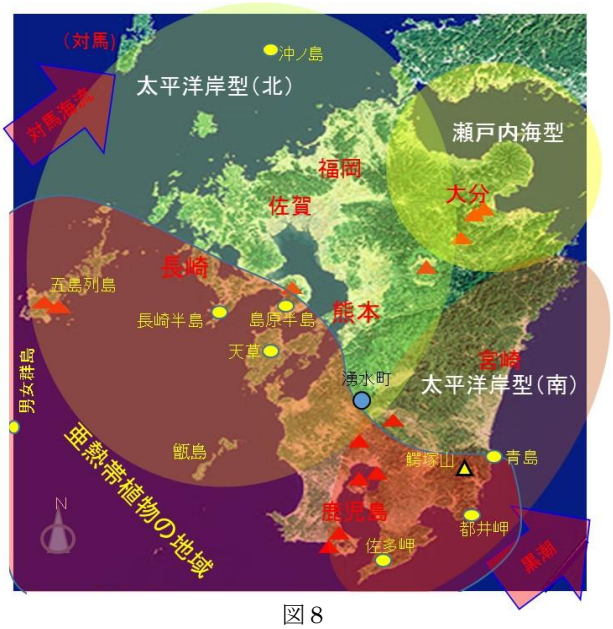


図８

表５　国立公園および国定公園（九州関連）

	名称	位置	主な風景等	風景街道
国立公園	瀬戸内海	関門、豊予海峡	和布刈山、姫島、国東半島、高崎山、高島	⑩、⑫
	阿蘇くじゅう	熊本、大分県	カルデラ景観、阿蘇火山、草原美、温泉	⑨、⑧
	西海	長崎県	五島、平戸・生月島、九十九島	❸
	雲仙天草	長崎, 熊本, 鹿児島	雲仙岳、多島海景観、温泉	⑬
	霧島錦江湾	宮崎、鹿児島県	集成火山、海域カルデラ、桜島	❻
	屋久島	鹿児島県	原生的自然環境（世界自然遺産）, 屋久島スギ原始林	
国定公園	北九州	福岡県	皿倉山、平尾台	❹、⑩
	玄界	福岡, 佐賀, 長崎	若松北海岸、芥屋大門、虹の松原、唐津湾	❼
	耶馬渓日田英彦山	大分, 福岡, 熊本	耶馬渓、八面山、英彦山	
	壱岐対馬	長崎県	壱岐、浅茅湾	
	九州中央山地	熊本、宮崎県	市房山、五木、五家荘、米良荘、綾町照葉樹林	
	日豊海岸	大分、宮崎県	日豊海岸、枇榔島	❷
	祖母傾	大分、宮崎県	祖母山、高千穂峡	
	日南海岸	宮崎、鹿児島	青島、日南海岸、都井岬	❶
	甑島	鹿児島県	海鼠池、貝池、鹿島断崖、鹿の子断層	⑭

寄り道　ジオパークとラムサール条約

ジオパークは、地層、岩石、地形、火山、断層などの自然が豊かな「大地の公園」のこと。こうした自然遺産を保全し、教育やツーリズムに活用し、持続可能な開発を進めるとして日本ジオパークネットワークに加入したものが日本ジオパークである。また、その推薦で世界ジオパークに加盟したものが世界ジオパークで、ユネスコの事業である。現在、わが国では、8か所の世界ジオパークがあり、また日本ジオパークへは39地域が加盟している。

一方、多様な生物を育む湿原、沼沢地、干潟等は、水鳥の生息地として非常に大切である。このことを踏まえ、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が締約された。イランのラムサールで採択されたことから、**ラムサール条約**と呼ばれている。条約の加入国は、２０１５年現在で１６９であり、登録地は２２１７サイト。我が国は、北海道１３、沖縄県５などと集中し、他県もすべてでないが１、２があり、全部で５１がある。

南限とされている。

以上から、十分でないが、海域の島々をも含め、宮崎、鹿児島県の南部から、天草、長崎半島、五島列島へと西寄りを北上する区域が亜熱帯植生地域（図8）、それより北東が温帯植生地域である。

とはいえ、最近気がかりなことがある。それは地球温暖化だ。その影響か、異常な集中豪雨、ゲリラ豪雨に遭遇することもしばしばである。夏場の温度は38度を超え、竜巻の発生もたまに見受けられるようになった。熱帯魚が天草の海でも見受けられる。したがって、前述の亜熱帯、温帯などの区別がこのまま将来も続くかは不明である。それが良いのか、悪いのか。亜熱帯・温帯の両者の境で自然豊かな九州において、注意深く推移を見守る必要がある。前述の北限、南限を観測しつつ九州を巡れば、環境植生の風景をテーマにする風景街道の組み立ても可能である。

4　国立・国定公園とジオパーク、ラムサール

（1）国立公園と国定公園

自然公園法にもとづく国管理の国立公園、これに準じた都道府県管理の国定公園がある。その中で、**「国立公園」**は全国で32か所があるが、九州を見渡せば6地域である（表5）。うち瀬戸内海国立公園は関門と豊予海峡に面する福岡県、大分県の一部が含まれる。瀬戸内海に面し、先に述べた気候上の類似性をもつ区域である。それ以外は、阿蘇くじゅう、西海、雲仙天草、霧島錦江湾、屋久島である。

国立公園と風景街道との関係を表5の上段および図9に示した。風景街道に含まれるところは、国立公園を訪れる際に風景街道でビッグな自然資源となり、表中諸内容の風景を組み込むことができる。

「国定公園」は10個所（表5下段）。当然ながら国立公園を補うように存在する。北九州、耶馬渓日田英彦山、九州中央山地、祖母傾は山岳系であり、残り6は沿岸系。規模を別にすれば、いずれも国立公園に劣らない特色ある自然に恵まれている。

（2）ジオパーク

ジオパークは造語だが、最近よく知られるようになった。そのジオパークに九州から7か所が登録され、うち島原半島および阿蘇の2つは世界ジオパークである。

表6　九州関連のジオパークとラムサール条約登録地

ジオパーク	内容	関係自治体	風景街道
世界 島原半島	雲仙普賢岳など	島原、雲仙、南島原市	
阿蘇	阿蘇火山、カルデラなど	阿蘇地域8市町村	❽. ❾
日本 おおいた姫島	火山活動による黒曜石など	大分県姫島村	⓬
おおいた豊後大野	川上渓谷など	豊後大野市	
桜島、錦江湾	桜島、錦江湾	鹿児島市	❻
天草	多島海。化石	天草、上天草市、苓北町	⓭
三島村・鬼界カルデラ	硫黄島・硫黄岳	三島村	

ラムサール登録地	面積㏊	関係自治体	風景街道
くじゅう坊ガツル/タデ原湿原	91	大分県久住町、竹田市	❽
藺牟田池	60	薩摩川内市	⓮
屋久島永田浜	10	鹿児島県屋久島町	
荒尾干潟	754	荒尾市	
東よか干潟	218	佐賀市	
肥前鹿島干潟	57	鹿島市	

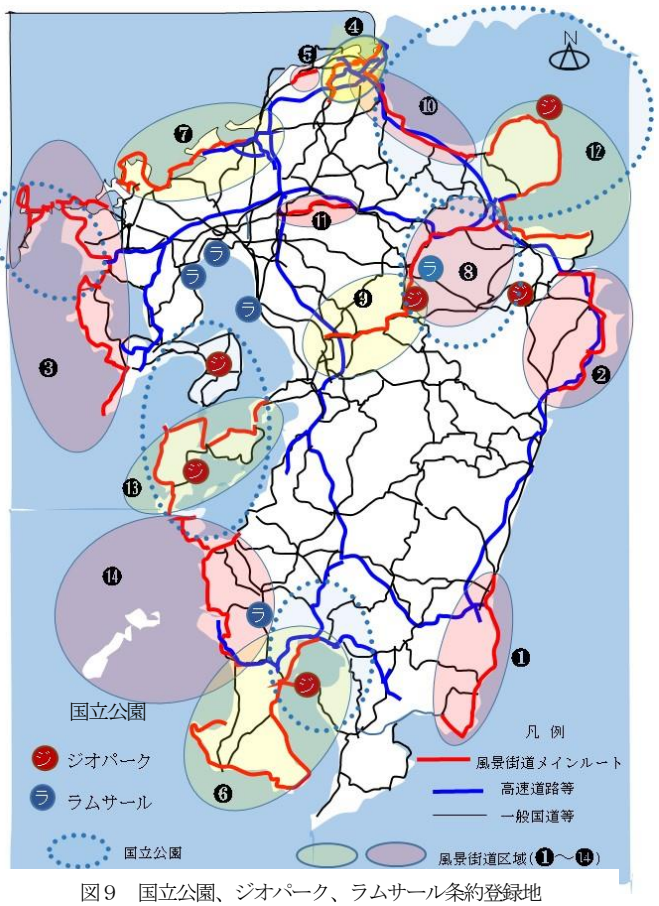


図9　国立公園、ジオパーク、ラムサール条約登録地


荒尾干潟（有明海、荒尾市）



⑮泥炭形成植物群落が見られる藺牟田池(薩摩川内市)Q-⓮



⑭　タデ原湿原（大分県竹田市、九重町）Q-❽

島原半島は、１９９０～１９９５年の雲仙普賢岳の火山噴出と火砕流発生に際し多くの犠牲があり、未だ記憶に残るが、それが落ち着いた機会をとらえ２００９年に認定された。

阿蘇は、世界規模といわれる阿蘇カルデラと、現在も噴煙を上げる阿蘇五岳を主にしたジオパークである。❾「阿蘇・くまもと」、❽「やまなみ」両風景街道の目玉だ。「阿蘇火山の大地と人間生活」がテーマで、カルデラの中だけで約５万の人々が暮らす。噴煙上げる中岳をはじめ、火山活動にかかわる地形や温泉、信仰など３３に及ぶジオサイトがある。

下段は、**日本ジオパーク**の登録地である。その中で、桜島⑨❻は阿蘇と同様に活火山を中心にしたものだが、海に直接面する点で大きな違いがある。大分県の姫島、豊後大野は、過去の火山が作り上げた奇岩が主体のジオパークである。

天草は１２０余ともいわれる多島。その中の御所浦島は化石の島として一度は日本および世界ジオパークに登録された。しかし、改めて他の島と一緒になって再登録され、九州を代表する日本ジオサイトとなった。特異な地形・地質と共に⓭「あまくさ」の目玉資源の一つである。

いま一つ、平家物語の俊寛流刑の地（鬼界ヶ島）とされる鹿児島郡三島村のジオパークがある。南海の孤島、**三島村の硫黄島（いおうじま）とその周辺海域の鬼界カルデラ**よりなる活火山であり、古代から硫黄が採掘されてきた。なお似た名だが、太平洋戦争で日米が戦いを繰り広げた東京都小笠原村の硫黄島（いおうとう。かつては「いおうじま」とも呼ばれた）がある。間違えないことだ。

ジオパークの指定でないが、大分市の佐賀の関から臼杵、津久見、佐伯を経て宮崎県延岡市に至る区間の海岸線（Q-❷）は、東九州沿岸で最も複雑な地形をなす**リアス式海岸**である。図６で明らかなように、四国方面から複数の構造線が走行する中で、古い付加体といわれる三波川帯と四万十類北帯などが接する複雑な地質がもたらしたものである。

（３）ラムサール条約登録地

表６の下段は「**ラムサール条約登録地**」。湿原、池、浜辺だが、最近では有明海の干潟２か所が相次いで追加登録された。これら登録地と風景街道地域との関係を図９に示す。くじゅう坊ガツル／タデ原湿原⑭は❽「やまなみ」に、藺牟田池⑮は❹「薩摩」に含まれる。

他方、現状では有明海の干潟は風景街道エリアに必ずしも含まれていない。しかし、島原半島は天草島原の乱の関係で⓭「あまくさ」と強く結びつく。

表７　棚田百選に登録された九州の棚田とその概要

県	市町村	棚田名	枚数	面積 ha	平均勾配	法面	起源	国土保全	－推薦理由－ 景観	生態系	伝統文化	風景街道
福岡県	八女市	庄内・上原	200	5.9	1/3.6	石積	近世		○		○	
	うきは市	つづら	300	6	1/6.7	石積	近世	○	○	○	○	⓫
	朝倉市	白川	40	2.3	1/8.0	土・石	不明		○			
	東峰村	竹	400	11	1/10.0	石積	近世	○	○			
佐賀県	唐津市	蕨野＊	1050	40	1/4.0	石積	近世		○		○	❼
	肥前町	大浦	1096	35.4	1/5.0	石積	中世		○			❼
	玄海町	浜野浦	283	11.5	1/7.0	石積	近世		○			❼
	有田町	岳	570	28.6	1/5.0	石積	近世		○		○	
	小城市	江里山	592	16.4	1/5.0	石積	中世		○			
	佐賀市	西の谷	74	5	1/13.0	石積	近世		○		○	
長崎県	波佐見町	鬼木	700	50	1/6.0	石積	中世	○			○	
	松浦市	土谷	400	10	1/4.0	石積	近代		○			❸
	川棚町	日向	80	6	1/15.0	石積	近代	○	○			❸
	長崎市	大中尾	300	6.5	1/20.0	石積	近世	○	○			❸
	南島原市	谷水	230	4.5	1/5.0	石積	近代	○	○			
	雲仙市	清水	260	10	1/5.0	石積	近代	○	○			
熊本県	産山村	扇	17	2.1	1/10.0	土羽	近世		○	○		
	八代市	日光	232	2	1/5.0	石積	近世		○		○	
	〃	天神木場	60	2	1/5.0	土・石	近世		○		○	
	〃	美生	52	1.3	1/10.0	石積	近世			○	○	
	上天草市	大作山	110	9.5	1/7.0	土羽	中世		○		○	⓭
	山鹿市	番所	80	1.1	1/6.6	石積	近代		○			
	球磨村	松谷	60	4	1/4.0	石積	近代		○		○	
	〃	鬼の口	80	2	1/5.0	石積	近代		○		○	
	水俣市	寒川	469	10	1/6.0	石積	近代		○			
	山都町	管迫田	517	40.8	1/15.0	土羽	近世		○			
	〃	峰	215	12.2	1/20.0	土羽	近世		○			
大分県	由布市	由布川奥詰	87	4.5	1/4.0	石積	近世	○	○	○		❽
	別府市	内成	1000	41.7	1/10.4	石積	近世	○	○	○		❽
	豊後大野城市	軸丸北	1100	51.6	1/10.5	土羽	近世	○	○			
	玖珠町	山浦早水	120	6	1/5.0	土・石	近代	○		○		
	宇佐市	両合	147	7	1/5.0	石積	近世	○	○			⑩
	中津市	羽高	70	4.9	1/10.0	石積	近世			○	○	⑩
宮崎県	えびの市	真幸	33	0.8	1/8.5	石積	現代				○	
	高千穂町	栃又	748	24.5	1/10.0	土羽	近代		○			
	〃	尾戸の口	780	16.4	1/10.0	土羽	近代		○			
	〃	徳別当	720	25.4	1/12.0	土羽	現代		○			
	日之影町	石垣村	178	6	1/4.0	石積	近代	○	○	○	○	
	五ヶ瀬町	鳥の巣	49	2.1	1/12.0	土羽	近代	○	○		○	
	〃	下の原	105	5.7	1/15.0	土羽	近代	○	○		○	
	〃	日蔭	82	7.5	1/18.0	土羽	近代	○	○		○	
	日南市	坂元	120	3.5	1/5.7	石積	近代	○	○		○	❶
	西米良村	向江	61	3.2	1/6.0	石積	古代		○			
	〃	春の平	67	3.6	1/10.0	石積	近代		○			
鹿児島	薩摩川内市	内之尾	150	10.9	1/6.0	石積	近世	○				⓮
	南九州市	佃	127	24	1/7.0	土羽	現代	○	○	○		
	湧水町	幸田	102	10	1/16.0	石積	近世		○	○	○	

資料は農林水産省構造改善局・農村環境整備センター：日本の棚田百選（1999）による。
時代区分：古代＝奈良、中世＝平安～室町、近世＝戦国～江戸、近代＝明治～昭20、現代＝昭21～
＊重要文化的景観（文化町）都市でも選定されている。

5　九州に多い「棚田百選」

いま一つの大切な地域資源に棚田がある。中国大陸等から稲作を取り入れたわが国は、菜畑遺跡（唐津市）や板付遺跡（福岡市）にみられるように、当初は集落周辺の平地に水を引いて水田を造った。その後、狭い土地を少しでも広げ、よりおいしい米づくりのためにと山を切り開き、棚田（千枚田）が開墾された。なかには、貧しまた、有明海で、佐賀県の「荒尾干潟」や「東よか干潟」は、⓫「みどりの里」前面の筑後平野先端に位置し、有明沿岸道路で結ばれる。時間に余裕があれば、当該風景街道訪問に際し寄り道するがよい。一世代一干拓と言われ、自然と人の合作である干潟と干拓、そして潮受け堤防が織りなす夕日の風景が永遠の時を刻むだろう



⑯彼岸花咲くつづらの棚田（福岡県うきは市浮羽町）Q-⓫

い生活のもとで、年貢を逃れるための隠田をつくる動機から、地形に合わせ、谷間や丘陵部にひっそり開墾した棚田もある。

小さな水田が何枚も重なる棚田は、人の知恵や血の滲む努力と自然が織りなす景観であり、風景街道の重要な地域資源である。しかし現代では、農業人口の減少、高齢社会の進展、後継者難から、先祖が辛酸をなめて開墾した棚田も維持できず放置される例が増えている。

そこで農水省は、１９９９年、棚田の保存を念頭に、全国に棚田百選の登録を呼びかけた。各都道府県から１３１市町村、１４９地区の推薦があったが、うち１１７市町村１３４地区が認定された。

農水省が定義したように傾斜度２０分の１以上の水田を棚田とみなせば、当時の棚田の総面積は２２万ha。その中で百選登録の１３４地区の総面積は約１４３０haで、０・６％に過ぎないが、九州からの登録は４７地区（全国合計の３５％）、面積にして５９５ha（同４２％）に及ぶ。また、地区あたりの平均面積は全国のそれを上回り、１２・７haである。田一枚当たりにすると、全国値の２・７倍、４１６㎡となる。

要するに、九州では棚田がよく発達している。これは、九州が稲作伝来の地であり、加えて、中山間地が多い地形条件や温暖な気候のためであり、早くから集落が各地に展開したことによる。

棚田百選に登録された県別の状況と風景街道との関係を表７に示す。熊本県、宮崎県に各々１１地区がある。佐賀、長崎、大分の各県は６地区、福岡４、鹿児島３。

百選に限れば、２０世紀末でなお耕されていた棚田は、その起源を近世とするものが多く、２１地区を占める。ついで近代が１７地区で、合わせれば８割である。中世、現代は各々３地区のみ。県別では、宮崎県以外の棚田は、中世に加え近世に起源をもつものが多い。これに対し宮崎県は、近代を起源とするものが多く、これに現代の２地区が加わる。

なお、宮崎県西米良村に平家の落人伝説があり、その向江（むかえ）地区（市房山の麓）の棚田は奈良時代が起源といわれている。

棚田の形に関連して各地区の平均こう配のそのまた平均を求めれば１／７で、法面は石積が大半である。一方、土を固めた土羽（どは）は１２地区で、残る３地区は土羽と石積が入り混じる。

棚田にどんな機能を期待するか。それを推薦理由から読みとれば殆どが景観である。その上で、伝統文化の維持や国土保全があり、また一部に生態系の保存がある。つまり、これらと良質米づくりが棚田の主要な役である。

百選以外にも優れた棚田は多い。また、田でなく畑として類似の段々畑がある。これらを含めれば、九州の風景街道のほとんどで、１、２か所は眺めがよい棚田等に遭遇するだろう。

吾妹子（わぎもこ）が　赤裳（あかも）ひづちて植えし田を刈りてをさめむ倉無の浜

（万葉集・柿本人麻呂）

納める倉がないほどの豊作を喜ぶ歌だが、裳は女性が腰から下にまとうもの、倉無しの浜は大分県中津市竜王町の海岸の田で、その古代風景が目に浮かぶ。

寄り道　土谷（どや）の棚田（松浦市島町土谷免）

伊万里湾には大小４８の島々が浮かぶ。それらを「いろは島」と呼ぶ。その同じところに福島と呼ぶ島がある。現在は福島大橋が架かり、九州本土と陸続きだが、その西側に、海に面する斜面を利用した土谷の棚田がある。面積は４haとさほど大きくはなく、また、平均勾配は１／４と急である。標高は１２０mだが、海に直接流れ込むように駆け下っている。このため、夕陽に映える棚田を見ることができ、棚田そのものが海に滑り込む感があり美しい。最近では、年に一度（秋）、畦道に灯明が設置され、幻想的な「土谷棚田火祭り」が催されている。



夕陽に映える土谷の棚田（長崎県松浦市のホームページより）

三　神話の時代から長い歴史を刻む九州の風景街道地域

１　九国二島の古代から江戸期を経て現代の七県体制へ

種子島の横峯遺跡と同様に、宮崎県児湯郡川南町後牟田、熊本県深川村（菊池市深川）下里などで数万年も前の旧石器時代の遺跡が発見された。大分県豊後大野市の岩戸遺跡（国史跡）では我が国最古といわれる後期旧石器時代の人型石偶が見つかっている。これらは、早くから九州各地に人々が住みついていたことの証である。何万年も前に、黒潮に乗り、当時はさほど遠くなかっただろうアジア大陸や南方の島々から、様々なルートで人々が移り住み、九州文明の礎を築いたと推察される。

この文明の起源と発展の中で多彩な出来事があり、同時に幾度かの国分けがあった。その要点に、古代国成立時の国分け、江戸時代の藩体制、そして現代の県区分をとりあげれば図１０～１２のとおりである。これらを頭に入れれば九州の歴史を知るうえで都合がよく、まずはじっくり図を眺めることだ。

古事記の大八島の誕生で、筑紫島は「身一つにて面四つあり」と記されている。それが、「筑紫の国」「豊の国」「肥の国」および「熊曾の国」である。そして、ヤマト王権が整うにつれ、前三者は各々２つに分けられ、熊曾の国は「日向の国」となった。この**「七国二島」**が大化の改新前の九州の国邑であり、二島はむろん壱岐、対馬である。

その後、律令制が整えられるにつれ行政組織が整備された。６９４年の肥後国を皮切りに、班田収授（一種の土地および税制度）の構築を目指した。その結果、８２４年に図１０の「**九国二島**」ができあがった。

当然だが、これが九州の行政区分の原点である。それが中世、近世と受け継がれ、その呼び名を今日なお用いることもある。九州風景街道の中で、「豊の国」「薩摩」を付したものはその例である。

そして、荘園時代になると地頭が、戦国時代になると戦国大名が群雄割拠した。このため九国二島はさらに細かく分割された。江戸時代には一国一城の「**藩体制**」が確立され（図１１）、九州全体が約３０の藩（支藩を除く）に分かれた。北部は細かい区分、南部は中世からの姿に近く、大きな区分である。

明治に入ると周知の廃藩置県があった。その後、長崎と佐賀、鹿児島と宮崎の再編があり、結局、明治１６年（１８８３）に現在の「**七県体制**」（図１２）が成立した。

図１０と図１２を見比べると、よく似ていることに気付くだろう。これは、九州文明が各地で古代から土着し引き継いできたことを意味し、長い時間かけて風習、人柄などで違いが醸成され、地域それぞれに育まれてきたもとをなすと理解できる。必ずしも的をえないが、「荒っぽいが開放的な福岡」、「葉隠れの佐賀」、「おおらかな長崎」である。あるいは、「各々で個性発揮の大分」、「肥後もっこすの熊本」、「ひとがよい宮崎」、「ぼっけもんの鹿児島」と。こうした状況では一つにまとまることは難しい。九州は「一つ一つ」、「７県バラバラ」とはよくいわれるが、だからこそ七県七色の虹の輝きを持つ文明が培われたともいえる。７県に広がる１４ルートの風景街道が各々で個性豊かに際立ち、来訪する者の様々な興味に応えることができるのもこのことにつきよう。

とはいえ、どこまでが薩摩か、どこが飫肥藩か。各時代の国分（くにわけ）は九州人には分かるが、域外の人には馴染みがない。そうであっても、九州の歴史と風土を理解する上から、また、巡る上で、ある程度を知る必要がある。そこで、ガイドブックを読む最低限の情報にと図１０～１２を示した。



図 10　九州の古代国（九国二島）

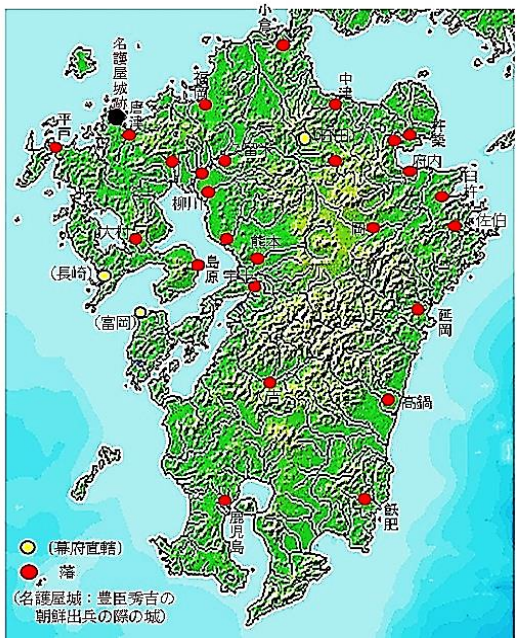


図 11　江戸時代の九州の諸藩

主な藩(国主,国主格,城主,城主格)

	藩	大名家
対馬	対馬府中	宗
筑前	福岡	黒田
	秋月	黒田
筑後	久留米	有馬
	柳川	立花
豊前	小倉	小笠原他
	中津	奥平
豊後	杵築	松平(能見)
	日出	木下
	府内	松平(大給)
	臼杵	稲葉
	佐伯	毛利
	岡	中川
肥前	唐津	小笠原他
	佐賀	鍋島
	平戸	松浦
	大村	大村
	島原	松平(深溝)他
	五島福江	五島
肥後	熊本	細川
	人吉	相良
日向	延岡	内藤他
	高鍋	秋月
	佐土原	島津
	飫肥	伊東
薩摩・大隅	鹿児島	島津

注) 譜代　他は外様



図 12　現代の行政区分（九州七県）

2　わが国の歴史を物語る九州の風景街道

次頁の表は、九州の長い歴史の中で、風景街道地域における古代から現代に至る歩みの一覧である。我が国をリードした多彩な内容があり、その主要な１０項目を、風景街道１４ルートとの関係を踏まえて時代を追えば次のとおりである。ある意味では、風景街道をたばね、その物語の骨格を与えるものである。

A　古事記等の神話伝説（❶日南海岸、❿豊の国、⓮薩摩、❼玄界灘）

出雲、伊勢など。全国各地に神話とそれに関連する神社がある。そうした中で、九州にも、瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）が高天原から筑紫の日向の高千穂峰に天下った神話が伝えられ、霧島連山の高千穂の峰の「天逆鉾（あめのさかほこ、青銅製）」は瓊瓊杵尊が突き立てたとされる。むろん現在のものはレプリカで、伝説の再現である。

天下ったのち、薩摩一帯に高殿（うてな）を築き、稲田を切り開いたとの言い伝えがある。可愛山陵の古墳（薩摩川内市）は、瓊瓊杵尊のお墓（神代三山陵の１つ）⑰と信じられ、宮内庁管理のもとに守られている。さらには、天岩戸開きの岩戸神社（高千穂町）があり、海幸彦・山幸彦の伝説が残る。そして、初代神武天皇の父、日子波瀲武鸕鷀草葺不合尊（難しいが、「ひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと」と読む）を主祭神にするのが鵜戸神宮⑱である。

その上で、神武天皇の東遷神話、日本武尊（倭建命）の熊襲討伐、

時代	事項	北部九州(福岡、佐賀県)				西九州(長崎、熊本県)		中九州(熊本、大分県)		南九州(鹿児島、宮崎県)			東九州(大分、福岡県)			九州のその他地域
		❶北九ゆ	❺むなかた	❼玄界灘	❽みどりの里	❸ながさき	❹あまくさ	❾熊本・阿蘇	❽やまなみ	❶薩摩	❻かごしま	❶日南	❷蒲・北	❷別府湾岸	❿豊の国	
黎明期(旧石器・縄文・弥生)	天孫降臨(瓊瓊杵尊) 神代三陵 筑紫の日向・高千穂 神武天皇(初代) 東征 神功皇后 東征 景行天皇(12代) 九州巡幸			高祖山、日向峠 (香椎宮、宮崎宮)			御所浦島			可愛山陵		鵜戸神宮			宇佐神宮	荒屋山(霧島市)、吾平山上(鹿屋市) 高千穂(宮崎・鹿児島県境) 高天ヶ原(宮崎県高原町) 日向国 黒貫神社(西都市)、高屋神社(宮崎市) 熊襲、ヤマトタケル伝説
3中～7世紀 古墳	(魏志倭人伝)	竹原古墳, 篠崎古墳, 八王子古墳(北)	東郷高塚古墳, 桜京古墳(宗)	菜畑遺跡、板付遺跡(水稲耕作) 57金印(漢倭奴国王) 吉武高木遺跡, 曽根遺跡群(糸), 志登支石墓群(糸), 唐津松浦墳墓群等 百済武寧王(加唐島)	下馬場古墳、日岡月岡古墳(う)、屋形古墳群(う)等	岳崎古墳(平), 鬼塚古墳(佐世保)、曲崎古墳群(長)	大戸鼻古墳群(上天)、権六古墳(天)等	塚原古墳群(熊)、釜尾古墳(熊), 中通古墳群(阿)	七ッ森古墳(竹田)	上場遺跡, 川除遺跡 下郡山遺跡(出), 鳥越古墳群(阿), 小浜崎古墳群(長)	指宿橋牟礼川遺跡(指)	生目古墳群(宮), 狐塚古墳(日)		亀塚古墳(大), 鬼の岩屋古墳(別)	石塚山古墳(苅), 川部高森古墳群(宇)	上野原遺跡(霧島市) 吉野ヶ里遺跡(吉野ヶ里) 西都原古墳群(西都), 原の辻遺跡(壱岐) 王塚装飾古墳(桂川) 527磐井の乱
592～710 飛鳥 710～794 白鳳奈良 794～1185 平安	663白村江の戦い(百済) 万葉集			防人、水城 怡土城 鴻臚館 遣隋・遣唐使(630～838) 志賀島、糸島						薩摩国分寺跡 長島, 大伴家持	759鑑真坊津上陸 遣唐使				豊前国分寺跡	大野城、基肄城の築城 720隼人の乱 太宰府政庁(7～13世紀) 臼杵磨崖仏
1185～1336 鎌倉 1336～1573 室町	禅宗伝来 1274文永の役(元寇) 1281弘安の役(元寇)			1195聖福寺 謝国明(日宋貿易、承天寺) 防塁の構築 刀伊の入寇(12, 19世紀) 1336多々良浜戦(足利・菊池勢)		鷹島神崎遺跡(元寇船)(松) 1549キリスト教伝来				1185島津忠久(薩摩荘地頭)						919太宰府天満宮(菅原道真)
1573～1603 安土桃山	1592文禄の役(朝鮮出兵) 1598慶長の役(朝鮮出兵) 1600関ケ原の戦い 初代	細川忠興		1587～太閤町割(博多) 名護屋城 黒田長政 寺沢広高		1550ポルトガル船平戸入港 1597二十六聖人殉教 松浦鎮信		加藤清正	中川秀成	島津義久降伏(泰平寺)	島津義久	伊東佑兵	毛利高政	竹中重利, 木下延俊, 細川忠興	細川忠興	
1603～1868 江戸	城	小倉城	(黒田藩)	福岡城 唐津城	(有馬藩)	平戸城、長崎奉行 1624鄭成功誕生-平戸 1634出島築造	直轄(富岡城)	熊本城 1637天草島原の乱	竹田城	(島津藩)	鶴丸城	飫肥城	佐伯城、	府内城、日出城、築城城	小倉城, 中津城	日田代官所 原城跡(南島原市)
1868～1945 明治～昭和戦前	世界文化遺産(明治産業) 1939～1945世界第二次大戦	1901八幡製鉄所等				1865大浦天主堂, 信徒発見 大江, 崎津 1869長崎造船所, 1870端島炭鉱等 1945長崎原爆	1887三角西(旧)港				1851旧集成官					黒崎教会, 今村教会 1858三重津海軍所跡 1878三池炭鉱, 三池鉱
1945～ 昭和戦後・平成	1975山陽新幹線 1995九州自動車道 2004長崎2005大分自動車道 2011九州新幹線 2016東九州自動車道	1963北九州政令市 1973関門橋 1975山陽新幹線	1995九州自動車道	1972福岡政令市 1975玄海原発運転開始 1975山陽新幹線博多乗り入れ 2011九州新幹線開業	2005大分自動車道	1955西海橋完成 2004長崎自動車道 2005女神大橋	1966天草五橋	1964やまなみハイウェイ 2011九州新幹線開業 2012熊本政令市	2005大分自動車道	(2004九州新幹線一部開業) 2015川内原発再稼働	2011九州自動車道		(2016東九州自動車道全線開通)			1958関門国道トンネル 1965鶴田ダム完成 2003九州の人口ピーク (少子化、高齢化)

朝鮮通信使

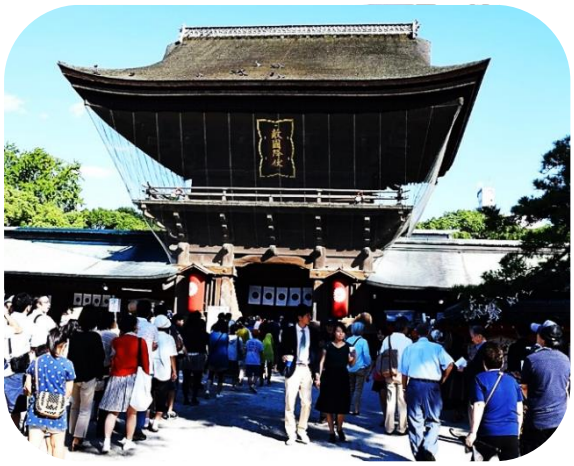
仲哀天皇・神功皇后伝説など、九州の北から南まで極めて多くの神話が伝えられている。中には、天草に御所浦とよぶ島がある。島で御所とは奇異だが、景行天皇が西国巡幸の際に行宮を置いた伝承に因むといわれている。



⑱　洞窟内の鵜戸神宮（日南市）　Q-❶



⑰　瓊瓊杵尊の陸墓といわれる可愛山陵(薩摩川内市)Q-⓮



⑳　宇佐神宮と共に３大八幡宮の１つ筥崎宮（福岡市　Q-❼



⑲　八幡様の総本宮宇佐神宮(宇佐市)　Q-❿

神話の真偽は不明だ。しかし、ギリシャやローマ、中国など、各国、各地の神話がそうであるように、日本人のルーツ探しの話として、日本人には大変興味がある。信仰の対象であり、そのシンボルが宇佐神宮⑲や筥崎宮⑳などで、それを物語るロマンに誰もが興味をそそられる。

同時に、農村、山村では、神社の祭りに神楽舞が奉納され、その題材はこれらの神話からとったものが多い。宮崎県高千穂町の夜神楽、椎葉村の椎葉神楽、大分県豊後大野市の御嶽神楽、熊本県南小国町の吉原神楽、福岡県築城町の岩戸神楽などがある。あるいは国生み、天孫降臨、八岐大蛇（やまたのおろち）退治などを題材にしたものもある。神楽は、五穀豊穣を祈るとともに、地域に根づく大衆芸能である。酒とご馳走を神社に持ち込み、お籠りしながら村人たちが楽しむ場に出会うと、日本の故郷の原風景にひたる思いがする。

B　稲作の伝来と環濠集落（❼玄界灘、❻かごしま）

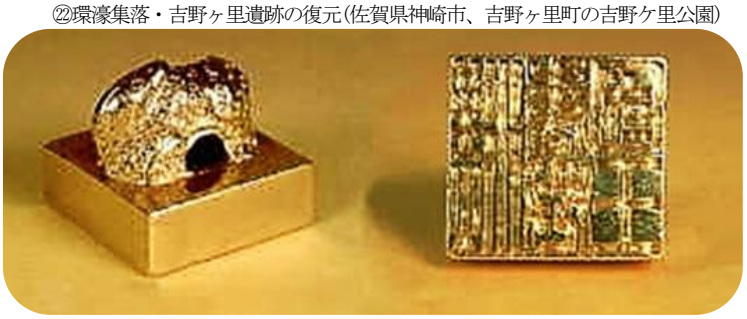
わが国の食文化で最も大切な稲作は、揚子江下流域からさまざまなルートをたどり、九州南部、北部に伝来した。縄文時代晩期には陸稲が伝えられた（鹿児島県霧島市上野原遺跡）。菜畑遺跡（佐賀県唐津市）や板付遺跡（福岡市）などで弥生時代の初め頃の水田遺構が見つかった。これらから、稲作が中国大陸から、諸ルートを経由し九州各地に伝えられ、米をベースに和食文化の原形が産み出されたことは



㉑　弥生早期の水田遺構が発見された環濠集落・板付遺跡の復元
（福岡市博多区）　Q-❼



㉒環濠集落・吉野ヶ里遺跡の復元(佐賀県神崎市、吉野ヶ里町の吉野ケ里公園)



㉓　AD57年、後漢・光武帝から授けられた金印「漢倭奴国王」
（福岡市博物館)のレプリカ　Q-❼

確かである。また、この頃になると、人々は定住し、V字型の濠がめぐらされ、環濠集落が形成された。環濠集落は、もともと長江中流域や南モンゴルがルーツとされ、それが、稲作と同様に、九州北部に伝えられたといわれている。

防御のために環濠がめぐらされ、そうした古い集落として那珂遺跡(福岡市)、江辻遺跡(福岡県粕屋町)がある。また、板付遺跡(福岡市)㉑は弥生前期を代表し、吉野ヶ里遺跡(佐賀県神埼市、吉野ヶ里町)㉒は弥生後期を代表する環濠集落として復元が図られている。板付遺跡は福岡空港の近く西側に、吉野ヶ里遺跡はJR長崎本線沿いの北側で歴史公園として整備が進む(図13)。これらを訪ねれば、板付のように、高層のマンションが取り囲むとも違和感はない。吉野ヶ里はまるで農村集落の一つかのように周りの風景に溶け込む。こうしたことから、環濠集落も現代に通じ、訪ねれば古代人がひょいと顔をのぞかせそうな趣がある。

C　金印の発見と古墳群（❶～⓮の全て）

福岡市東区志賀島で江戸時代に金印㉓がみつかった。歴史上稀に見る大発見である。後漢の光武帝が、２０００年も前に福岡市近辺にあった奴国に与えたものだ（ＡＤ５７年）。現物は福岡市博物館に収蔵されているが、「漢倭奴国王」と刻まれている。恐らくこの頃は、板付遺跡のように、九州北部に集落ごとの国邑が数多くあったと想像される。

ところで、中国の歴史書「三国志」の魏志倭人伝に３世紀頃のわが国の記述がある。それによれば、「狗邪韓国から、對馬国（対馬）、一大国（壱岐）を渡り、末盧国（東松浦半島）に上陸。伊都国（糸島市）、奴国（福岡市南部、春日市）、不弥国（福岡県宇美町付近の説もある）から投馬国（南、水行２０日）を経て、邪馬台国に至る」と述べられている。これらのうち末盧国、伊都国、奴国の位置は概ね特定されるが(図13)、投馬国や邪馬台国は現在なお明らかでない。九州、近畿などと諸説がある。

そうした中で、２、３世紀の頃のものと思われる吉野ヶ里遺跡㉒（佐賀県神埼市、吉野ヶ里町）の大発見があり、勾玉・管玉、銅剣や銅鏡が出土した。魏志倭人伝記述の「ものみやぐら」や墳丘墓などの遺構も発掘された。これらから卑弥呼の邪馬台国ではと考古学ファンは色めき、連日押し寄せたほどだ。

一方、福岡県糸島市の曽根遺跡群の中に平原遺跡㉔がある。中国、日本製の大型銅鏡など多くの副葬品（近くの伊都国歴史資料館（糸島市）に展示）からして女王の墓と目されている。しかし、卑弥呼だ、いやその縁者だ、などの説に分かれ、定かでない。

もともと、曽根遺跡群は、伊都国の王の墳墓の集まりである。また、少し離れた位置に朝鮮式の志登支石墓群がある。これらと周辺の古代遺跡を含めると、糸島半島とその周辺の福岡市西区の至る所に実に多くの古墳が分布し、多数の古代国が存在したことは明らかである。

ヤマト王権に対し熊襲(九州南部の部族)が、磐井（九州北部の有力者）が、隼人（大隅、薩摩などに居住した部族）が反乱を起こしたとされる。これらから憶測されるように、古代には九州各地に豪族が割拠した。その証が、表８に示すように、すべての風景街道地域で豪族のものと思える古墳群がある。円墳、方墳、前方後円墳。考古学に興味がある人は、これらを訪ねることで各地の豪族の歴史をたぐり寄せることができ



㉔　曽根遺跡群における女王の墓・平原古墳（福岡県糸島市）　Q-❼



朝鮮式の志登支石墳墓から見た糸島平野（福岡県糸島市）。狼煙台があった火山、朝鮮南部の山の伽耶山に似た名の可也山。　Q-❼

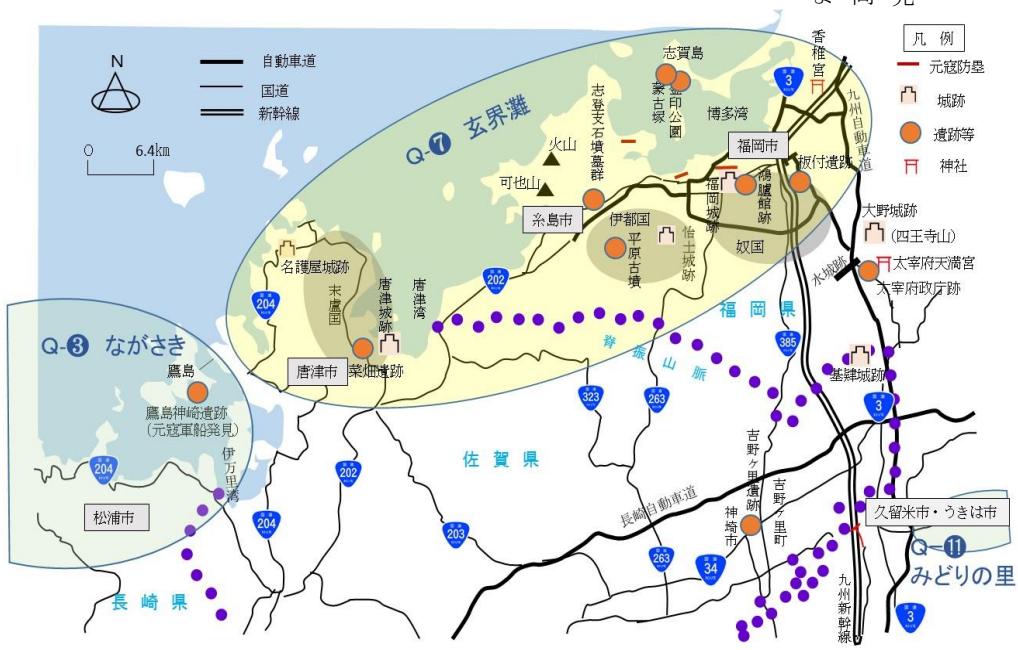


図13　九州北部の歴史を物語るさまざまな古代遺跡群と風景街道

る。

D　防人と万葉集の編纂（❸ながさき、❼玄界灘、⓮薩摩）

時代は下って６６３年。隣の朝鮮半島では百済が唐・新羅に敗れ、その復興戦の応援をわが国に要請してきた。時の権力者・中大兄皇子は出兵を決意したが、相手が唐軍１３万、新羅軍５万であったことからすると、相当規模の派兵と推測される。しかし、結果は大敗した。

幸いに、唐がわが国に攻めてくることはなかった。とはいえ、これを機に、国号が倭国から「日本」に改められ、律令国家の制定を急ぎつつ、九州沿岸の守りにと防人が配備された。これは唐の制度を倣ったものだが、当初は遠江以東の東国から、７５７年以降は九州から徴用された。

太宰府政庁が指揮をとり、壱岐、対馬、筑紫へ。また、中原遺跡（佐賀県唐津市）の墨跡木簡から、肥前国への防人の配置もあったことがうかがえる。

防人の務めは、決して楽でなかった。任期３年だが延びることも。あるいは、九州までは「掛もの（部領使）」が同行したが、食料、武器は自弁だ。帰りは付き添いもなく、途中で行き倒れになるものもいたとのことである。わらべ歌ではないが、まさに「行きはよいよい　帰りはこわい」である。

こうした苦難の中で、防人はそのつらさ、望郷の念、家族への思いなど、心の叫びを歌にしている。１００首に余る防人の歌が万葉集に納められているが、その１、２をあげれば、

○我が妻はいたく恋ひらし飲む水に影さへ見えてよに忘れず　（若倭部身麻呂）

○小竹（ささ）が葉のさやく霜夜に七重かる衣に益せる子ろが肌はも　（不明）

周知のように、万葉集は7世紀後半から8世紀後半までの歌を集めたものである。皇族、貴族、官人、防人などさまざまな人が詠んだ歌４５００首以上が収められている。その中の防人の歌はむろん九州とかかわりが深い。合わせて、万葉集編者の大伴家持は薩摩守、大伴家持の父・大伴旅人は太宰府師、万葉歌人として有名な山上憶良は筑前守に任ぜられ、九州に関わる歌を残している。

○ここにありて筑紫や何處白雲のたなびく山の方にしあるらし　（大伴旅人）

○大野山霧立ち渡るわが嘆く息嘯（おきそ）の風に霧立ちわたる　（山上憶良）

九州各地に万葉の歌を刻む石碑がたつ。特に「玄界灘風景街道」地域（志賀島（福岡市）、万葉の里公園（糸島市）、神集島（唐津市）など）に多い。また、太宰府とその周辺（福岡県）に加え、南の鹿児島県の薩摩川内市にも大伴家持の縁で「万葉の散歩道」があり、出水郡長島町の「うずしおパーク」にも万葉歌碑が建つ。

白村江の戦いに敗れ、唐や新羅がよほど怖かったのか、防人の制度に加え、それまでの筑紫太宰を太宰府に移し、政庁（都府楼）の近くに、他では類を見ない防衛ラインとして水城（６６４年）㉕が築かれた（図１３）。福岡県大野城市から太宰府市にかけての約１・２㎞に及ぶ直線の堀と土塁である。高さは１０ｍを超え、幅は８０ｍ。博多湾よりに幅６０ｍ、深さ４ｍの堀がつくられ、水が貯えられた。

百済からの亡命貴族・憶礼福留（おくらいふくる）と四比福夫（しひふくふ）の協力をえて朝鮮式古代山城が築かれた。大野城（福岡県大野城市、宇美町にまたがる四王寺山一帯。６６５年の築城。現在は福岡県民の森）および基肄（きい）城（椽（き）城ともいう。佐賀県三養基郡基山町と福岡県筑紫野市にまたがる基山山頂一帯。６６５年）がそれらである。大野城は、四王寺山に約８㎞にわたり土塁や石垣で山頂部を囲み、その中に必要な建物を構築したものである。また、対馬・壱岐・筑紫にも防人を配し、狼煙台が設置（６６４年）された。

要するに、日本の国を確立し、これを守る砦として九州北部の一帯が重要視され、あらゆる方法で幾重にも防備が固められた。まさに九州は我が国の国防最前線であり、このことは現代も同じである。

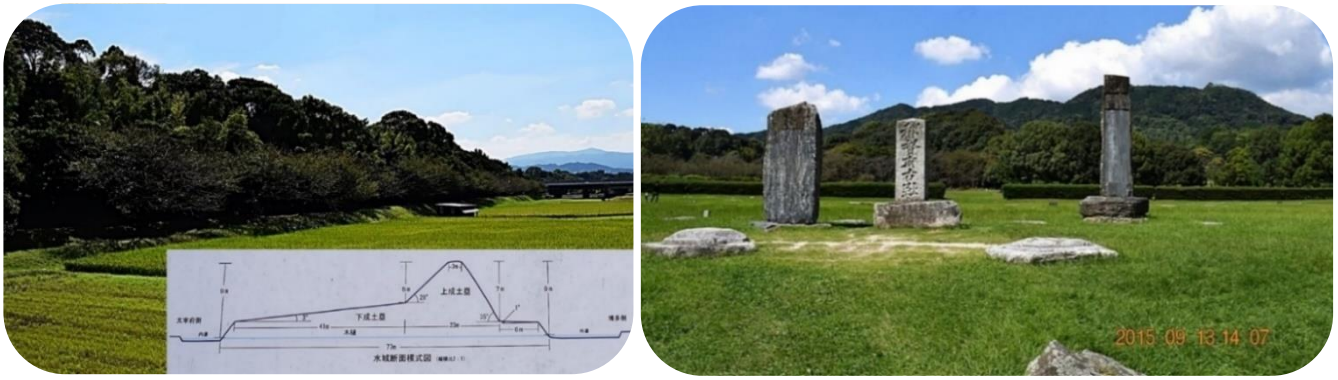
E　遣隋使、遣唐使と日本の外交拠点「鴻臚館」（❼玄界灘、❸ながさき、❻かごしま）

前述と時代は重なるが、奈良、平安時代、九州は、わが国の外交の窓口として重要な役を果たした。つまり、古代のわが国と中国との交流を示す証に、前述した奴国への金印授受（５７年）がある。また、卑弥呼へ「親魏倭王」の金印（２３８年か、２３９年かはっきりしない）が授けられた。さらに、宋書の「倭国伝」によれば、５世紀に、倭の五王「讃・珍・済・興・武」が宋に使節を派遣し、官位が授けられたとある。ただし、五王と天皇との関係はいまだ諸説あり比定されていない。

このように古代の早い段階から、わが国は、中国や朝鮮半島と深く交流してきた。それを特に活発にしたのが隋・唐への派遣。派遣の目的は、当時の先進地、隋や唐からすぐれた技術や制度を学ぶことである。また、仏教の経典や教えを持ち帰ることであった。

第１回の遣隋使は６００年で、国書を持たなかった。第２回は６０７年の小野妹子らだが、国書の書き出しは、「日出ずる処の天子、書を没する処の天子に致す」で、倭王（皇）を天子とした。このことに隋の煬帝は立腹し受け取らなかったと伝えられる（随書）。メンツをかけた外交の難しさか。とはいえ、６０８年、隋から答礼使の裴世清（はいせいせい）が我が国へ派遣され、以来、隋が滅びるまでの１８年間で我が国から５回以上にわたり派遣されている。

隋滅亡後は唐の時代。第１回の遣唐使は６３０年の犬上御田鍬（いぬかみのみたすき）である。その後、１８回ほどの派遣があったが、８９４年、菅原道真の建議で廃止された。これは、唐が衰退し、派遣の意義が失われたことによる。



㉕福岡県大野城市から太宰府市に 1.2km にわたり築かれた水城(左)と太宰府政庁跡（都府楼跡）（福岡県太宰府市）（右）

以上が遣隋使・遣唐使の経緯で、それらと九州との関わりは深い。これは都から瀬戸内海を通る海路によったことによる。大阪の住吉津をでて難波津に寄り、九州の那の津（福岡市）を経由した。

那の津から先は、大まかに3ルートがある。一つは北路で、対馬から朝鮮半島の西海岸沿いを通過し、遼東半島に至るもので、６３０～６６５年の航路。２つ目は九州北岸に沿い五島列島から東シナ海を横断するもので、白村江の戦いの後の７０２～８３８年までのルート。３つ目は薩摩の坊津（南さつま市）、南薩諸島を経由し、東シナ海を横断するものだが、嵐による漂流との見方もある。

遣使など渡航者、来航者の中で、特に九州と関わる人物に山上憶良、吉備真備、鑑真がいる。また、関連施設に鴻臚館㉖や怡土城などがある。加えて、菅原道真は後に太宰府に左遷された。これらをもとに、遣隋使・遣唐使時代の風景ポイントを2，3紹介しよう。

☆ **怡土城跡**（❼玄界灘）

福岡市西区で、姪浜地区と糸島半島の境に高祖山（標高４１６ｍ）がある。この山の西斜面一帯に山城があった。それが怡土城である。築城は７５６年から12年間に及び、吉備真備（12次遣唐大使）が着手、佐伯今毛人（いまえみし。16次遣唐大使だが渡航しなかった）が引き継ぎ完成させた。これは、唐（玄宗皇帝の時代）で安禄山の乱（７５５～７６３年）があり、また新羅が日本からの国使との会見を拒否したなど、対外的に緊張が高まったことへの備えである。

本城は中国式の山城。尾根伝いに望楼を配し、麓に土塁・石塁（高さ１０ｍ、長さ2㎞）を築いた。



㉖ 鴻臚館発掘と復元模型(福岡市舞鶴公園鴻臚館跡展示館)Q-❼



㉗ 元寇の防塁(福岡市西区生の松原) Q-❼



竹崎季長が描かせた蒙古襲来絵詞(弘安の役)。いざ出陣。



てつはう、矢をものとせず蒙古軍と必死に戦う御家人 Q-❼

登ればいまもところどころに１３００年の時を経た遺構がみられる。

☆ **太宰府政庁跡、鴻臚館、太宰府天満宮**（❼玄界灘）

九州は都から遠く離れ、その一方で大陸との近さから、特別の扱いとなった。つまり、磐井（日本書紀では筑紫国造磐井）の乱（５２７～５２８）の後に那津口（博多付近）に宮家を設け、６０９年頃は筑紫太宰（つくしおほみこともちのつかさ）と称した。そして、白村江の戦いの後の7世紀後半、現在の太宰府市に移された。

太宰府政庁㉕は、陸奥の鎮守府など、諸国の国衙（こくが）の1つとして九州を統治した。しかし、「遠の朝廷（とうのみかど）」とも呼ばれ、わが国の外交・防衛の役をもになった。ある意味では古代に中央官庁の地方分散があったといえよう。

そして、その一機関に福岡市の福岡城の一角の「鴻臚館（こうろかん）」㉖があり、１９８７年に発見された。鴻臚とは中国の同様の施設・鴻臚寺に由来する。外国からの来客をもてなす迎賓館で、遣隋使、遣唐使を接待する客館であった。丁寧なもてなしがあったと推察される。また、鴻臚館と太宰府の間に、ほぼ真っ直ぐのびた官道があったことも明らかである。

太宰府政庁跡の近くに太宰府天満宮がある。菅原道真は太宰府に左遷され、９０３年に没したが、その道真を祀る神社である。今では学問の神様として多くの人々に崇められ、また、飛梅伝説が有名で、隣接して九州国立博物館がある。

○東風（こち）吹かば　匂ひをこせよ梅の花　主なしとて　春な忘れそ（菅原道真）

☆ **鑑真の坊津上陸**（❻鹿児島）

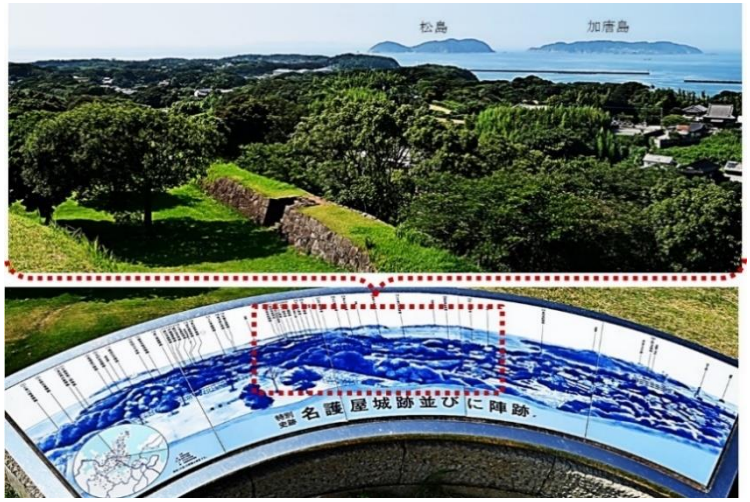
遣隋使、遣唐使には、日本から留学生や僧などが同行し、優れた技術や知識を持ち帰った。その一方で、中国から乗船し日本にきた高名な中国人もいる。その一人が日本に戒律を伝えた鑑真和上である。鑑真は、中国の戒律僧で、日本（聖武天皇）から戒律を懇願され訪日を決意したが、妨害や暴風に会うなどで幾度も失敗した。ついには失明し、6回目にようやく鹿児島県坊津の秋目に仏舎利を携え到着（７５３年）した。当時の航海が命がけだったことを物語るが、到着後は、太宰府観世音寺隣りの戒壇院（太宰府市）で初めて授戒を行い、以後、奈良の東大寺、唐招提寺に移り住み、多くの人々に菩薩戒を授け、７６３年に没している。

F元寇の役（❼玄界灘、❸ながさき、⓫みどりの里）

前述のように、わが国は防備を固めたものの、8世紀から10世紀にかけ、新羅の入寇（にゅうこう。海賊行為）にしばしば悩まされた。たとえば、８１３年、肥前五島・小値賀（おおか）への侵入があり、８６９年に新羅からの海賊が筑前國那珂郡（博多）の荒津に上陸、豊前の貢調船が襲撃された（貞観の入寇）。また、８９３、４年には熊本、長崎、壱岐、対馬への入寇があった。これらは、新羅の治安の悪化



豊臣と島津の和睦（薩摩川内市泰平寺）Q-⓮



㉘　豊臣秀吉の朝鮮出兵における前線基地・名護屋城跡（唐津市）Q-❼

や飢饉が原因とみられている。

そして、鎌倉時代になると、今度はモンゴル帝国および高麗王国から2度にわたる襲来を受けた。それが文永、弘安の役であり、あわせて元寇と呼ぶ。

元寇では、蒙古軍が博多湾、糸島半島、伊万里湾などに襲来。これに対し、暴風雨（神風）による自滅・撤退説もあるが、同時にわが国の御家人たちが総力をあげて死に物狂いで戦ったことも事実である㉗。福岡市早良区西新の丘陵地祖原山（そはらやま）での戦いがあり、東区志賀島に蒙古塚がある。玄界灘風景街道に隣り合う❸「なが さき」風景街道の鷹島（松浦市）は、全島民が犠牲になった激戦地である。神風で沈没したとされる蒙古船が発見された鷹島神崎遺跡（日本初の海底遺跡）があり、軍船の一部や遺品は引き上げられ、鷹島歴史民俗資料館に陳列されている。久留米市・草野歴史資料館には草野一族の活躍を描いた絵詞が展示されている（⓫みどりの里）。

そうした中、築造されたのが元寇防塁㉗である（❼玄界灘）。博多湾沿いの東西各地にみられる。東区筥松、中央区地行、早良区百道、西区生の松原、今宿、今津など（図13）。当然だがこれらを結べば鎌倉時代の海岸線が浮かび上がり、当時の海辺をたどる風景街道となる。絵詞の状況を思い描くと、当時の国難が戦国ドラマのように眼前に迫る。家族を守るにはどうしたろうか。戦ったろうか、無事連れて逃げただろうかなどと。

G　豊臣秀吉の九州平定と朝鮮出兵（❼玄界灘、❿豊の国、⓬別府湾岸、⓮さつま）

16世紀の戦国時代といえば、関東や奥羽、美濃での戦いが有名だが、九州でも激しい戦いがあった。１５８０年代の後半、九州では有力な戦国大名として大友、龍造寺、島津の3氏が台頭。その中で島津は九州平定をもくろみ、日向、肥後、肥前へと侵攻した。龍造寺を下すとともに、岩屋城（福岡県太宰府市）、立花城（福岡県粕屋郡新宮町）など豊後大友勢をも攻めたが、これを阻止せんと大友宗麟は羽柴秀吉に助けを求めている。これに対し秀吉は、諸大名に停戦命令を発し、国分（くにわけ）案を提示すが、島津が従わないため九州攻めを決断（１５８６年）した。秀吉の命を受け、北陸や東海道、中国、四国などの諸大名と九州勢が合流して島津に対抗。そして、１５８７年、弟の秀長は豊後・日向と東九州を、秀吉は筑前・肥後と西九州を南下し、各地で転戦しながら薩摩を目指した。

豊後府内城（大分市）、豊後梓越え（大分県佐伯市）、豊前岩石城（福岡県田川郡添田町）などで戦い、結局は日向根白坂（宮崎県児湯郡木城町）の戦いで島津は豊臣の大軍の前に敗れた。秀吉は海路で出水に入り、薩摩平佐城（薩摩川内市）の戦いを最後にして、川向かいの泰平寺（薩摩川内市）に島津義久は頭を丸めて出頭し降伏した㉘。

戦後処理に、秀吉は筑前筥崎（福岡市東区箱崎）の筥崎宮から九州国分令を発し、九州平定を成し遂げた。また、焼野原となった博多のまちの復興のために町割りを行うとともに、さらにバテレン追放令が発せられた。

秀吉の戦いはこれで終わりでない。九州を前進基地に、かねてから構想していたといわれる大陸進出「唐入り」へと乗り出した。１５９１年、諸大名に侵攻軍、予備軍の宿営地として名護屋城（佐賀県唐津市鎮西町）㉘の建設を命じ、軍隊を集結。これが文禄、慶長の役である。

文禄の役（１５９２～９３年）は、「唐入り」に際し、朝鮮に「明」への道案内を命じたが拒絶された。そこでまずは朝鮮を攻めるとして総勢１５万８０００人が集まり戦を仕掛けた。当初は勝ち戦が続いたが、朝鮮側に「明」の援軍や義兵の参加があって膠着状態となり休戦。

その後、講和交渉の決裂で、１５９７年に再び慶長の役となり、１４万１５００人が出陣したが、１５９８年の豊臣秀吉の死去で侵攻を諦め撤退している。

この間、大阪城に次ぐ規模の名護屋城とその周りの各大名の陣屋が、わが国の外交・軍事の拠点となった。地元住民も突然のことでさぞびっくりしただろう。水戸の佐竹家被官・平塚滝俊は「野も山もあいたところがない」と書状にしたためているが、現在は夏草茂る兵どもが夢の跡である。名護屋城跡㉘をはじめ多くの陣跡が、国の特別史跡に指定されている。また、名護屋城跡に接して佐賀県立名護屋城博物館が開設され、関係資料が展示されており、詳しい情報を入手することができる。

H　関ケ原の戦いと九州の戦国大名たち

秀吉亡き後、豊臣を支えた諸大名間で覇権争いがあり、その雌雄を決したのが関ケ原の戦い（１６００年）である。九州の大名も東軍（徳川方）と西軍（石田方）に分かれた。暗闘する諜報戦の中で、難しい判断があったと思われるが、結局のところ、東軍方は、黒田長政（中津から福岡の筑前名島に加増転封）、寺沢広高（唐津藩の初代譜代大名）、有馬晴信（宇土城攻撃し所領安堵）、加藤清正（宇土・柳川城攻撃、所領安堵）、飫肥の伊東祐兵（所領安堵）であり、さほどの数でなかった。

それら以外は、一部に在国し参戦しなかったものもいるが、ほとんどは西軍方につき、戦の後所領を没収された。その中で、中川秀成(岡)、竹中重利(高田)、鍋島直茂(佐賀)、島津義久(島津)、宗義智(対馬府中)は安堵された。

また、小早川秀秋(筑前から備前岡山に加増転封)、相良長毎(人吉)、高橋元種(延岡)、秋月種長(高鍋)は西軍から東軍に寝返り安堵されている。

Ⅰ　江戸時代の九州

関ケ原以降は江戸時代。この時期の九州を特記すれば4点がある。一つは、一国一城のもとに、17世紀初頭に各藩で「**城および城下町**」が整備されたことである。図11、表8に示すように、城は各風景街道のルートに必ずといってよいほどある。江戸期からの天守はないが、復元されたものに小倉城、唐津城、平戸城、熊本城がある。

熊本城㉚は加藤清正が築城し、続く細川氏により改築された周囲5・3㎞、総面積98万㎡に及ぶ難攻不落の城で、西南戦争にも耐えた。また築城400年を記念し、本丸御殿が復元されている。

一方、荒城の月で有名な竹田の岡城㉙や福岡城、臼杵城、飫肥城は、城跡であってもそれぞれを巡り、城の構図や石の積み方などの築城技術、城とまちとの関係、城下町の構造、武家屋敷、町民のまち、寺町などを見ることも考えられる。

2つ目は、農民が立ち上がり、反乱を起こした「**天草・島原の乱**」(1637～1638)である(⓭あまくさ)。わが国では、豪族や武士たちの覇権争いや領土争いとしての戦いは多い。小規模な農民一揆や宗教上の一揆も多々ある。しかし、農民が起こした本格的な反乱は、この島原・天草の乱が我が国で唯一である。3万人を超える島原、天草地域の農民が反乱を起こし、天草四郎㉛の指揮の下で島原城に籠り1年余戦い続けた。まさに農民革命である。

3つ目は、わが国が鎖国策をとる中で、「**長崎**」だけが開港され、西洋やアジアの諸地域との交流、交易が続いたことで、これまたわが国唯一つのことである。まずは平戸が開かれた。その後、長崎に出島が築かれ、オランダやポルトガルの文明が受け入れられ、あるいは、中国との交流があった。長崎名物・卓袱(しっぽく)料理を和華蘭(わからん)料理と揶揄するが、それほどに国際色豊かな文明・文化の花が長崎の街に開いた。いまも長崎を訪ねれば、独特の雰囲気があり、異国情緒を味わうことができる(❸ながさき)。

もう一つは、前2者と深く関わるが、幕府が禁教令を布告し、想像に絶する弾圧があったことである。その中で、「**隠れキリシタンの信仰**」が長崎、天草を中心に密かに続いたが(❸ながさき、⓭あまくさ)、具体的には2通りの動きがあった。

つまり、信者たちは、隠れながらもさまざまに工夫し、明治に至るまで苦難の道を歩いた。踏み絵や、幾度となく摘発(崩れ)を受けたが、明治に至り世界で例を見ない「潜伏キリシタン」の復活となった。時の教皇ピオ九世は「東洋の奇跡」と驚き称賛。小さな島や半島が多いことに加え、九州人の辛抱強さ、頑張り、そして島原天草の乱が背景にあったと考える。

一方、「オラショ(祈祷)」のもと、指導者不在の中で、自然や殉教者などの崇拝と結びつき、あるいは隠れ蓑とした神道、仏教と融合し、世界に例をみない民族信仰を生み出したことがあげられる。これを「カクレキリシタン」と呼ぶ文献もあるが、長崎県北部の生月島、平戸島(平戸市)、外海(そとめ。長崎市)などでいまなお続く。信仰はどこにあるとも力強い。

Ｊ　明治時代における産業の近代化(❹北九州、❸ながさき、⓭あまくさ、❻かごしま)

明治時代、わが国は鎖国策の呪縛から解き放たれた。文明開化があり、富国強兵策がとられた。その中で、特に産業の近代化が図られ、炭鉱、鉄鋼、造船業が展開されたが、九州もその大きな役を担った。江戸時代からの長崎の開港と西洋文明導入の蓄積があり、アジア諸地域と地理的に近接し、北部九州においてエネルギー源として大量の石炭が産出したことなどから、製鉄、造船などの重工業が立地・発展した。その時の主要産業をもとに、2015年、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産として登録されている。



㉚熊本城の天守閣(熊本市)　Q-❾



㉛　天草四朗像(天草市天草キリシタン館前)　Q-⓭





㉙“荒城の月”の滝廉太郎像と岡城址(大分県竹田市)　Q-❽

むろん遺産は全国に存在するが、その半分以上が九州に立地する（表９）。鉄鋼業では官営八幡製鉄所、造船業では三重津海軍所跡、長崎造船所・小菅修船所、集成館、石炭では高島炭鉱、端島炭鉱（軍艦島）、三池炭鉱などである。

登録内容からすれば、８つのエリア中５つのエリア、２３の構成資産中１３までが九州である。わが国が、明治の近代化の中で西洋文明を取り入れ、九州を舞台に何とか経済発展を遂げたいとの必死の努力の結果であるといえ、これからの困難な時代を乗り切るヒントにもなるであろう。

なお、これらの産業を推進した人々に、島津斉彬、坂本龍馬、岩崎弥太郎、団琢磨、トーマス・グラバー（英）などがあげられる。加えて、歌劇・蝶々夫人があり、ロマンあふれる物語が花を添えている。

表８の下段は、世界遺産の登録を目指す福岡県の宗像・沖の島と関連遺産、長崎の教会群とキリスト教関連遺産である。

前者の宗像大社は、日本人のルーツに関わる古代海洋民族の信仰で、沖津宮（宗像市沖ノ島）、中津宮（同筑前大島）、辺津宮（同田島）からなる。とりわけ沖の島は、「神の島」とも呼ばれる玄界灘の孤島である。島そのものが信仰対象で、古代遺跡の出土品は８万点にも及ぶ国宝が含まれ、大変貴重である。ただ、信仰上の理由から見学は自由でなく、年一回で、しかも女人禁制であり、海中での禊が求められる。とはいえ、この世界文化遺産は、日本人にとっては時空を超えるような心の旅であり、誇りである。

後者は、明治に入り信仰の自由が認められ、長崎や天草の隠れキリシタンたちが建てた教会群である。これら教会建築は必ずしも西洋に倣うものでない。貧しい中、石を拾い集めて作った大野教会堂、踏み絵があった場所に建てた畳敷きの崎津教会など、地域に根差した教会がある。現在も利用され、中を覗けば、受難から蘇った必死の祈りが伝わってくる。



旧グラバー住宅　（1863 年、長崎市）　Q-❸



三角西（旧）港　（1887 年開港、宇城市）　Q-⓭





㉜　世界遺産「明治日本の産業革命遺産」（九州関連）

表８　九州から登録された世界文化遺産と今後予定される世界遺産候補

世界遺産	明治日本の産業革命遺産（九州関連）	福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島県	風景街道
	鹿児島市	旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝	❻
	佐賀市	三重津海軍所跡	
	長崎市	小菅修船所跡、三菱長崎造船所（第三船渠、ジャイアント・カンチレバークレーン旧木型場、占勝閣）、高島炭鉱、端島炭鉱、旧グラバー住宅	❸
	三池（福岡県）	三池炭鉱・三池港	
	熊本県）	三角西（旧）港	⓭
	八幡（福岡県）	官営八幡製鉄所、遠賀川水源地ポンプ室	❹
	屋久島　自然遺産	鹿児島県	
世界遺産候補	長崎の教会群とキリスト教関連遺産	長崎県、熊本県	
	大浦天主堂と関連資産	出津教会堂と関連資産	❸
	大野教会堂	平戸の聖地と集落（春日集落, 安満岳, 中江ノ島）	
	田平天主堂		
	旧五輪教会堂	頭ヶ島天主堂	
	江上天主堂	野崎島の野首・船森集落跡	
	日野江城跡	原城跡	
	天草の崎津集落		⓭
	宗像・沖の島と関連遺産	福岡県	
	沖ノ島（宗像大社沖津宮）、宗像大社中津宮、宗像大社辺津宮 新原・奴山古墳群		

K　戦後の復興から立上った九州

終戦近くに著者が住んだ糸島の田舎から博多の街の夜空が真っ赤であったことが思い出される。長崎や北九州など、産業の近代化が進んだ都市の存在や軍需産業、石炭産業の発展もあって、先の第二次世界大戦で爆撃を受け、九州は甚大な損害を被った。戦災復興の指定都市からそうした都市を推し測れば、当時の九州各県の主要都市のほとんどすべてが爆撃されたといってよい（表９）。

とどのつまりは、広島に次ぐ長崎市における原爆投下だ。一瞬にして市街地の全てが焼失した㉝。直接の死者だけでも市人口の３割以上７万４千人に及ぶ。また、生き残った市民も生涯にわたり原爆症に苦しんだ。二度とこうしたことがないことをひたすら祈るのみである。

このように、九州は壊滅的な打撃を受け、戦後はそれからいかに立ち直るかが問われた。しかし、これとて必ずしも順調でなく、大きな試練に直面した。

九州は火山列島であり、台風の襲来が多い。これらと、先の戦災で荒廃した国土とが重なり、西日本大水害、諫早豪雨など、洪水、土砂災害にたびたび見舞われ、その都度多くの犠牲者を出した。

一方で、それまでの石炭から石油へとエネルギー革命があり、九州の石炭産業や鉄鋼、造船といった重工業は軒並み変革が求められた。また、資本主義対共産主義の対立の中で、東シナ海、対馬海峡、日本海に大きな壁が立ちはだかり、自由な往来が強く規制された。漁に出れば拿捕されるなど、いわゆる資本主義圏の隅に追いやられる辛酸をなめ、その度に本人だ

けでなく家族の悲しみの涙があった。

このように、戦後にあっても、大規模な自然災害、エネルギー革命による産業構造の転換、厳しい極東の壁に立ちはだかられた。それでも歯を食いしばり、地域の復興と社会基盤整備、経済発展、文明の展開にと必死の努力があった。その結果、国内有数の農業地として蘇るとともに、ＩＣ等の先端産業、造船業、鋼業、自動車産業などの生産は全国平均を上回り、地域内総生産でオランダやスイス一国に肩を並べるまでに成長した。また、ソビエト連邦の崩壊、中国の改革開放で、共産圏との対立の壁が取り除かれ、極東からアジアへのゲートウェイへと再び躍り出た。

都市を見れば、福岡、北九州、熊本の3市が人口７０万を超す政令市に成長。加えて中核市6、特例市1がある。遅れていた社会基盤整備にも漸くに目途がついた。主なことを拾い出せば、

○佐賀空港（１９９８）の完成で各県に空港が行き届いた。

○九州新幹線（２０１１）が完成。長崎新幹線（工事中）が整備段階を迎えている。

○九州自動車道をはじめ九州周回、縦横断の高速道路ができ上がり（２０１６）、今後に西九州自動車道、南九州自動車道などの早期完成が期待される。

○西海岸の三県架橋は残るが、離島・半島を結ぶ長大橋がおおむね完成（最近では伊王島大橋（２０１１）完工。甑島の薗牟田瀬戸架橋工事中）。

○国際拠点港湾（北九州港、博多港）、重要港湾の整備が進む。

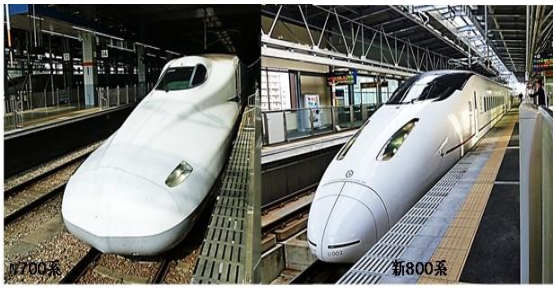
お蔭で一昔前に比べ九州の交通は大変便利だ。各県の空港など、発達した高速交通システムで、国内外のどこからでもアクセスできる。このことから、大自然のもとに歴史の足跡があり、新旧入り混じりつつも復興を成し遂げた都市や



㉞　湾を跨ぎ島と島を結ぶ牛深ハイヤ大橋(天草市)Q-⓭



㉝原爆投下で一瞬に焼野原の長崎市街(1945 年)



九州新幹線を走る新幹線車両

表９　戦災復興都市の指定を受けた九州の都市

県	指定を受けた戦災復興都市
福岡	福岡市、門司市、八幡市、大牟田市、久留米市
長崎	長崎市、佐世保市
熊本	熊本市、荒尾市、水俣町、宇土町
大分	大分市
宮崎	宮崎市、延岡市、都城市、高鍋町、油津町
鹿児島	鹿児島市、川内市、串木野町、阿久根町、加治木町
	枕崎町, 山川町, 垂水町, 東市来町*, 西ノ表町, 鹿屋市*

＊　指定は受けたが実施には至らなかった市町。

寄り道　九州の石橋群

様々な建造物を見て、西洋は「石の文化」、わが国は「木の文化」といわれる。しかし九州に限れば両者が混じる。巨石ドルメンや石室古墓があり、元寇防塁の表面は石積み。高い石垣を積み重ねた城（名護屋城、唐津城、熊本城、岡城など）、石畳の街道②や石段がある。一方、対馬や天草、奄美では、防風のための石垣囲の家屋があり、薩摩藩の麓の武家屋敷は上半は生垣だが下半は石垣。石垣を積み重ねた棚田も。

加えて石橋が大変多い。江戸時代、石造アーチ橋の築上技術が３ルートで伝えられた。中国から長崎へ、長崎のオランダ人から、中国から沖縄経由で鹿児島へだ。わが国で最も古いアーチ式石橋は、沖縄の長虹提（明の冊封使を迎える海中の突堤）で、１５世紀中頃の建造だが現存しない。現存する最古は首里城隣接の公園内の天女橋（１５０２年）である。以来、九州各地に多くの石橋が架設され、その数は全国の９５％である。流失、解体で正確でないが、鹿児島県や大分県７００橋以上。熊本県３００～４００、長崎県１００超、福岡県約９０。これらのうち長崎、熊本、鹿児島は江戸時代から明治中頃までが多い。福岡、大分の大半は２０世紀なってである。

石橋は、形や石の積み方などいずれも手作り感があり、石工達の知恵と汗が滲む。これから風景街道でも重要な地域資源である。中島川（長崎市）に架かる眼鏡橋㉟。沖縄を除けばわが国最古で、興福寺の黙子如定禅師の指導による（１６３４年）。しかし、１９８２年の大水害で一部が崩壊、翌年復元された。熊本県美里町の緑川の霊台橋(国重要文化財)は種山石工・卯助によるもので１８４７年完成。大分県の轟橋（２連アーチ、１９３４年）は出會橋（単一アーチ、１９２５年）に匹敵する大スパンアーチ。鹿児島市の西田橋㊲は、玉江、新上、高麗、武之橋の５橋の一つで、甲突川に架設（１８４０年頃）されていた。１９９３年の水害で新上、武之橋が流失し、残る３橋が石橋記念公園に移設復元された。石工棟梁は種山の岩永三五郎。



㉟眼鏡橋(長崎市、中島川)
（橋長 22m、２径間）　Q-❸



㊱霊台橋 (熊本県下益城郡美里町、緑川)
(橋長 37.5m、径間 27.5m)



㊲ 西田橋(鹿児島市石橋記念公園)
(橋長 49.6m、４径間) Q-❻

漁村、山村を十分に堪能し、風景街道を巡ることができる。ガイドブック片手に、ありのままの九州を楽しむもよし、癒されるもよし、体験するもよしだ。

四　九州を周回する十四の風景街道とは

「人のくに　美のくに」九州１４ルートを巡ろう

九州７県それぞれに固有の自然があり、早い段階からの歴史や文明がある。このため、九州の風景街道を単純に包括して特徴づけることは困難である。詳細はルートごとのガイドブックに譲り、ここでは、各ルートの特色を九州風景街道の中で整理し、その要点を概観するものである。

九州の地形や幹線道路網の中での風景街道１４ルートの位置関係を図１４に、主要な地域資源を表１１に示す。これらから、全体を俯瞰し諸ルートを大まかに比較すれば次の通りである。

（自然環境）

a　大まかに内陸型と沿岸型に分かれる。内陸型では、❹「北九おもてなし」、❺「むなかた」が沿岸域から内陸に入り込む。❽「やまなみ」、❾「阿蘇くまもと路」はまさに九州を横断し、⓫「みどりの里」が九州最大の平野部縁辺の農村に展開する。

b　沿岸型は９ルートがあり、東九州、九州の北岸、西九州および南岸で、九州本土を巡る。それらのうち、❸「ながさき」は離島・半島が長大な橋々でつながる点で、⓭「天草」は島々の構成にもとづく点で他と異なる。⓮「薩摩」は船のアクセスが必要な東シナ海の孤島・甑島を含む点で特色がある。

c　亜熱帯か温帯かでは、❶「日南海岸」、❻「かごしま」、⓮「薩摩」の３者は亜熱帯型である。❸「ながさき」は温帯、亜熱帯の双方にまたがる。他の１０ルートは温帯地域だが、❽「やまなみ」、❾「阿蘇くまもと路」は、高所では冬の雪景色をも楽しめる亜寒帯型である。

d　活火山は、❽「やまなみ」、❾「阿蘇くまもと路」、❻「かごしま」の３ルートに含まれ、⓬「別府湾岸」も火山の延長上にある。

（地域資源）

e　地域の資源は、表１２に示すように、自然資源や文化、史跡・歴史、町並み、食文化などである。

著者の判断だが、各ルートとも各々の自然がある中で、人の暮らしに基づく歴史・まち並や豊かな食文化がベースをなす。その上でルートごとに特異ともいえる項目に、古代遺跡や歴史遺産、石橋、長大橋の各資源がある。あるいは、世界遺産やジオパーク、ラムサール登録地も自慢だが、それらとルートとの関係は表１２の備考欄に記すとおりである。各ルートの特徴をイメージする意味で地域資源の項目に網掛けして特に強調するとともに、ルート紹介の副題がわりにいくつかのキーワードを付した。

（アクセス）

f　高速自動車道とは、「あまくさ」以外はいずれもルート内にＩＣを含む。また、「あまくさ」も含め、一般国道との関係はどのルートも良好で、末端の一部を除けばアクセス、回遊のいずれも支障ない。

g　当然だが、空港は１４ルートすべて、新幹線は西九州の諸ルートでアクセス拠点である。

紹介に当たり、諸内容が織りなす地域の性格を参考にすれば、結局は**東九州太平洋沿岸**、**玄界灘沿岸**、**西九州サンセットライン**、そして山越え、峠越えの**九州横断**に分けられる。それぞれの地域に３、４ルートの風景街道が含まれ、次節以降の各々の冒頭に、地域全体の特色や、共通する地域資源、主要なアクセス交通の状況などについて触れた。これは、一章３節で述べるように、個別のルートを巡るだけでなく、場合によっては、ルートを繋ぐことも十分考えられることを考慮したものである。

同時に、ローカリティな内容を含む１４ルートを単に羅列するだけならばルートの選択が煩雑となり、巡りゆく意図が必ずしも明確にならないことへの配慮である。その上で、各ルートについて、その特色や見どころが確実に掴めるようにしている。以下に概観する内容から興味ある風景街道地域を探りあて、的を絞り込み個別ルートのガイドブックを読むことがお薦めである。

なお、ルート紹介を具体的に読むにあたって次の３点に注意が必要である。

A.　**地図に用いた記号**は、一般に用いられるものを基本としながらも風景街道固有のものもあり、それらを含めれば**表１０**の通りである。風景ポイントの主なものを選択的に拾い出し、その位置を示すが、詳細はルート別ガイドブックを参照されたい。

B.　説明文に用いたこれまでの**写真等の番号**は、風景街道の登録番号Ｑ―❶～⓮と、一～三章の①、②・・・である。加えて、ルート毎の風景ポイントに(1)、(2)・・・を用い、位置関係が分かるようにし、それらにかかわる写真と本文に同じ番号を付した。三種類の番号を使い分けている。

C.　ルート別の地図に**主な地点間の道路距離**を示す。これは最短でなく、ルートの周遊に沿うメインルートによるものである。

表１０　地図の記号一覧



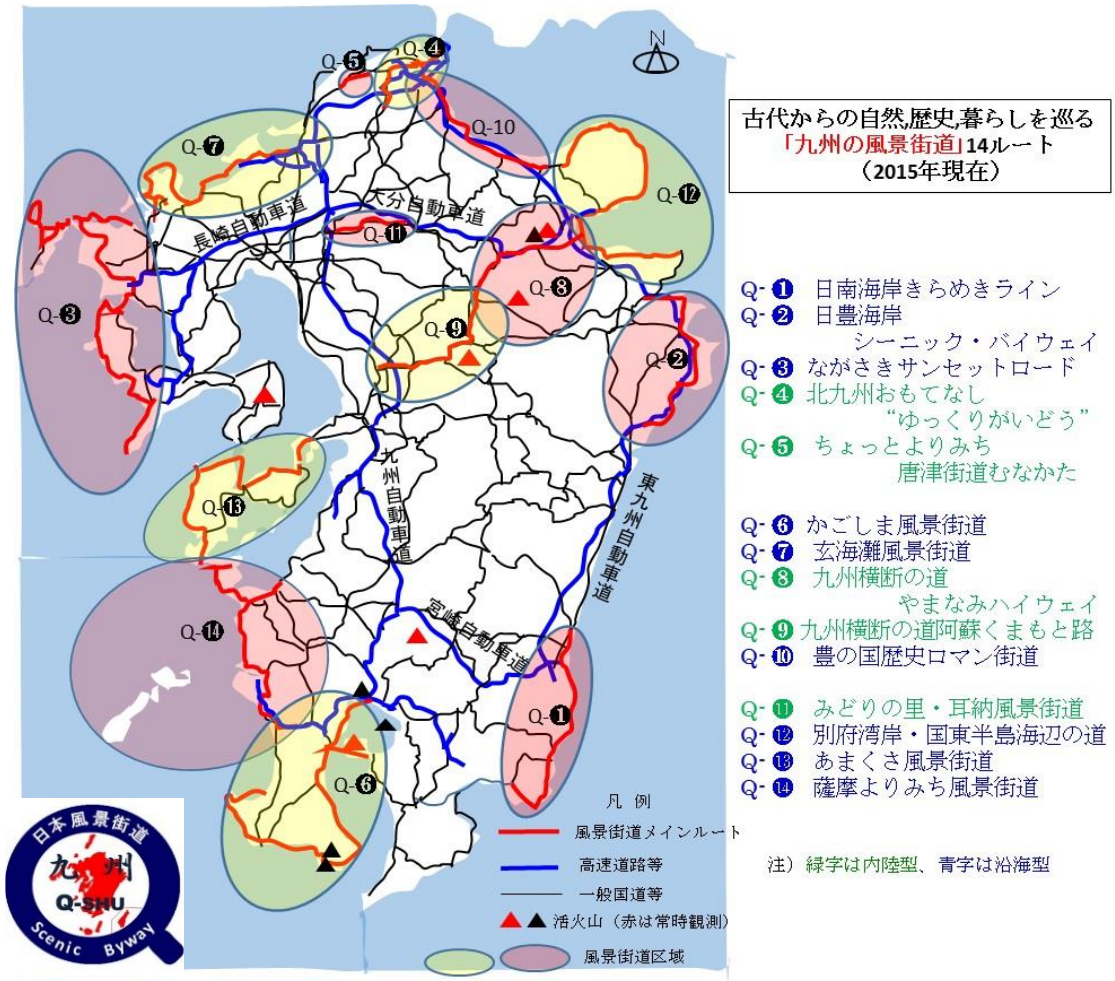


図 14　九州の風景街道 14 ルートとその幹線道路網

表 11　九州の各風景街道ルートにおける主な地域資源一欄

Q	（略称）	地域資源														備考	
		山	海	生物	棚田	温泉	古代遺跡	歴史遺産	文化	城	神社仏閣	教会	歴史町並	石橋	食文化	長大橋	
❶	日南海岸	鰐塚山地	**日南海岸**	**亜熱帯植物，岬馬**	○	○	○	◎	**神話**	飫肥城跡 武家屋敷	**鵜戸神宮**		○		◎		日南海岸国定
❷	日豊海岸	求菩提山	**リアス式海岸**	野路菊					あまべ渡世大学						◎		日豊海岸国定
❸	ながさき	稲佐山	**九十九島**		○	○		◎	**隠れキリシタン，西洋文明、くんち**	平戸城	**亀岡神社 諏訪神社**	**教会群**	○	◎	◎	◎	**世界遺産** 西海内海国立
❹	北九おもてなし	皿倉山	洞海湾	○				◎	**長崎街道**	小倉城	**八坂神社**		◎			○	**世界遺産**
❺	むなかた							○	**唐津街道**、 九州大道芸大会				◎				**（宗像・沖ノ島）**
❻	かごしま	**桜島，開門岳**	錦江湾	亜熱帯植物		◎		◎		鶴丸城	**照国，枚聞神社**		◎	◎	◎		**世界遺産、ジオ** 霧島錦江湾国立
❼	玄界灘	脊振山系 鏡山	**玄界灘，博多湾**	**虹の松原**	◎	○	◎	◎	**博多山笠、唐津くんち**	**福岡城跡，唐津城，名護屋城跡**	**香椎宮 筥崎宮 住吉宮**		○		○	○	**金印、鴻臚館** 玄界国定
❽	やまなみ	**九重，由布岳，九重高原**	別府湾	**サル（高崎山）**		◎			**野焼き**	**竹田城跡 城下町**			◎				**ラム** 阿蘇くじゅう国立
❾	阿蘇くまもと	**阿蘇，草千里**				◎			**野焼き**	**熊本城**	**阿蘇神社**		○		◎		**ジオ、世界農** 阿蘇くじゅう国立
❿	豊の国	足立山、**耶馬渓**	周防灘			○	○	◎	古代史	中津城跡	**妙見宮，宇佐神宮**		○				瀬戸内海国立
⓫	みどりの里	耳納連山 **水縄断層**		◎（椿、つつじ、櫨）	◎	○	○	○			**高良大社**		○		○		
⓬	別府湾岸	高崎山	**別府湾**	**サル（高崎山）**		◎		○		**日出・杵築城跡城下町**	**富貴寺 西寒多神社 柞原神社**		◎		◎		**ジオ、世界農** 瀬戸内海国立
⓭	あまくさ	**太郎丸嶽 次郎丸嶽**	天草灘	**イルカW**		◎		◎	**天草の乱，南蛮文化，ハイヤ祭り**	**富岡城跡**	**明徳寺 殉教戦千人塚**	**大江・崎津**	○	◎	○	◎	**世界遺産、ジオ** 雲仙天草国立
⓮	薩摩	**シラス台地**	**甑島，東シナ海**	**亜熱帯植物、ツルW**	○	○	◎	○	**隠れ念仏**	**麓 武家屋敷**	**新田神社**		◎	○	○	甑島	**ラム** 甑島国定

注）W=ウォッチング　　注）世界遺産=世界文化遺産　ラム＝ラムサール登録　ジオ＝ジオパーク　世界農＝世界農業遺産

1　日出ずる温暖の太平洋沿岸を行く東九州

九州は、おおまかに東九州と西九州に分かれる。その中で、東九州地域は西九州地域に比し必ずしも経済発展、都市展開が進んでいるといえない。確かに、北九州、大分臨海、延岡・日向の各工業地帯および宮崎サンテクノポリスなど、工業が活発なところもある。しかし、全体でみれば一次産業が盛んである。九州山地に沿った中山間地や沿岸地域に自然がよく残されている。そして、これら両者の間の平野部で農業や畜産業が活発であり、我が国の食料生産の基地である。

あるいは、大分県・日出の城下カレイ、佐賀の関のアジ・サバ、日豊海岸や宮崎のイセエビ、日南のカツオといったその地ならではの漁が獲れ、食文化に関し決して他に負けない。

気候は、北から南へ温帯から亜熱帯へと変化。台風のルートだが、太平洋に面することから冬でも比較的暖かい。背後地を含め、国東・別府、臼杵・佐伯、宮崎、日南などの温泉やリゾート地があり、いずれのルートも癒しのドライブにもってこいである。

陸域に限れば、九州の国道にあって最長は国道10号線。北九州市北小倉区から鹿児島市まで、総延長527㎞に及ぶ。うち宮崎市までならば約300㎞。特に混雑せず、また休憩しなければ半日の時間距離である。本区間は古代道路の西海道東路である。江戸時代の中津街道、日向街道、飫肥街道に沿って福岡県、大分県、宮崎県の東九州沿岸域を通過する。

部分的に県道などで補完してだが、国道10号線を大なり小なりメインルートにする風景街道は4ルートがある。❿「豊の国」、⓬「別府湾岸」、❷「日豊海岸」および❶「日南海岸」である。

したがって、各ルートへのアクセスは、太平洋沿岸の国道10号線が基本をなす。これとクロスしながら山裾や海岸沿いに東九州自動車道が整備され、その一方で国道10号線とほぼ並行し海岸沿いをJR九州日豊本線が走る。

海について、神武天皇が美々津（日向市）から船で東遷した伝説があるように、古代から東九州と関西方面は海路で結ばれていた。参勤交代では、島津、豊後の諸藩の大名が細島（日向市）から大阪に渡り、上陸して東海道を江戸へと上った。豊後鶴崎（大分市）は肥後藩の飛び地で、肥後街道の起点であり、熊本藩主はそこから船で大阪に向かった。こうしたことから、海を介した東九州沿岸域と関西とのつながりが強く、現在の海を介する関西方面との結びつき（フェリー）は以下の通りである。

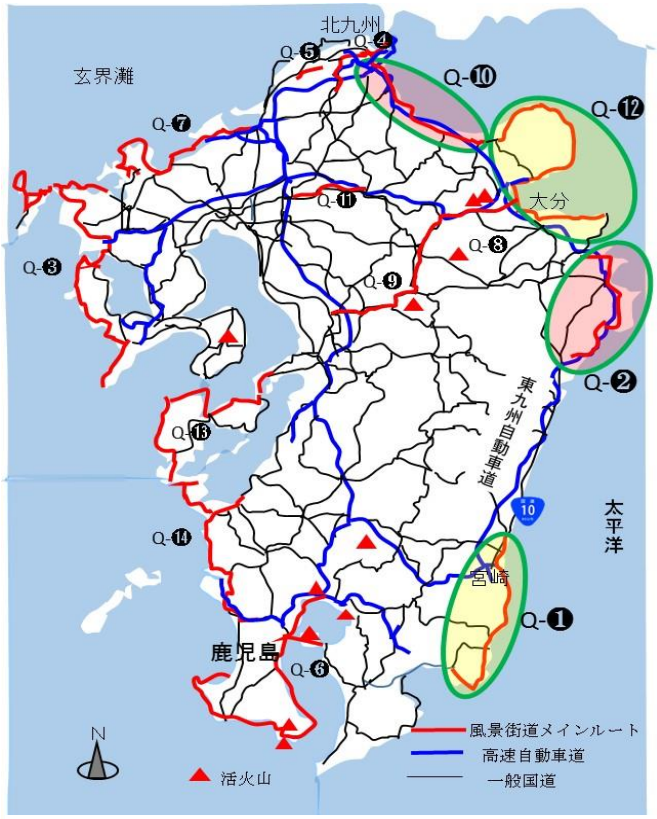
○北九州港（新門司―泉大津、大阪南港、神戸、徳島）
○別府・大分港（別府―八幡浜、大阪南港。西大分―神戸）
○宮崎港（宮崎―神戸）、志布志港（志布志―大阪）

空港は、いずれも東九州の海上または沿岸域に位置する。
○北九州空港（北九州市小倉南区・苅田町。東京、名古屋便と大連、釜山、仁川）
○大分空港（大分県国東市。東京、成田、中部、関西と仁川）
○宮崎空港（宮崎市。東京、中部、関西、大阪、福岡、那覇と仁川、台北桃園、香港）。



おばちゃんバイキング（Q―❷日豊海岸、蒲江）


新婚夫婦のシャンシャでの鵜戸さん参り
（Q―❶日南、鵜戸神宮シャンシャン馬）



東九州沿岸域の風景街道４ルート


薦（こも）神社の楼門(中津市)　Q―⓾

Q－❶　日南海岸きらめきライン（日南海岸）－神話、鬼の洗濯板、亜熱帯

宮崎市から北郷、日南、南郷を経て串間市に至る太平洋に面した地域が風景街道「日南海岸」のエリアであり、主要な地域資源には3点がある。

一つは、日南海岸に沿い展開する南国太陽の下での大自然である。暖かく青い海の中で、手つかずの自然が残る青島⑫や堀切峠(2)、日南海岸の鬼の洗濯板(2)と呼ばれる砂層、粘土層が波状に押し寄せる稀な光景⑥に魅せられる。さらに南下すれば一転して鵜戸神宮以南の険しい断崖(3)があり、そこに亜熱帯植物が群生⑫している。自生のソテツやヤシ、ヘゴ（北限）が誇らしげに茂り、ハイビスカスやジャカランダなどのトロピカルな花々が咲き乱れ、みんなを心から歓迎するものである。加えて、百匹目の猿現象（サルの芋あらい）で名を馳せた幸島（こうじま）(6)、準野生馬を放牧した都井岬(6)がある。地質・地形、植物、動物が織りなす南国の自然3点セットを大いに楽しむことができる。

二つ目は神話伝説である。１３００年前の古事記、日本書紀に天上界の高天原神話があり、続いて出雲を舞台にした出雲神話がある。そして、天孫降臨後の国土創成を主にした日向神話となるが、本風景街道はその日向をたどる神話の道である。

シーガイヤ近くの江田神社に隣接して御池（みそぎ池）(1)がある。国生み伝説のイザナギノミコトが黄泉（よみ）の国から逃げ帰り、「筑紫（つくし）の日向（ひむか）の橘の小門（おど）の阿波岐原（あわきがはら）」でみそぎをし、天照大神、ツクヨミノミコト、スサオノミコトの三貴神が生まれたとされる。そして、天照大神の孫のニニギノミコトが県境の高千穂の峰に降り立ち（天孫降臨）、コノサクヤヒメとの間で海幸彦、ホスセリノミコト、山幸彦の三神が生まれ、青島(2)を舞台にした海幸彦・山幸彦の伝説へとつながる。つまり、ワタツミ（綿津見。海神のこと）の宮から青島に戻った山幸彦だが、兄・海幸彦と仲たがいし、争いに負けた海幸彦は北郷の地（潮岬神社）に逃れたと伝えられる。




(2) 鬼の洗濯板（堀切峠、宮崎市）


(6) 岬馬（都井岬、串間市）

一方、山幸彦は、身ごもったトヨタマヒメ(海神の娘)と鵜戸(3)で再会し、ウガヤフキアヘズノミコトが生まれた。さらにそのミコトの４番目の子がワカミケヌノミコト（後の神武天皇）とされる。鵜戸神宮⑱はウガヤフキアヘズノミコトを主神に六神を祀るが、ワカミケヌノミコトは駒宮神社(4)の地で成長。そして、東に都を求めて日向を出て、ヤマトで初代の天皇に即位したと語られている（東遷）。

以上は日向を舞台にした記紀神話のあらすじだが、そのことは伝説に過ぎない。しかし、御池、青島、鵜戸神宮などと伝説の神社を巡るとき、神話が描く風景にひたることができる。

三つ目は、地域一帯が鎌倉時代からの日向国であり、戦国時代の一時期、島津に負けて追われたものの、それ以外は明治になるまで伊東家（飫肥藩）が支配したことだ。その面影は飫肥城跡およびその城下町（日南市(5)に今も残る。また、山が多いことから飫肥杉で有名な林業が発達し、１６８６年に堀川運河(4)が完成し、そこから全国に出荷された。

加えて豊かな食があげられる。カツオ、ブリ、イセエビなど海の幸、サツマイモと焼酎、完熟マンゴ、キンカン、宮崎牛や宮崎地鶏。さすがわが国有数の農業・畜産業・漁業の郷である。



(5) 飫肥城（日南市）

Q-❷日豊海岸シーニック・バイウェイ（日豊海岸）

―あまべ渡世大学．リアス式海岸（津々浦々）、伊勢海老街道

地形的に見れば、大分市・佐賀の関から延岡市までの沿岸域は、九州にあって最も典型的なリアス式海岸が見られる珍しいところである。その中で、大分と宮崎の県境にまたがる蒲江（佐伯市）と北浦（延岡市）の両地域間は、津々浦々で小規模ながらも漁業が盛んな集落が点在している。水産業を営む家々の軒先から筏が波静かな入り江に飛び出す景観（写真）は、天草・崎津のテラス式の足場「カケ」に比するもので、他所であまり見られない光景である。

加えて、湾奥の砂浜（下阿蘇ビーチ(3)など）と突端の奇岩（宇土崎洞門(2)など）が交互に出入りし、それらで挟まれるように漁港と漁村が存在する。これから、屈曲する国道３８８号と県道１２２号を、海岸線を縁どるようにたどれば、ハンドルを切るたびにさまざまな風景が目に飛び込む。まさしく海辺のシーニック・バイウェイを行くとの感があり、十分にドライブを楽しむことができる。

あるいは、本風景街道の半島のすべては尾根が突出したような地形である。その意味では、屋上ならぬ山頂高台や岬からの津々浦々の眺めが、誠に素晴らしく、随所に設けられた岬の展望所に寄り道するドライブを是非にとお勧めしたい。

旅を彩るものは豊富な海の幸（アワビ、緋扇貝、ウニ、ヒラメ、モイカ、アジ、サバなど）である。中でも伊勢海老は、解禁シーズン（９月～１２月）になると伊勢海老街道と称して大々的な食の祭典が繰り広げられている。大分、延岡はむろんのこと、福岡や北九州方面からも多くの客が押し寄せ、年々増大する状況にある。

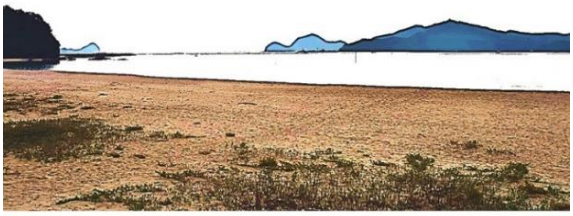
いま一つ、本風景街道で特異なことは、蒲江地域(1)の沿岸域をキャンパスに見たて、漁師を講師に、「あまべ渡世大学」と呼ぶ体験学習を開いていることである。渡世（トセイ）とは漁師の言葉で、「生き方、生業」を意味するとのことである。あるいは世渡りが上手の意で「渡世にたけている」とのことも。研修所や海に浮かべた筏などを教室にして、「磯遊び体験」や「トコロテン作り」、「シーサイクル」、「真珠の核入れ体験」、「ウニ割りや伊勢海老のさばき方教室」など、実に様々な内容が開講されている。趣味と実益を兼ねて海業を楽しみ、体験することである。



(1)　静かな入り江に突き出た水産業用の筏（佐伯市蒲



(1) たかひら展望所からの眺望（佐伯市蒲江）





(3)下阿蘇ビーチの砂浜と塩の製造所（延岡市）



Q-⓬ 別府湾岸・国東半島海べの道（別府湾岸）－六郷満山、温泉、新産都

本風景街道は、国東（くにさき）半島と別府湾の沿岸地域が活動エリアである。国道２１３、１０、１９７、２１７号および大分市内の臨海産業道路がメインルートだが、大まかに国東半島、別府、大分の３エリアに分けられる。各々で資源の性格が異なり、変化に富む。

大分エリア(6)(7)は、戦国大名で、キリシタン大名でもある大友宗麟が拠点とした豊後府内城の城下町(6)だが、特に戦後、沿岸部を埋め立てて新産業都市の展開があり、その優等生として発展し現代の礎が築かれた。臨海部(6)を巡れば、産業施設（製鉄所、電力会社、化学工場など）が見学できる。また、市の西端に、「関アジ、関サバ」で有名な佐賀の関(7)がある。その先端は天文台と展望の複合施設「関崎海星館」や灯台であり、そこから四国の先端（佐多岬）が眺望できる。近くに文字通りの黒ヶ浜（蛇紋岩）、白ヶ浜（白砂）の浜辺が隣接して並ぶ。

別府(5)は、８世紀後半の「豊後国風土記」に、鉄輪（かんなわ）・亀川温泉の記述があるように、古代から連綿と続く温泉地である。そうした中で、大正から昭和初期にかけ油屋熊八（別府駅前広場に像がある）が観光開発に力を入れた。お蔭で現在は、別府八湯の温泉巡りができ、温泉数（約２３００か所）、湧出量ともわが国最大である。あるいは、湯につかるだけでなく見どころも多い。地獄めぐりや高崎山の自然動物園のサルが有名だが、最近では市街地のまち歩きなどもあり、高架下や古いアーケード街、独特の由緒ある公衆浴場、路地裏温泉などとみどころが多い。

国東半島は、３３寺と宇佐神宮と結びついた山岳信仰による神仏集合の仏教文化「六郷満山」が伝わる極めて珍しい地域である。両子山を頂点に、お椀を伏せた地形に放射状の谷が発達し、その中に多くの寺院や磨崖仏が点在する。このため寺院巡りは峠越えとなるが、それも修業と思えば山、谷、そして集落と寺院などを巡ることは大変意義がある。加えて国東半島を周回すれば、「城下（しろした）かれい」（別府湾城下海岸でとれるマコカレイ）で有名な日出城址(4)および江戸期の坂道の町・杵築城とその城下町(4)がある。また、芸術家が創作活動に移り住む現代アートのまち（国東半島全域に展開）であり、ひまわり咲く長崎鼻(2)、昭和をモチーフにした昭和の町（豊後高田市）(1)などのユニークな取り組みがある。毎年春先になれば国東半島約１６０kmを周回するなど、長短様々なコースによる「ツール・ド・国東」が催されており、各地から沢山のサイクリストたちの参加がある。

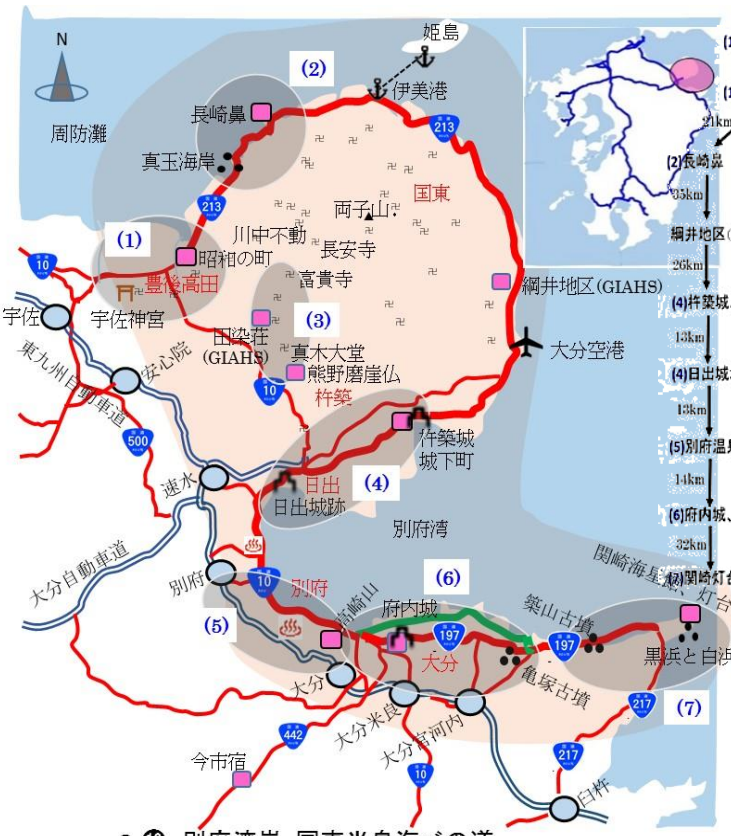
いま一つの自慢は世界農業遺産（２０１３年登録）。中世の姿のままの田園風景が広がる田染荘（たしぶのしょう、豊後高田市）(3)や、溜池の連携で用水供給されている綱井（つない）地区（国東市）などがみどころである。中世、近世そして現代へと、人々が工夫し代々受け継がれてきた農業の仕組み　に大いに感心させられるところだ。


(3) 富貴寺(国宝)・豊後高田市


(4) 坂道の町・杵築市


(5) 竹瓦温泉・別府市


(5)別府観光の開拓者油屋熊八



Q-⓬ 別府湾岸・国東半島海べの道



（1） 昭和の町(豊後高田市)

Q-⑩ 豊の国歴史ロマン街道（豊の国）

―妙見宮、古代国、中津街道、宇佐神宮

北九州市の都心部を流れる紫川の河口に常盤橋が架かり、中津街道の起点である。そこから、図示の苅田、みやこ、行橋、築上、豊前、上毛（こうげ）、吉富の各市町を経て県境を越え、大分県の中津、宇佐の各市町に至るルート、つまり国道１０号に沿う沿線地域が豊の国歴史ロマン街道である。

本地域は、全域が令制国の豊前国で、九州ののど元に位置し、周防灘に面している。このことから、東九州はもとより、遠朝廷（とおのみかど）・太宰府、郡代支配の拠点・日田代官所への道があり、赤間関への渡航地大里から中国路下関へと繋がる交通の要衝であった。一方で、求菩提山や英彦山には山伏が住み、修験者の道がある。それらを束ねれば古代に遡る長い歴史とその遺跡が随処にある点で特色があり、本風景街道の名の由来である。

古くは、巨大な前方後円墳・石塚山古墳（苅田）(3)や横穴式石室を持つ綾塚古墳（みやこ）があり、八幡宮の総本山で道鏡事件に登場する宇佐神宮⑲（宇佐）(9)と関連の薦（こも）神社（中津市）がある。みやこ市には豊前国の国府跡(4)があり、豊前国分寺（僧寺、尼寺）(4)と惣社八幡宮(4)の三点セット跡地が未だ明確に残され貴重である。さらに、豊前市松江から八屋の区間は「下往還（勅使道）」の面影が随所にみられ、北九州市に入れば、豊前国の国司を務め、道鏡事件に関わった和気清麻呂創設の足立山妙見宮(2)がある。誠に豊富な古代遺産群である。

荘園時代は大内氏が守護職となった。そして、戦国時代には、大友、毛利、龍造寺が入り乱れて戦い、島津や豊臣秀吉が攻め、九州の関ケ原といわれる中津にいた黒田官兵衛と周辺国人領主との戦いがあった。その遺跡・遺産が馬ヶ岳城跡(行橋)や合元寺(赤壁寺)(7)、中津城（中津）(7)である。

江戸時代、小倉藩は細川氏から小笠原氏に変わった。その中で、中津藩は独立したかと思うと、小倉藩の支城になるなどがあった。そして、１７１７年に譜代大名奥平氏が入府。以来明治まで続いた。

中津の出身に、解体新書の前沢良沢、慶応義塾創始者で一万円札に描かれた福沢諭吉(7)がいる。明治には、北九州を中心にした近代産業の発展を支えた多くの人材を輩出した。

周辺に足を延ばせば、炭鉱主の豪邸・旧蔵内邸(5)、修験者の霊山・求菩提山(6)がある。あるいは、江戸時代、禅海によって掘られたトンネル「青の洞門」や五百羅漢像などの石仏群（国重文）で有名な羅漢寺（国内の羅漢寺の総本山）があり、これらを含めて耶馬渓(8)を巡ることができる。

要するに、「豊の国」は、豊かな自然環境の中で、古代から現代に至る歴史の宝庫であり、信仰の道をたどるものである。一つ一つにじっくりと思いを馳せつつ見入るとよい。


(2) 足立妙見寺




(9) 宇佐神宮　呉橋



Q-⑩ 豊の国歴史ロマン街道

2　邪馬台国への道、玄界灘沿岸を進む九州北部

九州北部は、神話の世界に始まる信仰と、古代からの遺跡や史跡が豊である。その中で、玄海灘、対馬海峡を介して中国大陸、朝鮮半島と向き合いながらも、古代から国際交流が活発に行われてきた。あるいは、国際紛争に巻き込まれる不運にもしばしば遭遇した。これらに由来する物語や遺跡、史跡が実に多く、他にない一大特色である。

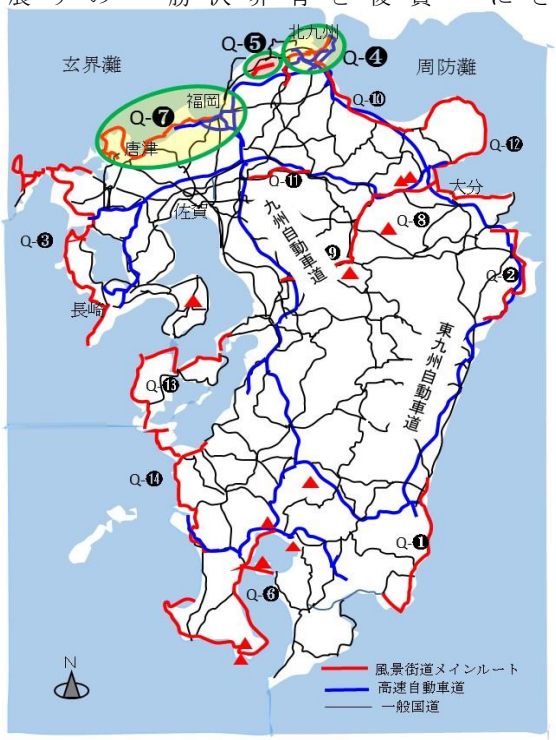
つまり、魏志倭人伝の邪馬台国への道があり、シルクロードのわが国へのゲートウェイである。遣隋使・遣唐使の派遣、朝鮮通信使の往来がまた九州北部を経由する。その一方で、白村江の戦いへの派兵や防人の配備があり、元寇・倭寇の戦いがくり広げられ、満州や朝鮮への進出、日清・日露戦争の前線基地となった。先の太平洋戦争では、ことごとくといってよいほど九州の諸都市は爆撃を受け、本地域の諸都市は悲惨極まりないほどの戦災を被った。これも国際最前線に立つ地域の宿命であろう。

今ではこうしたことが九州北部の各地に深く刻み込まれ、あるいは克服し歴史となった。国際的な遺跡・史跡と共に、現代文明の礎としての交流と伝来があり、かみしめるべき九州北部沿岸地域（玄界灘地域）の一大地域資源である。

他方、地域内に目をむけると、早い段階から沿岸域に沿うように道路が発達し、活発な相互交流が図られてきた。古代には、太宰府への道（山陽道の一部）、壱岐、対馬への道が北部沿岸を通った。中世には、壇ノ浦の戦いで敗れた平家の落人たちが落ちのびた道、足利尊氏の都落ちと九州での戦い、反転しての政権樹立への道がある。また、豊臣秀吉が名護屋城へと往来に利用した太閤道があり、江戸時代には、参勤交代の道・唐津街道の発達や内陸への数々の脇街道の展開もあった。これらの中で唐津街道は、今もなお旧道として残る区間が多く、その沿線に史跡や宿場町の町並みと歴史の面影がのこされている。詳細はルートごとのガイドブックに示されており、訪れる前に一読されるとよい。

九州北部は、二章1節に述べたように、地質は比較的古い。また、地形的には沿岸域の背後に沿うように筑紫山脈が連なる。これらのことから、多くの沿岸部できれいな弧を描く白砂青松の発達がある。同時にところどころに、玄界灘の荒波で削りだされた奇岩や断崖があり、沢山の島々が見られ、地質、地形が織りなす景勝地の宝庫である。

以上、アジア大陸との国際交流、古代からの歴史を刻む唐津街道、および地形・地質が織りなす景勝地が主要な地域資源である。そこに展開されているのが❹「北九おもてなし」、❺「むなかた」、❼「玄界灘」の3つの風景街道である。





唐津くんちの曳山の兜(曳山会館。唐津市)



小倉祇園太鼓（JR小倉駅前、北九州市）



博多祇園山笠飾り山(櫛田神社,福岡市)

在来鉄道では鹿児島本線および日豊本線があり、北九州市のモノレール、筑豊電鉄、福岡市の地下鉄とJR筑肥線、香椎線、西鉄大牟田線、貝塚線などがある。これらから、車は当然として、バス路線を含むきめ細かな公共交通網が発達し、それによる周遊も可能である。

3つの風景街道は、国道3号、202号、204号が基本となってメインルートを構成する。このことから、これらをつないで回遊することもできれば、分割して旅することも可能である。九州北部にあって2極をなす福岡、北九州の大都市を交通拠点として、魅力と感動の地域資源を巡り、どこからでも手軽にアクセスができ、体験できる。あるいは、博多山笠や小倉祇園など、ビッグな祭りに合わせ躍動する風景街道群でもある。

Q－❹ 北九州おもてなしの“ゆっくりかいどう”（北九おもてなし）

―長崎・唐津街道、八幡製鉄所（世界遺産）、門司港レトロ

北九州市の関門海峡に面する門司区の大里（だいり）と遠賀川沿いの八幡西区の木屋瀬間は唐津街道が合流した長崎街道の区間である。これをメインルートに、その沿線地域（門司、小倉北、八幡東、八幡西）のエリアが本風景街道である。「近世、近代の歴史遺産、産業遺産を巡る」ことがテーマである。

大里を起点に海岸線に沿いながら国道１９３号を下ればＪＲ小倉駅(2)がある。そして、その直ぐ先の紫川に常盤橋（木橋）(2)が架かる。最初のものは１６２４年の架橋だが、１８８９年に鉄橋となり、１９９５年に観光に配慮し、現在の木の橋に作り替えられた。

本橋は、武士の街・西曲輪と町人町・東曲輪を結ぶものであったが、長崎街道（唐津街道）、中津街道、秋月街道、門司往還と四ないし五本の街道の起終点であり、九州の街道網の起点である。このため、九州北部諸大名の参勤交代の道として賑わい、シーボルトが江戸へ上った道、伊能忠敬が九州測量の出発点にしたところである。近くには市民の台所・旦過市場がある。

紫川を渡れば大型複合商業施設リバーウォークがあり、小倉城(2)がある。城は当初細川氏、後に小笠原氏の居城となったが、その天守閣は雨よけのため下層よりも張り出した唐造（南蛮造り）である（写真）。現在のものは１９５９年、鉄筋コンクリートによる復元である。城の周りは市庁舎（屋上展望室がある）などが取り囲む。

小倉城から街中を抜け、概ね国道３号線を西に進めば、洞海湾に沿うように巨大な工場が並ぶ地区に至る。その一角の街道沿いに世界遺産「官営八幡製鉄所旧本事務所」(3)や近代化遺産・東田第１高炉（１９０１年）(3)がある。また、目の前にテーマパーク・スペースワールドがあり、これらの背後に位置する皿倉山展望所(4)に登れば、小倉、八幡、戸畑、若松等の環境整備が行き届いた工場群が一望できる。

さらに、洞海湾沿いの副都心・ＪＲ黒崎駅地区から国道２００号方向をたどると、すぐに昔の長崎街道であった曲里の松並木(5)に遭遇する。並木は約６００ｍ続く。そして、さらに南下すれば水運が発達した遠賀川のほとりとなり、昔日の面影がいまも残る木屋瀬宿(6)に至る。ここからは長崎街道は唐津街道の二手に分かれるが、御茶屋（本陣）・町茶屋（脇本陣）跡地にある「長崎街道木屋瀬宿記念館」や「こやのせ郷土資料館」を拠点に街歩きすることも興味そそられることである。

他方、冒頭の大里から北に向かうと九州鉄道の起点・門司港駅・同駅舎（国重文）に至る。この一帯は明治・大正の建物（旧門司三井倶楽部（国重文）など）を集めた門司港レトロ地区(1)である。近くに九州と本州を結ぶ関門橋（吊り橋、橋長１０６８ｍ、１９７３）が架かる。

つまり、風景街道「北九おもてなし」は、現代にあって、本州から九州に渡った直ぐに始まり、北九州地域の近世から近代、現代への移り変わりを訪ねる文明開化巡りが売りの旅であるといってよい。名物の焼きカレーやたたき売りのバナナを食しつつ、じっくりと旅を味わうことができる。





(5)長崎街道の曲里の松並木（八幡東区、北九州市）



(2) ５街道の起点となる常盤橋（北九州市小倉北区）



(1)九州鉄道の起点・門司港駅。1891 年の開設。上記は２代目（1914 年、国重要文化財。北九州市門司区）



Q－❹ 北九州ゆっくりおもてなしかいどう

Q-❺ ちょっとよりみち唐津街道むなかた（むなかた）―赤間宿、原町

唐津街道のうち、宗像市で隣り合う赤間宿と原町の区間が「むなかた」風景街道である。国道3号線の旧道の旧道ともいえる歴史街道であり、その総延長は5㎞である。歴史的にいえば、豊臣秀吉が往来し、福岡藩や唐津藩などの参勤交代の道であった。また、尊皇攘夷派の三条実美ら五卿が徳川幕府の手から逃れるために大宰府へと向かった道であり、勤王討幕の志士・早川勇の世話で赤間宿にしばらく逗留している。

赤間宿(1)は、唐津街道にそった筑前21宿の一つであり、木屋瀬、芦屋両方面への分岐点で、江戸時代から明治期にかけて栄えた。しかし、1890年の鉄道開業で次第に現赤間駅地区へとまちの機能が移り、さらに戦後は、国道3号のバイパス整備や周辺の大規模な団地開発から取り残されつつあった。ところが、1966年、赤間地区に隣接して福岡教育大学の転入があり、2001年には車で10分ほどはなれた地区に日赤九州国際看護大学が開設された。これらから、古い街並みを残しつつも学生街の機能が加わり現在に至る。古い街と若者のコラボに恵まれたまちであり、今後のまちのあり方が注目される。

学生および単身者賃貸マンションに囲まれつつも、創業200年以上といわれる酒蔵「勝屋酒造」や古くからの神社や寺がある。あるいは、兜づくりの屋根がみられ、旅人や馬のための辻井戸が残り、昔ながらの白壁の建物が風情ある町並みを醸し出している。2月には、勝屋酒造の蔵開きに合わせた「赤間宿まつり」（仮装行列など）が開かれ、学生の参加も盛んである。

赤間宿から南西の南郷地区へと進めば原町(2)である。大正から昭和にかけての建物が残るが、平行した国道3号に大規模商業施設の出店・立地があったことから、由緒ある歴史街道ながらも旧道となり、まちの衰退が懸念された。このため、旧来の集落をどのように保全し、活力を維持するかが問題となった。住民組織が結成され、まちづくりが推進されている。

つまり、歴史的な蓄積が十分でなく、特色がない古い町を、どう活性化させ、取り戻すかである。そして、その方策に歴史を生かすまちの環境整備がテーマとして取り上げられた。建物の保存と町並みの復活、昔ながらの人のぬくもりある街道の整備、小規模とはいえ納屋を生かしたユニークな中村研一・琢二（洋画家）生家美術館、肉屋や蒟蒻屋、骨董、ソバ屋といった昔懐かしい商店の整備、農産物直売所の創設など。背伸びしないまち並み環境の整備がある。

合わせて、「九州大道芸まつりｉｎ宗像」があり、大道芸人が集まるイベントで地域おこしの推進がある。昔なつかしい南京玉すだれや猿廻し、江戸曲芸、バナナの叩き売り、ピエロ、現代の舞踏集団など。赤間と南郷原町を会場に毎年秋に催され、賑わっている。

「むなかた」は、九州の各地に残る街道筋の宿場町、商人まち、農村集落が抱える典型的な地域問題を取り上げた風景街道である。その意味では、集落の維持保全の社会実験のまちともいえ、その対応と推移を見守ること自体がまたテーマである。

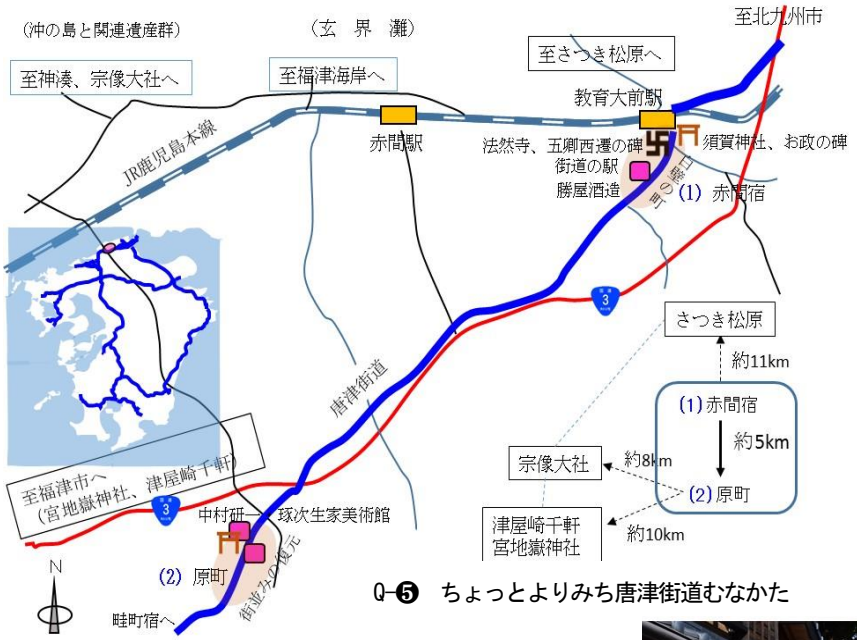
本風景街道は、現段階では確かに小規模で、まち歩きの類である。しかし、周辺にはビッグな地域資源がある。その1つは、世界文化遺産候補の宗像・沖ノ島（沖津、中津、辺津の3宮）と関連遺産群（新原・奴山古墳、宗像市）。また、江戸、明治期に海上交易と塩田で栄えた津屋崎千軒（福津市）があり、全国の宮地嶽神社の総本社である宮地嶽神社、筑前八景の一つである弧状の砂浜の福津海岸がある。風景街道「むなかた」にとらわれず、これら地域資源をつなげば、他にそん色のない魅力ある回遊が堪能でき、本風景街道はその玄関である。



(1)赤間宿祭り



(1) 白壁の町・赤間宿



Q-❺ ちょっとよりみち唐津街道むなかた





(2) 街並みの環境整備が進む原町

Q-❼ 玄海灘風景街道（玄界灘）―古代遺跡、遣唐使、唐津街道、玄界灘

3世紀頃の中国の歴史書「魏志倭人伝」に、邪馬台国への道として、末盧国に上陸し、伊都国、奴国へと進んだ記述がある。一言でいえば、これら3つの「倭」の古代国が玄界灘風景街道である。邪馬台国時代にはじまる古代から現代に至る自然と歴史豊かな唐津・玄海、糸島、福岡地域である

本地域の全体に及ぶ特色の1つは、荒々しい玄界灘に面し、九州にあって古い地層からなることである。海岸線に沿い多くの奇岩・奇勝④が発達。それらと弧を描く白砂青松の浜が交互に現れ、風光明美なドライブを楽しむことができる。

第2は、古代からアジア大陸へのゲートウェイであり、遣隋使、遣唐使の道があったことである。お蔭で工芸、芸術、宗教、学問、食など様々な文明・文化を受け入ることができ、発展させてきた。その一方で、防衛にあたった防人の詩が残る万葉集の世界がある。元寇に遭遇し至る所に防塁㉗が築かれ、秀吉の朝鮮出兵の前進基地にもなった。いいも悪いもアジアの国際舞台の上で大きな役を演じた地域である。

第3は、地域内にあって、唐津街道が貫通し、発達した寄り道、脇道があることだ。暮らしや交易だけでなく、北部九州諸藩の参勤交代の道、長崎警護の道に利用され、宿場町があり、その遺跡、面影がいまに残る。玄界風景街道は、これらを主にした大都市-都市近郊-農村巡りでもある。

具体的には、図のように、3地区に分けられ、最初の福岡地区は、九州最大の都市・福岡市の範囲である。都心部は、天神から博多駅一帯の区域で、それだけでも街歩きを含め多彩な内容を持つ風景ポイントがある。その上で、全国から見た主要なスポットを列挙すれば、陸繋島で、金印㉒発見の地である志賀島(1)、我が国の歴史の重要場面にしばしば登場した香椎宮、筥崎宮⑳を主にする香椎・箱崎地区(2)、中世の商人町とわが国最初の禅寺の聖福寺や山笠に関わる承天寺や櫛田神社などの寺社町からなる博多部(3)、そしてビッグな遺跡の福岡城・鴻臚館㉖地区(4)がある。

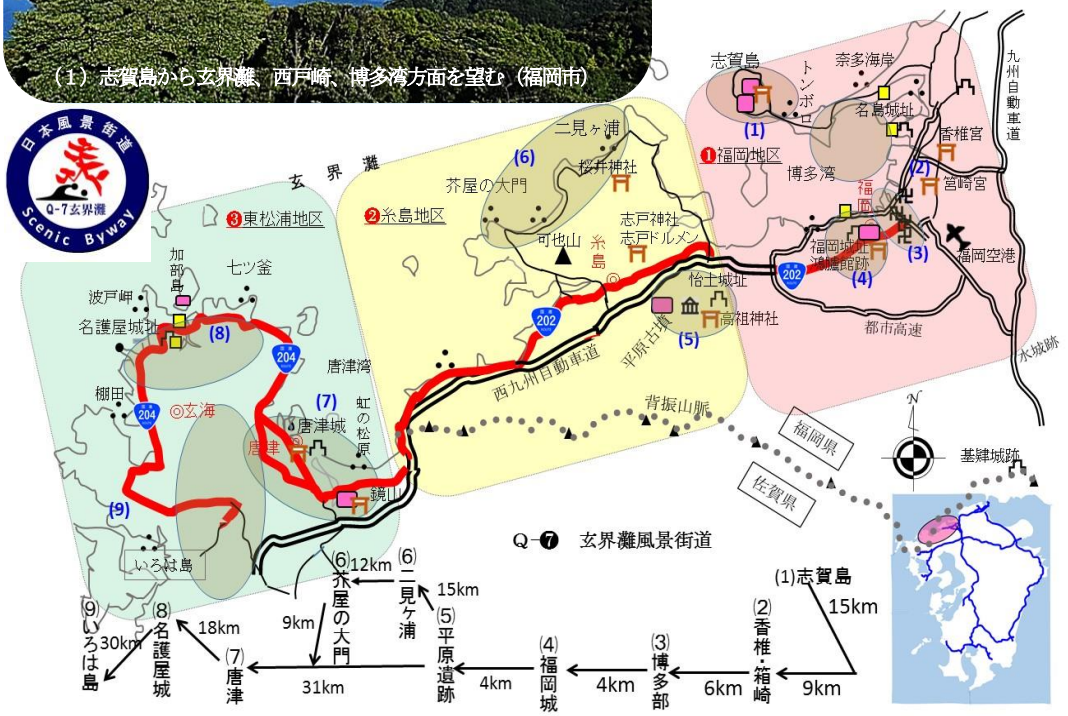
2つ目は福岡の西隣の糸島地区で、古代遺跡の宝庫である。怡土地区(5)には、国内最大といわれる内行花文鏡（直径46・5㎝）の出土から卑弥呼の墓ではと騒がれた伊都国女王の墓・平原遺跡㉔をはじめ王墓が集まる曽根遺跡群がある。あるいは古代の怡土城の遺構も残されている。その一方で、海岸線を周回すれば見ごたえある景勝地、二見ヶ浦、芥屋の大門④（玄武岩の海蝕洞）(6)があり、砂浜はサーフィンのメッカである。さらには、市民農園、農村レストランやカキ小屋が点在。最近では福岡市民が最も注目する郊外型レクレーション地区である。

今一つは東松浦地区だ。標高264mの鏡山に車で登れば江戸時代に植えられた虹の松原、譜代大名の唐津城、そして唐津湾に浮かぶ島々が一望できる(7)。

呼子に向かえば、海蝕洞の七ツ釜、日本の里百選の加部島、朝鮮出兵の前進基地・名護屋城㉘、海中展望塔がある波戸岬(8)巡りとなり、いまやすっかり有名になった呼子のイカ料理（活き造り）を味わうこともできる。

名護屋城から伊万里方面に進むと玄海町と唐津市肥前町(9)がある。一帯は高台であることから、海に滑り落ちる棚田風景に遭遇し、伊万里湾に「いろは島」とよぶ多数の小島が浮かぶ。また、唐津市から隣接の長崎県松浦市の鷹島や福島に海上の橋が架かり容易にアクセスできる。


（1）志賀島から玄界灘、西戸崎、博多湾方面を望む（福岡市）




(5)二見ヶ浦(糸島市)



（7）鏡山から虹ノ松原、唐津城、唐津湾を望む（唐津市）

3　サンセットの半島・離島をドライブする西九州

通常、西九州といえば、国道3号または九州新幹線沿いに福岡から熊本、鹿児島に至る地域のことである。ところが、そのさらに西に、九州の南北を貫く最西縁のルートがある。それが、大村湾、有明海、八代海、錦江湾を懐にして、平戸から長崎、天草、薩摩の半島・離島が南北に延びる西海岸である。❸「ながさき」、⓭「あまくさ」、⓮「薩摩」、❻「かごしま」の4つの足ながの風景街道が展開している。すべてを走破すれば４００㎞ほどの距離となり、島原～天草、天草～長嶋の２区間がフェリーとなることから、２日ないし３日がかりのドライブとなる。

４つの風景街道の共通点の一つは、日本の最西端で夕日をながめるサンセットラインが形成されることである。東シナ海の彼方、「水天髣髴青一髪」（頼山陽）の海原に沈む夕日は、赤く大きな円、半円の形をなし見事である。自らが真っ赤に染まり、夕日に向かい、融けこむように祈る地域の一人ひとりを見るにつけ、単に美しいというだけでなく、自然の崇高さと輪廻を強く感じさせられる。

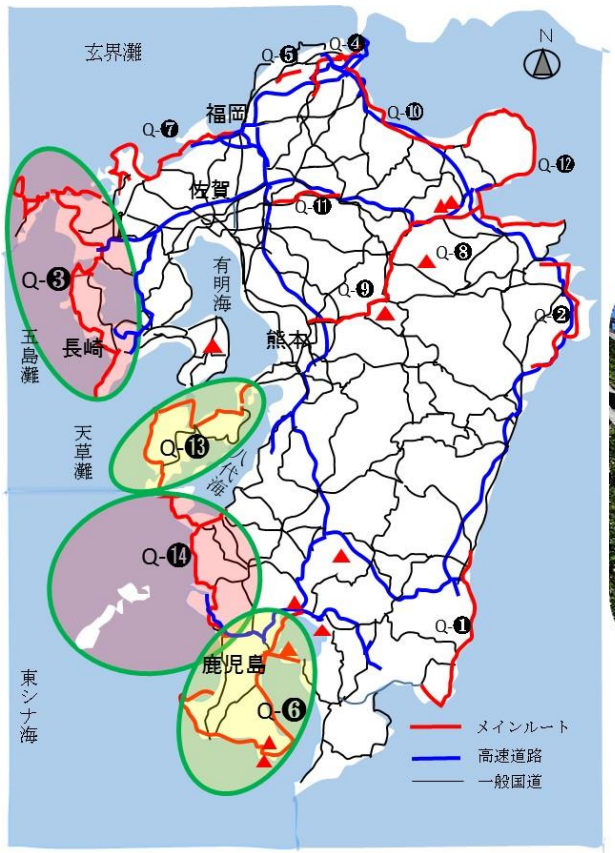
二つ目は、九州西方沖に流れる対馬暖流（黒潮）の影響である。気候は温暖であり、亜熱帯性の植物を各地に見ることができる。温帯が主である日本の各地ではみなれないビロウやソテツ、アコウなどの珍しい植物の自生、群生が目の当たりにできる。ハイビスカス、ブーゲンビリヤ、ジャカランダ、ポインセチア、ひまわりなどと、赤、紫、黄の花々を一段と色鮮やかに愛でることができる。

三つ目は宗教の伝来と信仰である。西洋文明にしても、仏教やキリスト教といった信仰にしても、東シナ海を介する西方からの伝来である。したがって、西九州はこれら文明や宗教を受け入れた窓口であった。

しかし、新たな宗教の伝来・導入は常に困難を伴った。戦国時代に伝えられたキリスト教は、当初こそ大友宗麟、大村純忠などのキリシタン大名をはじめ多くの人々に受け入れられた。ところが、やがて時の権力者と対立。宣教師の国外追放、二十六聖人の磔、農民一揆と結びついた天草島原の乱、信者に対する踏絵・拷問などとなり、それらが世界に例を見ない「隠れキリシタン」を生み出す結果となった。平戸、西彼杵半島、天草、甑島と北から南まで隠れキリシタンの受難の歴史がある。

あるいは、九州南部、特に薩摩では一向宗への厳しい弾圧があり、洞窟に隠れて密かに念仏を唱えるなどの苦難が強いられた。隠れキリシタンならぬ「隠れ念仏」だ。これらから、西九州の旅は殉教の道といえ、巡礼の道を行く風景街道でもある。

四つ目は長大橋である。サンセットラインでつながる4つの風景街道は、いずれも離島、半島を含む。このことから、いくつもの長大橋で海を渡ることとなるが、そのこと自体がまた壮大であり、見ごたえある風景ポイントである。朝日に輝き、再び夕日に映える橋のシルエットはみごとという他はない。




上甑島と中甑島を結ぶ鹿の子大橋（薩摩川内市）Q-⓮

要するに、西九州の旅は他の風景街道と異なり、陸域を巡るだけではすまず、アクセスに注意が必要である。直接的には、長崎、天草空港があるものの、多くは九州本土の空港や新幹線駅の利用が回遊の起点となる。また、島原・長崎と天草間、天草と長島間、および甑島、桜島へはフェリー、高速船による海路を行くこととなり、その運行に十分な注意が必要である。

海を利用した回遊を含むことは、雰囲気を異にする陸・海の双方を満喫する風景街道を行くことである。その意味では、多彩な交通手段でアクセスを組み立てることができ、これに長崎、熊本、鹿児島の世界遺産などを絡めれば、アクセス自体がまた情緒あふれる風景街道となり、九州ならではの特色が創出される。


夕日に映える人形岩（西方海岸、薩摩川内市）Q-⓮


日本二十六聖人（西坂の丘、長崎市）Q-❸

Q-❸ ながさきサンセットロード（ながさき）-隠れキリシタン、教会、長大橋

本風景街道は、南北に細長く、国道２０４、２０２、４８９号などがメインルートである。離島・半島を様々な形の長大橋がつなぎ、それ自体、および隠れキリシタンと教会群、日本一の多島海に沈む夕日の風景が基本テーマである。表情豊かな西海岸のドライブが楽しめる。エリアは、松浦、平戸、西彼杵半島、長崎半島の４ブロックに分けられ、観光地なだけに、世界文化遺産など名だたる地域資源を有し、それぞれで大きな特徴をもっている。駆け足で巡れば次の通りだ。

松浦党の本拠地・松浦は、伊万里湾上に鷹島や福島(1)、さらに「いろは島」が浮かぶ。その中で、鷹島は元寇で島民が皆殺にされ、しばらくは人が済まなかったと伝えられるほどの辛酸をなめた。それを乗り越え現在はモンゴル村がある。沈没した元寇船が眠るわが国唯一の海底遺跡もある。

平戸(2)は、１５９４年にザビエルがキリスト教を伝えた地で、復活した潜伏キリシタン、秘教と化した隠れキリシタンの里である。平戸城(2)や生月島の塩俵の断崖(3)などに寄り道しながら、こじんまりだが色彩鮮やかな教会を巡れば、潜伏キリシタンたちの信仰の強さを思い知ることができる。

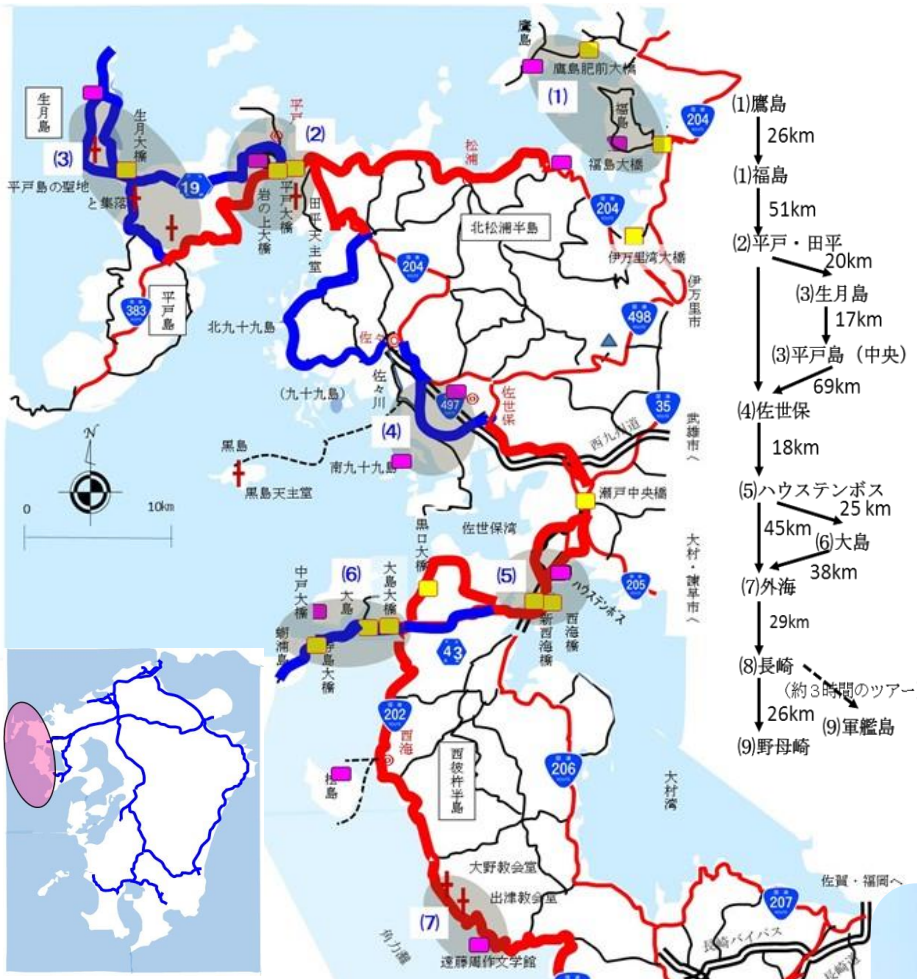
続く佐世保市(4)は海軍のまちである。自衛隊、米軍の艦船が出入りし、産業近代化を支えた佐世保重工の工場群がある。また、主要風景ポイントに２００余の島々からなる九十九島⑪がある。

同じ佐世保市だが、大村湾方向に都心から南下すれば、テーマパーク・ハウステンボス(5)があり、渦潮を新旧の西海橋が跨いでいる。

小高い丘を周回する西彼杵半島は、地平に沈む夕日がきれいだが、遠藤周作が描いた隠れキリシタン達の歴史小説「沈黙」の舞台である。赤貧の中で奮闘したドロ神父の出津、大野教会(7)がつとに有名である。

日本、西洋、中国が混じる異国情緒豊かな斜面都市・長崎(8)は、原爆の街⑬でもある。また二十六聖人が処刑された西坂の丘と共に、「明治の産業遺産」登録の三菱長崎造船所の街でもある。爆心地一帯の平和公園③、出島、石橋、諏訪神社などと見どころにこと欠かない。

長崎半島区域(9)は、世界遺産の海底炭鉱跡の軍艦島や高島があり、また亜熱帯地として一見の価値があることはいうまでもない。




軍艦島（世界遺産、長崎市）


平戸ザビエル記念教会(平戸市)


冬の長崎ランタンフェスティバル（長崎市）


大島大橋（西海市）

Q-⑬ あまくさ風景街道（あまくさ）-ジオパーク、天草の乱、南蛮文化

天草はすべてが島だが、１９６６年に天草五橋が建設された。これで宇土半島、大矢野島、天草上島が繋がり、その後の架橋で天草下島やそれら周辺の島々が数珠つなぎとなった。いまや御所浦島、湯島などの一部を除けば、天草の有人島のほとんどが橋で繋がる。その中で、大矢野島、天草松島、天草上島、天草下島、通詞島、下須島に、御所浦島・牧島を加えたものが「あまくさ風景街道」のエリアだ。

宇土半島の先端に世界文化遺産の三角西港がある。そこを出発して国道２６６号を下り、天草松島で国道３２４号へ進み、そして天草瀬戸大橋をわたり富岡へ。さらに、国道３８９号を南下し、一部県道、市道を通り牛深から下須島の先端に至るルートがメインである。主に天草の西海岸を通過する

本風景街道の重要ポイントは２つだ。その一つが、天草島原の乱と南蛮文化である。１７世紀前半に、若干１６歳のキリシタン少年・天草四朗㉛が率いた農民対武士の戦いがあった。天草上島を緒戦の地とし、下島の本渡、富岡城を経て、島原半島に渡り原城に籠城した。どこか、モーゼに導かれて古代イスラエル人たちが紅海を渡りエジプトを脱出した話に似た感があるが、最後は、３万余の農民たちがことごとく討ち死するという世界で例を見ない悲惨な戦いとなった。

その後、天草南部で隠れキリシタンたちは密かに信仰を続け、明治になり信仰の自由を得て復活。大江、崎津教会を建てた。また北原白秋など明治の若き文学青年達が遣欧少年使節以来の南蛮文学の花を咲かせた。

いま一つは、天草ジオパークである。恐竜やアンモナイトの化石の島・御所浦等、島原湾口のイルカウォッチング、天草西海岸のサンセット、奇岩・奇勝の天草下島の南部沿岸地域、わが国初の海底公園などと見どころが多い。また、天草の陶石は全国の陶磁器の８割とほとんどをまかなう産地であり、加えて多くの陶磁器窯元が天草下島の西海岸地域に集まる。

ルートに沿い主要な風景スポットを示せば図のとおりで、三角から下須島まで海岸線を行く約１５０㎞のドライブである。

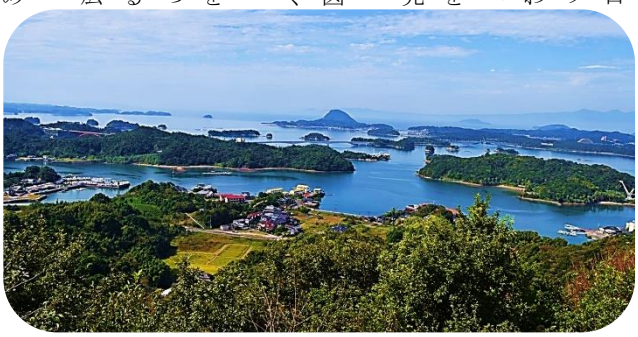
天草１号橋（天門橋）～天草松島間(1)(2)を天草パールラインと呼ぶ。八代海と有明海がつながる景勝地である。天草五橋が架かり、まるで島々を橋で縫い合わせるかのような光景が広がっている。

続いて天草上島の島原湾よりタコ街道を進めば天草の乱緒戦の地があり、そして本渡大橋を渡れば天草市の中心市街地(3)に至る。天草島原の乱の激戦地で、本渡城跡に天草キリシタン館、殉教戦千人塚、珍しい多柱式石橋（国重文）がある。その先の通詞島付近に至ればイルカウォッチングが楽しめ、本風景街道の一大ポイントである。さらに進むと、半島のように突き出た陸繋島が富岡城址(4)に至る。ここでの戦いの後、天草四朗らは坂瀬川の河口から島原にわたった。

天草市の南部は、戦国時代に天草最大の地頭・天草氏の本拠地であった。河内浦城、高浜城、久玉城、大江城などと一門の城が築かれた。西海岸は景勝地(5)や夕陽を望む箇所(5)、(6)が実に多く、大江、崎津など南蛮文化の花が咲いた里である。

その先が牛深港(7)であり、下須島に至る。関西国際空港のデザイナーが手掛けた素晴らしい景観の牛深ハイヤ大橋㉞があり、我が国初の海域公園、強烈なリズムの牛深ハイヤ祭りがある。なお、牛深港からは長島にフェリーがあり、薩摩川内に抜けることもできる。

以上は橋でつながる地区だが、それにつながらないのが御所浦島(8)。島には三角、本渡、棚底、大道の各港からの定期航路、海上タクシーがある。１億万年前の地層から恐竜や貝の化石が多数発見された珍しいジオパークの島々であり必見である。



(2)天草松島と天草５橋の４，５号橋（大矢野島～天草上島）



(6) 大江教会（天草市大江）



(5) 夕日に染まる妙見ヶ浦（天草下島）



Q-⑬ あまくさ風景街道

Q-⓮ 薩摩よりみち風景街道（薩摩）―万羽ツル、武家屋敷、8千万年前の甑島

鹿児島県の薩摩地域のうち、北部の出水市から日置市東市来に至る一帯が本風景街道であり、国道3号、389号と甑島縦断の県道348、349、351号がメインルートである。

本地域は、出水・長島・阿久根地区、薩摩川内地区、いちき串木野・日置地区、および甑島の4地区に大別できる。これらに共通する重要な風景スポットは、大自然であり、江戸時代から続いた地域システム・外城制度とそのため武家屋敷が並ぶ麓のまちである。

大自然は5色に彩られるスペクタクルな内容が堪能できる。その一つは特別記念物「出水平野のツル」(1)だ。冬になると1万羽以上が越冬に飛来し、大群をなして餌をついばみ、群れを成して飛び回る姿は壮観この上ない。3月には、長島の行人岳から、北帰行のツルの大群が上昇気流を利用し舞い上がる姿が俯瞰でき、他では見ることができない光景である。

二つ目は、阿久根から薩摩川内にかけての薩摩西海岸(2)の景観ドライブである。かつての薩摩街道におおむね沿い、篤姫が、頼山陽や西郷隆盛が見たであろう光景が広がる。海は中国大陸へ一直線の東シナ海であり、波が荒く海岸を守るさまざまな工夫や奇岩景勝、そしてシラスが産み出した砂浜を行くこととなる。

三つ目は川内川支流・樋脇川上流のラムサール条約登録湿地・藺牟田池(3)である。いくつもの小火山で囲われたカルデラ湖⑮であり、絶滅危惧種のベッコウトンボがみられる。

四つ目は串木野から日置に至る長大なシラスの吹上浜(4)だ。古い時代の加久藤、霧島、姶良の噴火で海まで押し寄せたシラスの崖⑧や流出砂浜の大パノラマである。

そしていま一つの圧巻がまさに手つかずのままの自然の甑島(5)である。8千万年前からの積層なす鹿島断崖⑦や巨大な奇岩群①、長大なうねりなす長目の浜、上甑島・里のトンボロなどだ。川内港（高速船）または串木野新港（フェリー）から50分ほど行った東シナ海に浮かぶ3島の甑島列島だが、ほどなく橋で全島が繋がる予定である。

後者については、島津藩の半農半士（鹿児島城下の城下士に対し外城士または郷士と称した）たちが築いた「麓」である。幕府の命に従い一国一城を装いながらも、強固な統治・防衛のネットワークを作り出した。明治まで続いたことから、中世の城跡、江戸時代の御仮屋跡や門、武家屋敷が随所に残り、いまでも人々が暮らしている

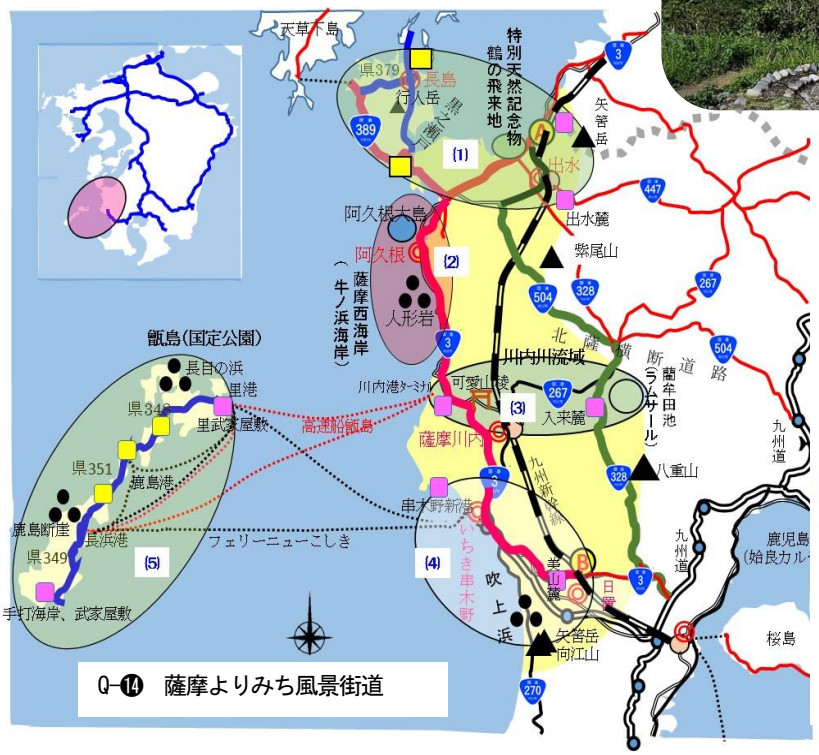
麓の武家屋敷は武家色が強いものから農家に近いものまでさまざまだ。その中で、本風景街道地域において特によく維持されているところは、出水市の麓町や野田麓であり、薩摩川内市の入来麓、高江麓、日置市の美山麓、甑島の上甑・里および下甑・手打などである。入来麓は旧増田家住宅のようにかやぶき屋根の住宅(国重要有形文化財)も見られ、中世から近世初期の趣がある。出水市の麓町は薩摩藩の北端で守りを固めたことから規模が大きい点で特色がある、美山麓（日置市東市来）(4)は、朝鮮陶工を源流とし、その陶工に郷士の資格を与えて集めた薩摩焼の郷であり、特異であり、甑島はトロピカルな武家屋敷である。

以上の他にも、出水市で島津家発祥と関わりがある寺社(1)フラワーロード(1)の長島町、快水浴場100選の阿久根市の阿久根大島(2)への寄り道があり、東郷町の文弥節人形浄瑠璃(3)、いちき串木野市の薩摩藩英国留学生記念館(4)、日置市の島津義久公を祭る徳重神社(4)などと見どころ沢山である。


(1)ツルの飛来(出水市)


(4) さつま焼の郷・美山麓（日置市）


(5) 長目の浜(甑島)





Q-❻ かごしま風景街道（かごしま）－活動続く桜島、激動の明治、秘境の薩南

桜島および薩摩半島一帯をエリアとし、国道２２４、２２５、２２６号をメインルートとするものが「かごしま風景街道」である。

桜島⑨は、今日もなお年間１千回以上の噴火がある。時にはドンと爆発音をたて驚かされ、降灰に悩まされ、これらで明らかなように、本風景街道地域の一帯はいまも火山活動が活発であるが、２万年も３万年も前に遡れば、人吉、加久藤盆地から阿多、さらに鬼界カルデラ付近までが一大地溝であった。それが、阿多カルデラや姶良カルデラなどの火山活動で過去に幾度もの大噴火があり、鹿児島湾（錦江湾）が形成されたといわれている。また、桜島、開聞岳の雄姿がつくられ、池田湖などが生み出された。あるいは、桜島大根など火山灰利用の恩恵や指宿温泉の恵みを受けている。そうした中で、本風景街道を見渡すと、それぞれに特色ある４タイプの地区に分けることができ、それらの回遊が基本である。

第１は、ジオパーク桜島(1)の周回だ。大正の噴火で大隅半島と陸続きとなり、激しい時には入山規制となるものの、通常は鹿児島港からフェリーで渡り、車でもとの島を一周することができる。溶岩なぎさ遊歩道、有村溶岩展望所、黒神埋没鳥居などが見どころだ。そして、湯之平展望所(標高３７３ｍ)があり、そこからは北岳（御岳）、南岳などの荒々しい山々を見上げながら、溶岩原、錦江湾、対岸の鹿児島市などと、３６０度の眺望ができ圧巻である。

第２は、鹿児島市街地とその周辺(2)である。島津斉彬、篤姫、西郷隆盛がキーワードである。江戸の末期から明治にかけて活躍した人たちだが、その足跡と現代をおりまぜつつ、明治の夜明けをテーマにする風景街道となる。鹿児島中央駅から北上すれば、まず駅前広場の「若き薩摩の群像」が目につく。江戸末期に島津藩から海外に羽ばたき活躍した若人たちの像である。

次いで都心近くに至れば、西南戦争の弾痕跡が残る鶴丸城（鹿児島城）跡があり、天璋院篤姫が育った今和泉島津家屋敷跡がある。また、「寄り道　九州の石橋群」で紹介した甲突川の石橋（江戸末期）を保存する石橋記念公園がある。そして見落としてならないのが世界遺産・尚古集成館とそれに続く島津家の別邸仙巌園（別名・磯庭園）である。尚古集成館は江戸末期に島津斉彬が建てた機械工場だが、現在は博物館である。

３つ目は、錦江湾を眺めつつ国道２２５、２２６号を下った薩摩半島の南端の東の指宿区域(3)であり、癒しの中で歴史と自然を巡ることができる。指宿の砂むし温泉で汗を流し、すっきりしたところで、縄文から奈良時代の建物が重層する指宿橋牟礼遺跡や枚聞（ひらき）神社、カルデラ湖の池田湖、ランドマークの開聞岳などを巡るとよい。

合わせて、起伏、奇岩が多い薩摩半島最南端の海岸に沿って車を走らせれば、薩摩半島の西の区域(4)を巡ることとなる。鰹節や焼酎の生産が活発な枕崎を経由し、遣唐使船の寄港地、倭寇や遣明船、薩摩藩の密貿易の拠点で、鑑真が上陸した坊津に至る。さらにたどれば野間半島（陸繋島）となり、そこから南九州市の吹上浜を経て知覧に回り込めば、相星の隠れ念仏洞、薩摩を代表する知覧武家屋敷があり、太平洋戦争で神風と名をはせた特攻隊の資料が展示される特攻平和会館がある。

要するに、鹿児島市から南薩地域に至る沿岸光景を眺めつつ、ジオパークの桜島、中世から明治を繋いだ島津の本拠地鹿児島、南薩東の活火山地域、西の秘境的な自然や歴史の地、南薩の心臓部ともいえる南さつま・南九州地域をめぐることが本風景街道の骨格である。


(4) 知覧の武家屋敷


(3) 開聞岳


(2) 尚古集成館


明治維新を駆け抜けた男・西郷隆盛（西南戦争）

Q-❻ かごしま風景街道

4　山々を越え、ツーリズムを楽しむ九州中央横断

豊予海峡側から有明海側を結ぶ九州の中央横断部は山また山であり、阿蘇や九重、鶴見岳などの火山が立ちはだかる。それにもかかわらず、人々は早い時代から九州を横断する道路をこの地で整備してきた。その理由にいくつかのことが思い浮かぶ。まずは、山とはいえ、一部を除けば、二章の2節に述べるように、さほど高く急峻な山でなく、盆地や高原が広がることが挙げられる。つまり、豊富な山の恵みがあり、耕すべき土地があり、人々が暮らす上で問題がないことが挙げられる。また、火山の噴火は恐ろしいが、その反面で温泉、暖かな地熱など、他の地域では手に入りにくい自然資源があり、ヒューマンスケールを超える優れた光景がある。これらから、本地域がたとえ山間地であっても、その魅力に多くの人々が惹きつけられ、随所に集落が発達し、道の整備があったといえる。

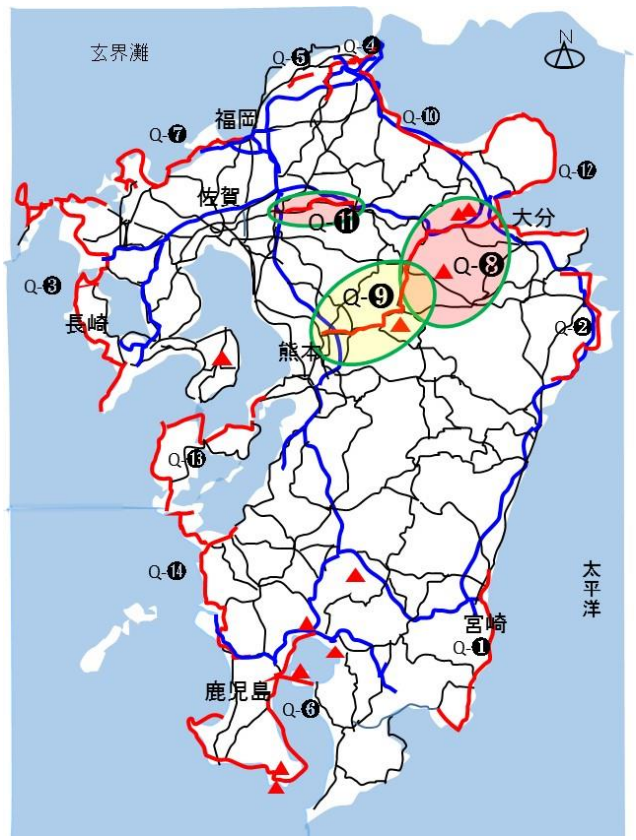
具体的なこととして、地域の道で主要といえるものを上げれば、3つの路線がある。一つは、江戸時代の初めに、熊本藩の加藤清正が、肥後国熊本～豊後国鶴崎間で切り拓いた横断の道・豊後街道（肥後街道）②である。熊本城の札ノ辻から、大津、阿蘇、久住を経て大分市の鶴崎に至り、そこから海路を行くものである。むろん、これは、当時の交通手段からすれば、熊本から江戸に向かう上で必然的に望まれ、作り出されるルートである。

二つ目は、江戸幕府が、天領日田に「西国代官所」を置き、九州諸藩の動静監視を行ったことに伴い整備された道路網である。日田を起点に、日田往還が九州の各地に向けて整備された。甘木・山家、田主丸・久留米、豊後森・別府、小国・熊本、耶馬渓・中津などの各方面に向かう諸ルートがある。これらを利用して、九州各地との活発な往来があり、これに伴い、例えば日田市の広瀬淡窓の私塾・咸宜園に全国から逸材が集まり、あるいは草野、吉井町などが繁栄した。

そして三つ目は、観光や癒しなどに伴う多彩な道の発達である。九州横断の道筋にある一連の火山は活火山だが、特に阿蘇はいまに至るも噴煙を上げている。このことから、地域一帯に温泉が多く湧き出し、各所にリゾート地、別荘地が展開され点在している。さらに、火山が作り出した山々は、九州本土の最高峰（九重連山の中岳）であり、剛柔それぞれの景観を生み出し、信仰の対象でさえある。これらから、保養・観光はむろんのこと、信仰や修験の場が各地に存在し、山登りなどスポーツの場がある。だからこそ国内外から、季節を問わず、多くの人々が訪れ、そこに道の発達があった。

特に、戦後の車社会の到来に際して、いち早く有料道路「やまなみハイウェイ」が整備された（1964年）。標高は湯布院で450mであり、最も高い牧ノ戸峠で1340mだが、この道の開通で九重・阿蘇地域に多くの観光客が押し寄せるようになった。そして、有料道路は予定通り無料化され、また域内の国道、県道や林道の整備が急速に進んだ。今では、週末や休日ともなれば、高原の中を颯爽と、バイクによるツーリングや、車によるドライビングを楽しみ、あるいはグリーンツーリズムや山登りをする人が多く集まる状況である。中には草原の原風景や野焼きの見学などを楽しむ人もいる。

要するに、九州中央部は山地だが、自然と人の手による日常・非日常に及ぶ多彩な地域資源がある。その中で、九州の東西を結びつけ、縦横に張り巡らした道路網の発達があり、それらが今日の同地域における国道、県道網をなす。そして、これをもとにしたものが、**❽「やまなみ」**、**❾「阿蘇くまもと路」**、**⓫「みどりの里」**の3風景街道である。それぞれに別府・湯布院・九重地区、阿蘇・熊本地区、うきは・久留米地区の個性ある地域で構成されている。各地の歴史をたどり、心身をいやし、山苞の恩恵にあずかりながら、横断の道を活用して個々の風景街道を巡るもよし、繋ぐもよしの風景街道の旅になるであろう。





噴煙上げる活火山・阿蘇の中岳(阿蘇市)



極彩色の専念寺（久留米市草野町）

Q-❽九州横断の道やまなみハイウェイ(やまなみ)－別府湯布院・久住高原・岡城

九重連山、由布岳を主に、九州の尾根を行く風景街道が「九州横断のやまなみハイウェイ」である。メインルートは図示のとおりで、基本は県道11号であり、その一部区間(由布市水分峠～阿蘇市一の宮間)が「やまなみハイウェイ」である。ドライブウェイとして九州で最も人気がある。

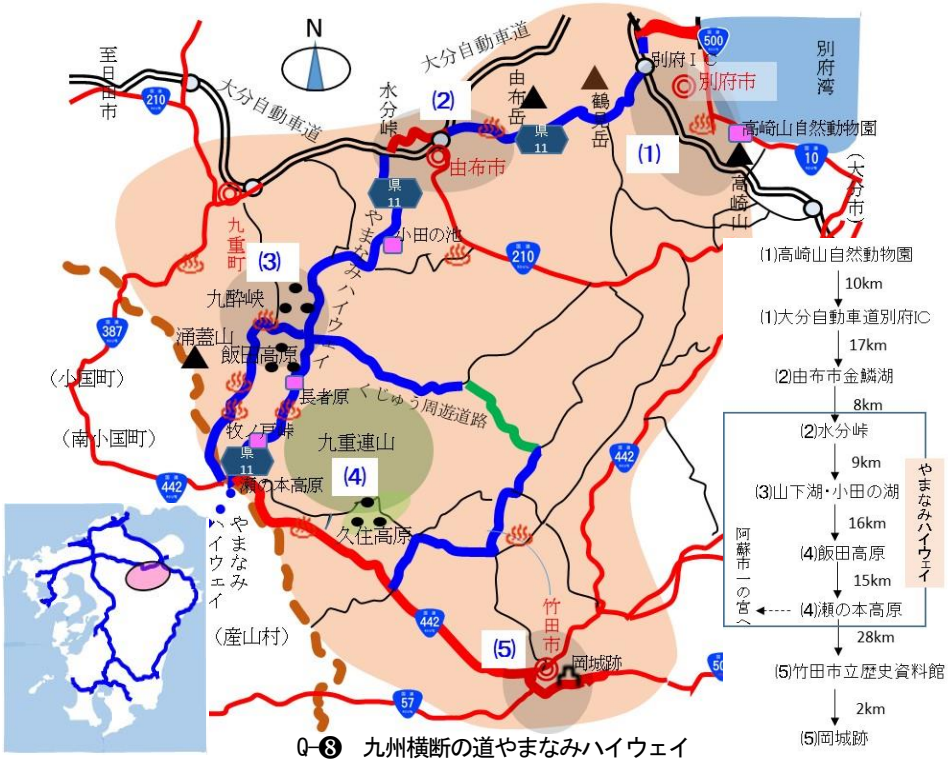
風景街道エリアは図に着色する範囲だが、主要な箇所は、別府、湯布院、九重、竹田の4地区に大別できる。これらすべてに共通する事項は、わが国随一の温泉地帯であり、図に描き切れないほど多くの温泉があることだ。いうまでもなくそれらは火山によるものだが、大まかにいえば、鶴見岳、由布岳の周りの別府、由布院、塚原、湯平などと、九重連山の周りの長者原、筋湯、川底、宝泉、七里田、長湯、筌ノ口、赤川などの各温泉に大別できる。

さて、別府地区(1)は、鶴見岳の噴火や地震で土砂災害が多発。それが別府湾に流れ出してできた扇状地である。温泉は奈良時代に遡り、江戸時代には明礬が盛んに採れた。

また、別府駅前広場に手を広げた油屋熊八（宇和島市出身）の像がある。現在の別府観光は、その熊八の功績によることが大きい。1925年、富士山山頂に「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」の看板を立てるなど、アイディアと行動力で別府観光事業を推進したあるいは、湯布院(2)に田園型の保養地を築いたのも彼である。

別府(1)は、市街地周辺に展開する八湯めぐりと地獄めぐりが主である。これに近代化産業遺産認定（2009年）の竹瓦温泉、現存する最古の竹瓦小路木造アーケードとその周辺のまち歩きを加えることができる。

一方、湯布院は、由布岳の麓の金鱗湖(大分川源流の一つ)を周遊し、そこから湯の坪通りや小川をめぐれば、熊八が目指した田園豊かな別府の奥座敷を十分に満喫でき、癒される。



Q-❽　九州横断の道やまなみハイウェイ


(4)久住山等の九重連山


(2)由布岳の麓の金鱗湖(由布市)

九重地区(3)、(4)は、いうまでもなく九州本土最高峰の山々からなる九重連山一帯の高原である。湯布院側からならば水分峠で、阿蘇の大観峰からならば瀬の本高原を経てやまなみハイウェイ(県道11号)に入ることができ、また九重連山を周回する道が整備されている。

高原の風を受け、黒岳、涌蓋山、三股山、星生山、中岳など、九重の山々を眺めつつ飯田高原、タデ原湿原⑭（ラムサール）、瀬の本高原、久住高原をドライブすることがお薦めだ。途中の小田の池は数少ない天然の池であり、日本の湿地百選に選ばれている。飯田高原、牧ノ戸や長者原なども眺望がよく、山々と高原の絵を描く思いの風景である。

なお、JR豊後中村駅からやまなみハイウェイへ行くときは、飯田高原に登る途中に九酔峡、九重「夢」大吊橋（日本一の歩道専用吊橋）がある。秋の紅葉狩りが有名で、曲りくねる道路「十三曲がり」からの眺めは大変きれいだ。加えて、本ルートも別府・湯布院に劣らず温泉が多く、打たせ湯など湯治に十分ひたることができる。

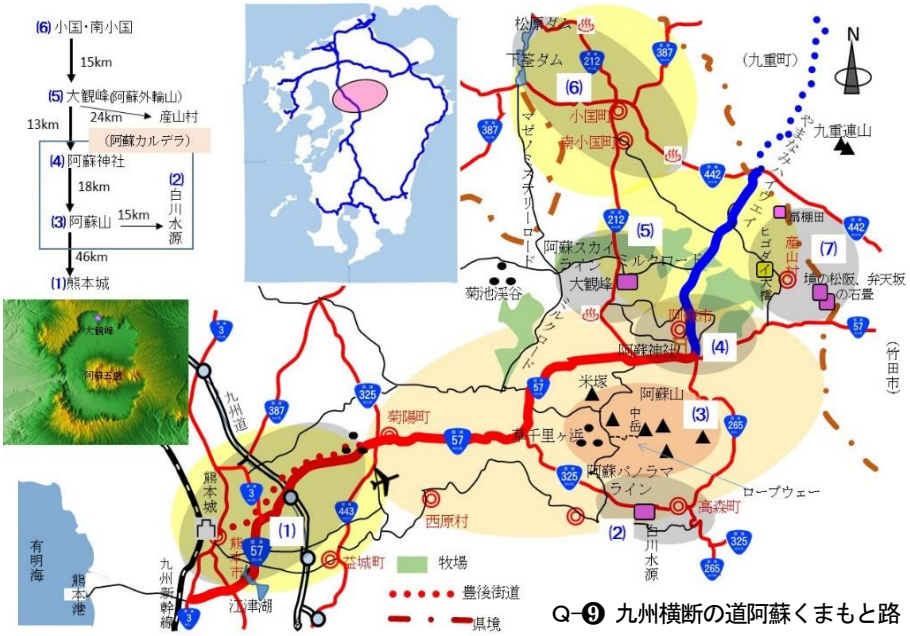
久住高原から竹田に回り込めば、滝廉太郎の「荒城の月」で有名な岡城跡㉙があり、その麓は風情が残る静かな城下町である。滝廉太郎記念館、観音寺十六羅漢(国重文)、旧竹田（ちくでん）荘（江戸時代後期の画家、田能村竹田の生家、国史跡）がある。あるいは、長湯に足を延ばせば、炭酸の濃度が高く茶褐色の湯で有名な長湯温泉があり、祖母山の滝、河宇田湧水などの竹田湧水群、森林の中の名水に恵まれたグリーンツーリズムを楽しむことができる。

Q-❾ 九州横断の道阿蘇くまもと路（くまもと路）

―熊本城下町、阿蘇山、豊後街道

「くまもと路」は、前出の風景街道「やまなみ」とやまなみハイウェイで繋がり、両者をまたいで周回する人が多いものの、ここでは「くまもと路」のみに限定すれば、国道５７号とやまなみハイウェイ（県道１１号）がメインロードである。

熊本県下の小国・南小国・産山（うぶやま）地域(6)(7)、噴煙挙げる阿蘇五岳と阿蘇のまち、カルデラ一帯と外輪山(2)(3)(4)(5)、および熊本城とその城下町(1)の３地区が風景エリアの基本だが、前２者は阿蘇国立公園に含まれ、大自然や火山と共生する人々の暮らしを巡ることとなる。３つ目の熊本は、いまなお清正公（せいしょうこう）様と親しまれる加藤清正の手による豊後街道と熊本城を訪ねる風景である。



Q-❾ 九州横断の道阿蘇くまもと路

まずは小国・南小国(6)だが、本地区はやまなみハイウェイの瀬の本で、国道４４２号（日田往還）、２１２号を通り日田に抜ける途中にあり、森林セラピーロードである。その中で小国は、北里柴三郎（破傷風研究で有名な日本細菌学の父といわれる医学者）の出身地で、その生家および旧居宅が残されている。また、杖立温泉と下筌・松原ダムがあるが、ダムは、建設に際し、山林主による蜂の巣城を築いての有名な反対闘争があり、竣工まで１５年を要する争いがあった。また南小国町は、黒川温泉をはじめ、多くの温泉が山々の中で静かに湯煙をあげている。


(1) 水前寺公園(熊本市)


(4) 阿蘇神社一の宮神社（国重文、阿蘇市）


(6)黒川温泉(南小国町)

逆に、やまなみハイウェイに戻って南下し、あるいは大観峰から西に向かい産山村役場方向(7)に寄り道すれば、ヒゴダイ大橋があり、豊後街道の「境の松阪の石畳」②「弁天坂の石畳」がみられる。石の舗装に加え、側溝がある優れた豊後街道の名残を満喫することができる。


(3) 阿蘇草千里

瀬の本からやまなみハイウェイを進み、そして南小国から国道２１２号を南下すると、阿蘇外輪山にそっていくつもの牧場に遭遇し、それを縫うようにミルクロードがある。また、その中途に大観峰(5)があり、そこから世界有数の規模を誇るカルデラおよび噴煙上げる阿蘇火山が眺望でき、九州最大といってよい必見の風景ポイントである。

その後は世界ジオパークの認定地・阿蘇(2)(3)(4)を走り回ればよいが、これこそ本風景街道の本舞台である。火振り神事で有名な阿蘇神社（肥後国一の宮）、米塚（杵島岳の孫火山。米俵を積んだ姿をなす）、草千里（火口跡の草原）、火口を抱く中岳を巡るスペクタクルなドライブが満喫できる。また、阿蘇を挟んで大観峰と反対の南阿蘇に回れば、透明度が極めて高く、神秘な白川水源(2)に至る。

阿蘇から、熊本城(1)へは、国道５７号の旧道・豊後街道である。阿蘇市二重峠～大津の清正公道、大津～熊本の大津街道を通るが、石畳、杉並木、里数木が残る。

熊本城（国史跡）㉚は、日本三大名城の一つで、清正流石積みの上に天守閣や御殿が並ぶように建てられている。一方、城下町は歴史の宝庫だ。旧細川刑部邸、夏目漱石内坪井旧居、小泉八雲旧居がある。水前寺成趣園（桃山式回遊庭園。水前寺公園ともいう）や緑川水系加瀬川が膨張してできた江津湖、相撲の家元・吉田司家、熊本市最古の健軍神社などが風景ポイントだ。

Q-⓫　みどりの里・耳納風景街道（みどりの里）

-耳納連山、桜・ハゼの並木、つつじ・つばき園

地図を広げると、耳納連山を構成する高良山、兜山、発心山、鷹取山などが東西に線状に並ぶことに気付くであろう。これは。山々が水縄（みのう）断層（１０本ほどの断層群）に沿うことによる。断層は活断層だが、最も新しい活動は日本書紀に起債される筑紫地震（６７９年）で、かなり古い。北側が１ｍほど落ち込む正断層で、南側の緩やかな山地に対し、北側は急をなす。

本風景街道はこの北側斜面と筑後川で挟まれた区域に展開する。山裾に国道２１０号が、その少し上を県道１５１号が東西に貫通。それらがメインロードである。九州自動車道の久留米ＩＣを降りた直ぐの久留米市御井・山本町から草野・田主丸、うきは市の吉井・浮羽の一帯がエリアだ。中でも国道２１０号と耳納連山の尾根筋（ドライブ可能な耳納スカイラインが走る）の間がコアであり、国道の北側・筑後川沿いは水田⑩が広がっている。

エリア内をたどれば、山裾で植木の栽培が活発である。あじさい寺(1)やつつじ園(1)、紅葉寺(2)桜の名所(2)、つばき館(3)、彼岸花の畦道(6)と百花繚乱であり、あるいは、ハゼ並木(2)、銀杏並木、野生のツバキや紅葉が四季折々に彩り鮮やかである。加えて、果樹栽培も盛んで(3)(4)ブドウ（巨峰）、ナシ、柿が有名。したがって、本地域は樹木のある色彩豊かな中山間地の風景であり、野趣あふれる田舎の並木道、手入れが行き届いた果樹園、造園の木々を存分に楽しむことができ、他にない特色があり、名の通り自然と人の手による「みどりの里」そのものである。

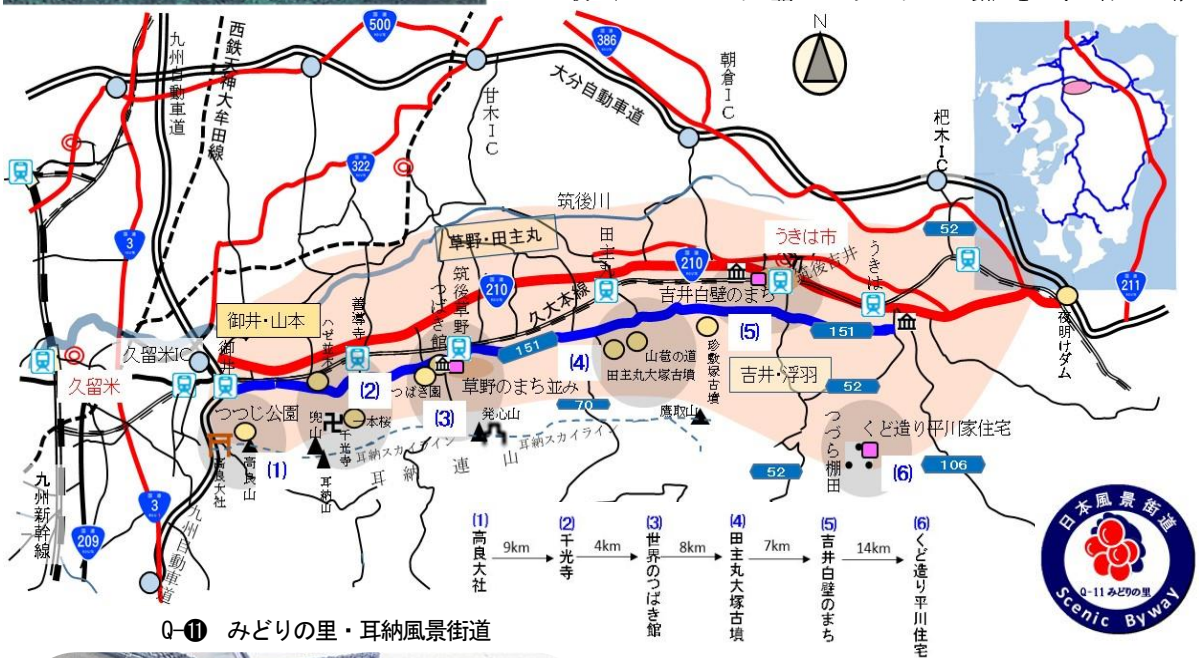
一方で、古代豪族の巨大な前方後円墳や装飾古墳(3)(4)(5)があり、全域に由緒ある神社が点在する。これは、かつて草野一族が支配(3)し、のちに日田を拠点に精蝋業で財を成した歴史と、日田と久留米を結ぶ日田往還（県道１５１号）があったことによる。吉井の白壁通り(5)や草野の街並み(3)はその象徴であり、地方にあってきらびやかな文明の花が開いた歴史街道でもある。


（6）くど造り平川家住宅


（2）久留米市世界つつじセンタ


耳納スカイライン

あるいは、本風景街道の特異性を売りにすれば、夏目漱石と火野葦平があげられる。かつて第五高等学校に勤めた夏目漱石は、久留米をしばしば訪問。その際、耳納連山を歩き、多くの句を残し、その体験が小説「草枕」となった。



Q-⓫　みどりの里・耳納風景街道


(5)吉井白壁通り(うきは市吉井町)

一方、「田主丸」はカッパ伝説が多く、街ン中に様々な河童が飾られている。そこに乗り込んだのが火野葦平である。北九州から通い、２００を超えるカッパ小説をものにした。


火野葦平と鯉とりマーシャンの上村政雄氏

寄り道　重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）

城下町や宿場町、門前町、港町、農村、漁村などで、伝統的な建造物群、およびこれと一体の環境を保存するために、市町村は、都市計画（都市計画区域および準都市計画区域内）または条例（都市計画区域等以外の区域）で「伝統的建造物群保存地区」を定めることができる。その中で、特に価値が高いものが、文化財保護法に基づいて選定された「重要伝統的建造物群保存地区」で、重伝建地区または重伝建と略称している。

重伝建の選定基準には3点がある。「地区全体として意匠的に優秀なこと」、「建造物群・地割が旧態をよく保持していること」、および「建造物群・周囲環境の地域的特色が顕著なこと」のいずれかである。

全国で見れば、２０１６年現在で、９２市町村から１１２の地区が選定されている。その中で、九州からは表に示す１６市町村、２０地区が選ばれている。全国の１８％を占め、ある程度の集積があり、本文で説明した歴史的経緯からすれば当然であろう。

規模の目安に1地区当たりの面積は表に示すとおりであるが、それらの平均面積で見ると、全国の３４haに対し、九州は２２haである。どちらかといえば小規模なものが多い。

県別には、熊本を除く各県で1～5地区が選定されている。町の種類別では、商家町3、在郷町2または3、港町4または5、山村集落2である。他は城下町、製磁町、醸造町の各1である。鹿児島県はいずれも「麓」の武家屋敷で、長崎は港町が主である。

選定理由は、多くが「建造物群・地割が旧態をよく保持する」である。次ぎが、「地域的特色が顕著」だ。特異なものに、意匠的な優秀さを理由にした鹿島市の八本木宿（多良往還）の酒蔵が並ぶ醸造町、江戸時代から続く有田町有田内山の製磁の町がある。

風景街道との関係は、表最右欄に示す通りであり、直接的には9地区が含まれている。これらの他にも5地区が風景街道地域に近接した位置にあり、寄り道することが可能である。

県	自治体	地区名	町種別	選定	理由	面積ha	風景街道
福岡	八女市	八女福島	商家	H14.5	二	19.8	⓫近接
	八女市	黒木	在郷	H21.6	三三	18.4	⓫近接
	うきは市	筑後吉井	在郷	H8.12	二	20.7	⓫
	うきは市	新川田篭	山村集落	H24.7	二	71.2	⓫
	朝倉市	秋月	城下	H10.4	二	58.6	⓫近接
佐賀	鹿島市	浜金屋町	港・在郷	H18.7	二	2.0	
	鹿島市	八本木宿	醸造	H18.7	一	6.7	
	嬉野市	塩田津	商家	H17.12	二	12.8	
	有田町	有田内山	製磁	H3,4	三	15.9	❸近接
長崎	長崎市	東山手	港	H3.4	二	7.5	❸
	長崎市	南山手	港	H3.4	二二	17.0	❸
	平戸市	大島村神浦	港	H20.6	二	21.2	❸
	雲仙市	神代小路	武家	H17.7	二	9.8	
大分	日田市	豆田町	商家	H16.12	二	10.7	❽近接
宮崎	日南市	飫肥	武家	S52.5	二	19.8	❶
	日向市	美々津	港	S61.12	二	7.2	
	椎葉村	利根川	山村集落	H10.12	三	39.9	
鹿児島	出水市	出水麓	武家	H7.12	二	43.8	⓮
	薩摩川内	入来麓	武家	H15.12	二二	19.2	⓮
	南九州市	知覧	武家	S56.11	二	18.6	❻

注1）理由（選定基準）
一　伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀
二　伝統的建造物群、地割がよく旧態を保持
三　伝統的建造物群、周囲環境の地域的特色が顕著
注2）近接とは、当該風景街道に近く、寄り道ができることを意味する
注3）在郷：江戸期、城下町、主要都市の近郊にできた都市・村落の中間的な町

5　風景街道をつなぎ長期回遊のプランを組立てる

アメリカのシーニック・バイウェイやドイツ各地の休暇街道、さらにはイギリスのドライブルート、フランスの最も美しい村めぐりなど、各国、各地でドライブが活発である。それらの距離をみると、２００～４００㎞とかなり長距離だが、これはヴァケーションなどで、宿泊しつつ家族と一緒に数日あるいはそれ以上の日数をかけて旅を楽しむことに由来している。

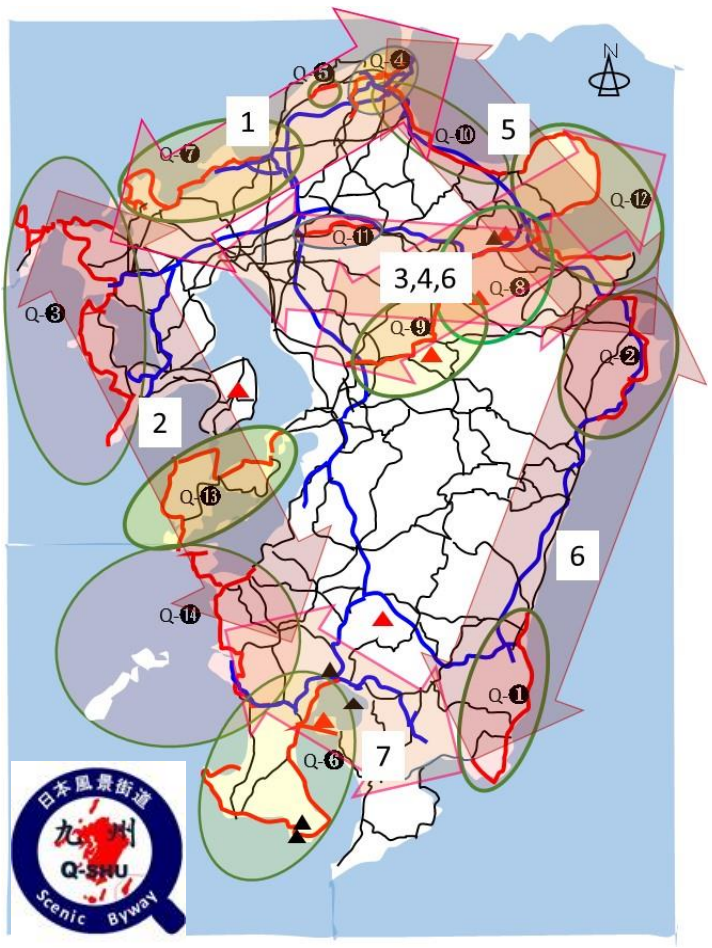
一方、わが国でも、夏休みや大型の連休、盆・正月などを利用して、さらには定年後のゆとりを利用して、長期にわたり旅を楽しむ人達が増えている。

これらを踏まえると、風景街道も日帰りや1日、2日の旅というだけではない。より長期に旅を楽しむケースも一層望まれる。幸いに、九州の１４ルートに及ぶ諸風景街道は隣接する道筋を合わせ、テーマを設定して風景街道を繋ぐことが可能であり、これまた九州が多彩であることの特徴である。したがって、参考までに、数百㎞の回遊を念頭に置きながら、また、高速道路の利用も考慮して、事例に思いつくところを羅列すれば次のとおりである（図参照）。

1　北部の❹「北九おもてなし」、❺「むなかた」、❼「玄界灘」は、防人が守りについた万葉の道である。遣唐使の道、元寇との戦いの道、朝鮮を攻めるため豊臣秀吉が通り抜けた名護屋城への道である。いわば、古代、中世にアジアとの絆をつないだ重要な道であり、近世では参勤交代の道として唐津街道が発達した。したがって、黒田の殿様、唐津の殿様などになったつもりで、宿場めぐりと歴史および自然の沿岸風景を交互に繋ぎ巡ることは、まさにドイツの休暇街道に匹敵し、**「ドラマが多い極東アジアの歴史街道」**をなすであろう。

2　❸「ながさき」と⓭「あまくさ」を合わせた風景街道がまた一つに繋がることで重要な意味を持つ。すなわち、十二使徒の一人、聖ヤコブがエルサレムで殉教の後、スペインのガリシアまで運ばれて埋葬されたといわれている。それが現在のサンティアゴ・デ・コンポステーラ（ガリシア州の州都）大聖堂の位置とされ、このことから、フランスやポルトガルなどからそこをめざす巡礼路（サンティアゴの道、世界遺産）がある。これに匹敵するのが、わが国では、キリスト教伝来の地・平戸から、外海の沈黙のキリシタンの地、県都・長崎市の２６聖人処刑の地・西坂の丘や大浦天主堂などの教会群、その関連遺産をたどる道である。加えて天草島原の乱がある。これらを繋げば、教会群、隠れキリシタン、大規模な農民一揆といった**「壮大なキリシタン巡礼の道」**ができあがる。九州どころか、世界にも例を見ない受難と復活の道を歩んだ街道だが、海路（フェリー）によらざるを得ない島原湾を除けば、島々と半島は長大橋で繋がっている。

3　九州横断の道❽「やまなみ」と❾「阿蘇くまもと路」は、阿蘇、九重といった火山をポイントに繋いだ２つのリングをなし、野焼きという九州の山々の暮らしの原風景を共有している。また、代々の熊本藩主が駕籠にゆられた参勤交代の道、勝海舟、坂本龍馬が駆け抜けた道②、そして現代では小中学生



テーマに基づいて風景街道をつなぎ九州をドライブする

が鍛錬にとたどる肥後や豊後への道②の串刺しである。これら両者の風景ポイントの並べ方により、休暇街道型にもSB型にもなる。九州ならではの**「活火山を巡り、高原を走る風景街道」**だが、温泉につかりながらの好みに応じたマイ風景街道の組み立てが可能である。

4 ⓫「みどりの里」と❽「やまなみ」がまた大分自動車道および国道２１０号で一つなぎである。このことから、いま一つの九州横断の道が出来上がる。別府、湯布院、日田、うきは、久留米とめぐれば、山の幸、温泉保養の癒しの旅となる。あるいは、秋月から、久留米から、中津からと、幕府直轄領・日田代官所への歴史街道「日田往還」を行くことができ、中にはその走破を目指す人もいる。幕末に広瀬淡窓が私塾咸宜園を開設し、高野長英が、大村益次郎がと、日本中から塾生が集結した。このことに習い、二十一世紀の困難な時代に、今一度訪れ、**「九州の創成を咸宜園で考える風景街道」**の組み立ても意義があるだろう。

5 ❿「豊の国」、⓬「別府湾岸」は、豊予海峡に面した東九州の北部に位置し、東九州自動車道、国道１０号に沿う。中国道と西海道を陸、海で結ぶ交通の要所として重要な役割を果たしてきた。また、これらを巡れば、小倉、中津、国東半島、別府・大分をつなぎ、瀬戸内海国立公園西端を行くこととなる。このことから、**「周防灘、豊予海峡沿岸をぐるりまわる風景街道」**が創成できる。

6 ❷「日豊海岸」は、大分自動車道と東九州自動車道のつながりや、❽「やまなみ」の一部竹田地区に繋がる。このことから、海の幸、山の幸の双方を満喫する欲張りの旅も考えられる。あるいは、同じ東九州の南北を結ぶ東九州自動車道で、海面に映える❷「日豊海岸」と❶「日南海岸」をつなぐことも十分にありえる。南海トラフでのフィリピン海プレートの沈み込みが、様々な地形、地質をもたらしている。複雑な地形を成す日豊のリアス式海岸、一直線の宮崎層群、複雑な奇岩が続く日南層群などと海とが織りなす風景を十分に楽しむことができる。これらは、いわば**「九州イーストコーストを行く風景街道」**である。キラキラと光る太平洋の海と押し寄せる宮崎層が織りなす壮大な景観をながめながらのドライブである。

7 ❻「鹿児島」と⓮「薩摩」は、江戸時代、ともに薩摩藩(島津藩)であった。このことから、両者を合わせて、独特の薩摩文化、麓文化に彩られる南九州の旅がある。あるいは、渡り鳥ツルの楽園出水平野、手つかずの自然が残る甑島、長大な吹上浜、いまも噴煙を上げ続ける桜島、巨大なカルデラ湾の錦江湾（鹿児島湾）などがあり、一億年前からのビックなジオパークをつなぐ風景街道が心行くまで満喫することができる。南九州において**「大自然の中で薩摩隼人の国を行く風景街道」**である。

テーマ別には、国立公園、国定公園やジオパーク、ラムサール登録地を巡ることも十分に考えられる。また、旧道、山道を含むが、唐津街道や長崎街道、日向街道、豊後・肥後街道、薩摩街道、飫肥街道、日田往還などといった歴史街道を歩くことができ、それぞれの城巡り、寺社巡り、巡礼の道がある。九州に分布する世界遺産、その候補地を巡ることも意味があり、九州の歴史、人の歴史をたどる風景街道となるであろう。

さらにいえば、１４ルートを要素にして、外国人に人気の高い長崎～大分と九州を完全横断する旅（❸、⓫、❽または⓭）、東九州道全通に合わせた東九州南北を結ぶ旅（⓾、⓬、❷、❶）、世界遺産と離島半島が主体の九州西海岸を巡る旅（❸、⓭、⓮）が考えられる。九州最南端の佐多岬、南方交易の拠点であった薩摩半島、隔離された自然と歴史の甑島めぐりは、日常経験できない旅のつながりである。場合によっては、日韓でアリラン祭が行われている現実を踏まえ、韓国の釜山を含めた壱岐、対馬、❹北九州を結ぶ朝鮮通信の道、壱岐、対馬、❼玄界灘の魏志倭人伝の道もある。

変わったところでは、九州の亜熱帯地域を巡る旅として、❶日南、❻かごしま、⓮薩摩、⓭あまくさ、❸ながさきの南半分を連ねることも。つまり、大げさだが、車とフェリーを乗り継ぎ、気候変動を実感する旅である。

以上はあくまで参考である。風景街道を考える上で最も基本となるものは地域の資源。このため、自然や暮らしの軌跡などの有無や内容が風景街道の良し悪しを左右するといってよい。幸いなことに、九州には、地形、地質、動植物などで、極めて多様な資源があり、これに季節に応じた多彩な気候、風土が組み合わさって、それこそ四季に富むさまざまな風景が産みだされている。加えて、三章で明らかにしたように、長い時間と変化に富む空間の中で、九州人が構築してきたものがある。その典型が、城下町や宿場まち、港まちであり、人が歩んだ歴史や文化、風習、産業、暮らしの道とその物語である。

したがって、九州の風景街道は、提案ルートにこだわる必要はない。本書と個別のガイドブックを参考に、興味に応じ多彩な「マイ風景街道」の組み立てが可能だ。その意味で、皆さんの手で個々の提案ができ、それ自体がまた九州の風景街道である。



大観峰から見た阿蘇カルデラにおける人の暮らしと火山の風景（阿蘇市）



海岸を埋め立て建設された新都市・シーサイド百道地区の風景(福岡市)

さまざまな自然環境の中で、神話の世界から現代まで、演じられたドラマで七色に輝く九州人の風景街道





仲哀天皇、神功皇后(左)を祀る香椎宮(下)（福岡市）





平安後期～鎌倉時代の彫刻といわれる臼杵磨崖仏(国の特別史跡、国宝)（臼杵市）



平安時代、九州に左遷されたが、今や学問の神と崇められる菅原道真と太宰府天満宮（太宰府市）



戦国時代から江戸初期、九州平定に活躍した武将で、福岡藩祖の黒田官兵衛（如水）



幕末、わが国の近代化に努力し、また人材を育てた島津斉彬（島津藩第 11 代藩主）



「学問のすすめ」を著し、慶応義塾を創設。１万円札で馴染みの福沢諭吉（中津市）



後書き

九州七県の１４ルートそれぞれで、ルートごとの協議会から、何がルートの売りであり、みどころは何かを明らかにするパンフレットや、アピールする地域資源がどこにあるか、そのアクセスを示す地図が編纂され発行されている。あるいは、稀に見る自然や自慢の地域話、お奨めの特産品の紹介があり、集客を図るイベントや活動内容に焦点をあてた宣伝がある。どれも有用で、こうしたことはルート協議会の活動であり、今後も大いに期待される。それでもガイドブックを作製したことは、九州の風景街道の本来の狙いが未だ十分にかつ広く浸透していないとの思いにあった。

風景街道は、観光など、経済活動を主にした地域交流を目指すだけでない。地域の人々と、域外から来訪する者が一緒になり、地域のことを幅広く考え、地域の活動をより活発にすることに大きな意義がある。そのためには、より多くの人々が交流し、地域について、いいも悪いもさらけ出し、ありのままを語ることだ。このことから、あまりにも細部にわたることは避けつつ、何が風景街道か、その中で地域資源の諸内容がどういった意味をもち、どうつながり、どこをどう巡ればよいか、その上での地域魅力の向上や活力をどう図るかも大切な課題である。

そこで、地域とある程度関わりがあり、九州の風景街道に理解ある人たちで編纂委員会を構成し、シリーズとしてルート別ガイドブックを分担執筆した。地域の人々にとって、風景街道の意義のもとでのルートの構築と運営を検討し、推進に役立てることができよう。一方、来訪者には、価値観が異なる地域の資源をどう解釈するか、その実情を探る資源内容と、つながりをもつルートを解き明かすもので、地域巡りの羅針盤となるだろう。

併せて本篇は、九州がどんな自然環境にあるか、その中で人々がどのように苦闘し軌跡を描いて暮らしてきたかを述べた。いわば、九州の自然・歴史および人々の暮らしを概観し、風景街道の視点で各ルートを九州全体で意味付けた。

本文で述べたように、１４ルートは、共通点もあるが、それぞれに追加される特色もある。これらに固有のおもてなしを含めれば、どれ一つをとっても同じはない。七県七色で、その一つ一つに磨きをかけ、オンリーワンの風景街道として輝き、地域施策の推進に役立てることが可能である。本篇が、ルート別ガイドブックと共に、その検討の一助になることを願っている。また、来訪者には、各ルートに興味を抱き、それぞれの風景街道の組み立てと回遊に役立てることを期待する。

最後に、本シリーズの刊行にあたり、ルート協議会、関係諸氏、関係諸団体や国・地方の行政機関に、情報の提供などで大変お世話になった。記して謝意を表する。

平成二八年十月一日　九州から

ルートガイド編纂委員会委員一同

九州風景街道ガイドブック総集編

人のくに、美のくに九州　　Q-SHU　九州の風景街道

平成 28 年 10 月 1 日　　改訂版第 1 刷発

著　者　　ルートガイド編纂委員会：樗木武、堤昌文、玉川孝道、吉竹哲信、桝谷秀秋
九州の風景街道担当（文責）：樗木　武

発　行　九州風景街道推進会議
事務局（九州地方整備局道路計画第二課内）

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。